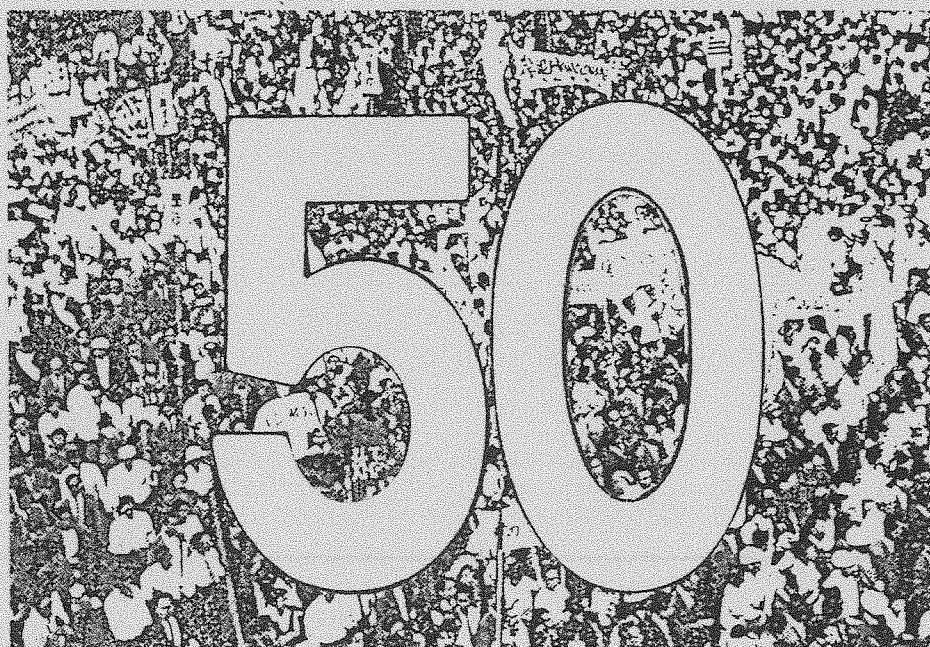


あいち労働・経済資料と情報-8・9号

戦後五〇年・

年表で綴る

あいちの労働運動



愛知労働問題研究所

座 談 会

戦後 50 年の愛知労働運動

出席者 荒川 次郎（元愛知産別会議書記）

阿部 精六（愛労連事務局長）

中原東四郎（元愛知統一労組懇代表委員）

伊藤 欽次（元自治労愛知県本部書記長）

司 会 大木 一訓（愛知労働問題研究所所長）

中国の経済発展と人口

(中国の人口政策と人口統計) 中国 人口 統計

(中国の人口政策と人口統計) 中国 人口 統計

(中国の人口政策と人口統計) 中国 人口 統計

(中国の人口政策と人口統計) 中国 人口 統計

(中国の人口政策と人口統計) 中国 人口 統計

愛知の戦後労働運動50年に思うこと

— お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。今日は、伊藤さんが苦勞してつくって下さった戦後50年のあいちの労働運動年表を肴（さかな）に、愛知の労働運動について自由に語り合ってみようということで、座談会を企画しました。この年表をずっと眺めていくと、実にいろいろなことがあった、私たちは激動につぐ激動の時代を生きてきたのだな、という思いを強くするのですが、他方では、半世紀後の世界がこんな形でやってくるとは予想もしなかった、いったいこの50年を経て、われわれはどこに立っているのだろう、と改めて思うわけです。みなさんは長年にわたり愛知の労働運動とともに歩んでこられた方たちばかりですので、戦後50年ということで特別に感ずることもおありではないかと思いますが、まず、最年長の荒川さんいかがですか。

荒川：私の労働運動とのかかわりは、敗戦後シベリア抑留から帰ってきてすぐに愛知産業別労働組合会議の常任書記になっていらいですから、まさに半世紀になります。産別会議は弾圧されて解散になりますが、私は最後まで残って残務整理のかたわら「愛知産別会議小史」をまとめました。その後も労働運動にはいろいろな形でずっとかかわってきて、82歳になる現在でも、地元で7つの大衆運動団体の役員をしています。最近は障害者福祉の問題や被爆者の問題など、労働運動より外の運動への取り組みが多くなっていますが。戦後50年、運動の中で民衆とともにずっと歩んでくることができて、本当によかった、というのが実感です。

阿部：年表を拝見して、これだけのものをまとめるには本当に御苦勞されたと思います。私の場合は、20歳前の伊勢湾台風の頃から職場活動をはじめて、23歳頃に愛木労の役員になってから産別の運動にかかわるようになったのですが、愛知の労働運動全体を見ることができるようになったのは、まだ大分後で、1983年に統一労組懇談会の仕事をするようになってからです。しかし、1960年の安保闘争以降は、非常に目的意識的に運動にかかわるようになったと自分では思っています。その点でこの年表は、自分たちの運動をしっかり跡付けてくれている、自覚的労働運動の側からののはじめての年表ではないかと思います。従来の運動史は総評運動を中心とした、あるいはその運動潮流の影響下につくられたものが多い。しかし、ここでは、これまで無視されたり軽視されてきた労働者個人やグループのたたかいまでふくめて、労働運動全体をた

たかう立場からとらえています。私はかつて争議をたたかうなかで、日本共産党から出された「合理化反対闘争の前進のために」という方針を読み、目の開かれる思いで、確信をもってたたかいをすすめることができた経験がありますが、この年表を見ていると、改めて自分たちの運動に確信と誇りをもつことができます。

中原：年表を見ているといろいろなことが思い出されるのですが、労働運動も社会も50年で本当に大きく変わったものだと思います。私個人の場合にも、敗戦の時には19歳の軍国青年だった。それが天地がひっくりかえるような価値観の転換を経験するなかで組合活動に参加し、後には、思いもかけない水道労組や自治労愛知の委員長となり、さらに愛知の労働運動全体に責任を負うようになったのですから。失業して名古屋市水道局に臨時職員として採用され、水道労組の活動、とくにその青年婦人部の活動のなかで成長できたというのが出発点ですが、私のように口下手で無口だった人間が組合幹部となってがんばってこれた背景には、やはり愛知での運動の前進があったと思います。畑田先生がまだ愛知におられる頃に、私たち若い活動家を集めて、東海地方は東京と大阪の「谷間」になっている、早くそこから抜け出さなくてはダメだとはっぱをかけられていたのを今でも思い出します。

伊藤：私は中原さんと同世代ですが、敗戦直後は大同製鋼に残っていました。どうして組合運動にかかわるようになったのか、よく覚えていないのですが、名古屋南部には産別会議ができるまえから工場代表者会議といったものができて、非常に組合運動がさかんでした。2. 1スト前にはそれを成功させるための集会があって参加したのを覚えています。当時、産別会議がやっていた政治経済学校という労働学校があったのですが、それに一日だけ参加して、鈴木正四さんの土一揆の話と加藤進さんの史的唯物論の話をきいたのが、労働運動を本気で考えるようになったきっかけだったように思います。しかし、真面目に活動をはじめたとたんに、レッド・パージで職場を追い出されてしまい、失業しているところを市職労の書記に採用されることになった。採用されてすぐ、市職でもレッド・パージがあって大騒動になるのですが、それ以来、自治体労働運動にかかわることになったわけです。ほぼ戦後50年の愛知の労働運動を見聞してきて、また年表をまとめてみて改めて思うのは、いまでもなくなっているとはいえない愛知＝谷間論の克服をこの辺で真剣に考えてみなければいけないのではないか、ということです。

手さぐりだった戦後初期の運動

――戦後初期の労働運動は、嵐のような高揚をみせるとともに、弾圧による劇的な解体・衰退も経験するのですが、そこにはどんな問題があったんですか。

荒川：初めは、そもそも労働組合がどういうものなのかが、わからなかったんです。私は戦前、組合をつくろうとして治安維持法でつかまった経験があるんですが、それでも組合というのがどういうものか、よくわからない。そこで産別会議中央から派遣された金子健太さん、戦前からの労働運動指導者だった方ですが、この人について、労働組合や労働者階級について徹底して学びました。そこで、企業内組合がもつ問題点や日本社会を変革するうえで産別組合のもつ決定的重要性について知りましたし、労働者教育・幹部教育の重要性についても目を開かれました。

敗戦直後の労働運動で難しかったのは、情勢の変化が非常に急激で早く、複雑で、たとえば占領軍を軍国主義からの解放者として見るのか、生活と権利を守る運動に対する反共的な抑圧者として見るのか、大衆運動による情勢への対応が一筋縄ではいかなかったことです。もう一つは、経済と生活の破綻が極限まですすむなかで、労働組合は賃金・労働条件や権利のたたかいをはるかにこえて、産業復興闘争や経済再建運動など、企業・産業や経済そのものの建直しに自ら乗り出さざるをえなかったことです。そこに大変な苦労があった。

さらに愛知では、トヨタとか、私の地元でいえば王子製紙とか、日本経済の根幹を担うような大企業を多くかかえています。同時に、それら大企業のもとには、膨大な数の中小零細企業が3次4次にわたって層をなしている。そして、これらの企業のほとんどが、労働組合とかストライキを犯罪扱いするような経営者によって握られていた。とくに繊維工場の状態などは本当にひどかった。そこにも、愛知の場合の運動のきびしさ、むずかしさがあったと思います。

伊藤：愛知の特徴ということでいうと、戦前ここには三菱航空機・発動機があり、軍需生産のメッカだったわけで、航空機産業を中心に金属機械の下請けも広範に形成されていた。それが戦後の自動車産業の基盤にもなっていったわけですね。もう一つは、陶磁器、繊維、木材などの地場産業が発展していたことで、そこには、多くが右翼的なものではあったけれども、戦前からの労働運動があった。こうした二つの基盤のうえに、戦後愛知の労働運動ははじまったし、その強みも弱さも生まれてきたといっていると思います。

戦後愛知労働運動の潮流と産別会議の活力

一年表を見ていると、愛知では敗戦後一ヶ月もしないうちから、続々と労働組合が結成されていくんですね。戦時中は産業報国会によって労働組合が解体され、軍需工業のメッカでとりわけ労働運動への弾圧もきびしかったと思われる愛知で、「いち早く自主的な労働組合の組織」がすすんでいく。その力は何だったんでしょうか。もう一つは、一口に組合の結成・発展といっても、そこにはいくつかの異なる流れがあったわけですね。産別会議に結集していく流ればかりでなく、総同盟につながる協調主義の組合もあれば、天皇制が解体されたら大変だといって結成される、産業報国会が形をかえたような組合もあった。しかし、そのなかで、産別会議の運動は愛知でも急速に労働運動の主流になっていったわけですね。どうして短期間にそうなっていったのか。その辺のことも知りたいのですが。

伊藤：当時の労働組合のなかには、大体三つの流れがあったと思うんです。一つは占領軍の政策に迎合して使用者側がつくらせる組合で、たとえば名古屋市では当局が労働組合結成を指示してつくらせたという事実もある。民間企業では、労働組合がないとまずいということで、産業報国会が看板を塗り替えて労働組合を名乗ることも多かった。二番目は、戦前からの戦闘的な労働運動の活動家で、弾圧され監視されて職場のなかに閉じ込められてきた人たちが、敗戦後いっせいに労働組合づくりをはじめた。あるいは、解放された共産党の幹部・活動家が外から職場の労働者たちに働きかけて組合をつくっていく。こうした労働者の生活と権利を守る戦闘的な組合、これが一番元気で魅力があった。三つは、繊維、陶磁器、金属などを中心とする戦前からの協調主義的な運動が敗戦後復活したもので、総同盟や社会党右派につながる労働組合です。

荒川：右翼的な協調主義の流れは産別会議の中にもあったんです。それは後に、反共的な「民主化運動」として産別会議の解体にみちびく要因になるんですが、その背景の一つには、春日一幸たちが地場の中小企業労働組合の中に戦前から非常に強い影響力を確立してきていた、という事情がありました。全国的にみても、春日一幸のような例は見当たらないと思いますが。

阿部：合板でもそうでしたが、春日一幸は、労働者からの支持もありましたが、中小企業経営者からの支持がつよかった。彼自身、中小企業経営者だったということもありますが、労使一体の支持というところに特徴があると思います。

中原：産別会議はトヨタなどの大企業の組合が中心で、愛知では官公労はあまり産別に参加していないんですね。電産、全通、国労名古屋などは参加していたけれども、自治体組合は参加していない。やはり官製組合としてつくられたところから脱皮するのに時間がかかったということでしょう。

荒川：面白いのは、産別会議といっても、地方によってその加盟組合の構成が非常に違ったことです。産別中央の中核組合であっても、地方では加盟していないところがいくらでもあるし、国労のように中央は産別未加盟であっても、愛知では中核となつてがんばっている組合もあるというふうだった。産別会議というと、共産党が上からつくった組合であるかのようにいう人がいますが、実際はそれぞれの地方で職場から自主的につくられていった組織だったんで、社会党の人たちも産別会議の運動にはたくさん参加しています。

伊藤：全国的に見ても、産別会議と名乗ったローカルセンターはそんなに多くなかったんですね。名前だけでなく中身でみても、地域によっていろんな質の運動があった。愛知産別会議の運動はそのなかでは先進的なものだったといえると思います。

愛知産別会議の解体と官公労組合の役割

――産別会議の運動は、あくまで地域に根ざした自主的自覚的なたたかう組合運動だったということですが、そういう運動が戦後初期の愛知で急速に発展したという事実は、「谷間」論をくつがえす重要な史実ではないですか。

しかし、同時に愛知では、労働戦線統一への努力がなされ愛労会議ができるけれども、それが実際にはほとんど機能しなかったと言われる。愛知における当時の全労連運動はまだ弱かった。他方では、弾圧を受けた愛知産別会議の衰退・崩壊がおどろくほど急速にすすんだ、という問題もあります。この辺の事情はどうだったんですか。

伊藤：愛知の産別会議のなかでは、なんといってもトヨタをはじめとする金属労働者の比重が圧倒的で、組織人員全体の3分の1ぐらいをしめていたのではないですか。この金属労働運動に対する経営者側の攻撃が成功することで、産別会議の基盤は大きく失われていくことになるわけです。

荒川：労働戦線統一のための努力はずいぶんやったんです。とくに愛知では、産別会議に入っていないが、総同盟にも、後にできる総評にも入らないという中立組合が多かった。この中立組合と産別会議が中心となつて広い視野で統一したローカルセンターをつくろうという働きかけを熱心にやりました。しかし、

産別会議の方針を見ると賛成だし一緒にやりたいと思っても、弾圧されている産別会議の組合と一緒に仕事をしたら自分たちも弾圧されるのではないかと恐がって、中立組合はどうとう話に乗ってこなかった。

中原：そういうなかで、自治体の組合は小林橘川名古屋市長が誕生する（1952年）頃から着実にがんばる組合に変わっていったと思います。経済闘争とともに平和問題や政治課題に積極的に取り組んだし、自治体選挙にも積極的に取り組んでいきました。その影響はいろんな潮流の労働組合運動全体にわたって非常に大きかったのではないかと思います。

労働戦線の右翼的再編と愛労連運動の到達点

――ところで、その後の愛知労働運動は、占領下の弾圧で産別会議が解散され、反共的な愛労評が結成される。そして、労働者の要求を反映して愛労評が次第にたたかう労働運動として発展しはじめると、これに対する支配層の側からの右翼的再編の攻撃がつよまり、結局、愛労評は労資一体の連合に吸収されてしまう。こうしたなかで、統一労組懇談会の活動が発展し、再び産別会議や愛労会議の伝統をひきついだ愛労連の運動がはじまってもう6年になるわけですね。こうした歴史の流れのなかで見て、みなさんは現在の愛知労働運動についてどんなことを感じておられますか。

荒川：産別会議の運動のイメージからすると、最近の労働運動は地域での多様な活動に重点がおかれて、職場や産業別でのたたかいが横這いしないし下火になっているのではないかと、ストライキでたたかうという姿勢が弱いのではないかと、という印象をもってしまうのです。しかし、そこにはそれだけの今日的理由があるのではないかと思います。

阿部：指摘されるような問題がないわけではないと思いますが、今日の労働運動は、三池闘争の頃のストライキ至上主義によってうけた打撃を苦い教訓としている、ということがあります。愛知の中小企業労働運動のなかでも、スト＝戦闘性＝階級性と短絡的に考え、労働組合の力を過信して足下をすくわれた経験を大分してきているわけです。たたかいに勝利するためには、実力行使だけでなく、広範な地域住民の、国民世論の支持をえるような組合活動をしなければならない、ということを肝に命じているわけです。そうは言っても、現在でも愛労連傘下ではストライキをかなりやっているんですよ。ただ、運動の力が弱いために、情勢を動かすようなストライキがなかなかできないのが現状ですが。

中原：労働者の生活様式が大きく変わり、労働と生活をめぐる状況が複雑になるなかで、要求やたたかい方がまとまりにくい、という問題もあるのではないですか。基本に立ち返った学習・教育が非常に大事になっている。ただ、最近の状況は、社会保障をふくめ生活の悪化がすすんでいますから、労働者の要求とたたかいは必ず大きく盛り上がってくると思います。

伊藤：愛労連の力が小さいということがよく言われるけれども、組織人員でいうと、愛知産別会議が11万9千、愛労評が結成時で10万3千、これに対して愛労連の7万人は決して小さな数ではないんです。しかも、この7万人は、激しい分断攻撃・反共攻撃のなかで、労働者たちが自主的に選択し維持している数なんです。産別は3年でつぶされてしまったけれども、愛労連はすでに6年もがんばっている、というふうにも言えるわけです。さらに、的確な運動路線や政策という点でも運動経験の蓄積という点でも、今日では以前になかった豊かさがあります。第一の反動攻勢の時期にくらべて、今日の第二の反動攻勢の時期の労働運動は、明らかにより前進した地歩をしめている、と思うんです。

阿部：たしかに、その点では確信をもつ必要がありますね。先日もある金属の組合で聞いたのですが、職場では無口で組合の方針もよくわかっていないのではないかと考えていた労働者が、実は家では労働戦線問題から当面の春闘課題まで堂々と先生役をやっているというんです。運動の成果がそういう形で実っているのか、と感動しました。

しかし、情勢との関連でいえば、私たちの運動はテンポのうえでも量のうえでも恐ろしく立ち遅れています。組織率一つとっても、50%近い組織率をもっていた産別会議時代にくらべ、今は連合を入れても20%台だし、広範な労働者の統一闘争という点でも非常に弱い。支配層との矛盾＝運動課題の大きさという点では、昔の産別会議が直面したものに負けないくらい大きく困難な課題に直面しているんだけど、その課題にこたえられるような運動にはまだまだなっていない。

ただ、最近になって、困難な情勢のなかにもいくらか展望が見えてきたような気がしています。一つは、地方選挙や参議院選挙をたたかってくるなかで、反共主義による愛労連シフトに風穴をあける見通しが出てきた。マスコミの対応なども最近はずいぶん違ってきています。二つは、独占大企業やその下請けの中小企業で、これまでの右翼的労資関係の枠組みを経営者の側から切り崩し

破壊してきていることで、これまでにない新たな可能性が生まれている。労働相談活動などにもそうした状況が反映されてきています。三つは、青年たち、とくに未組織の青年たちが動きはじめたことで、今年も愛労連でサマーセミナーや労働学校をやっているのですが、半分ぐらいは未組織の青年たちが参加してくるようになっていきます。いいかえれば、戦後労働運動の障害となってきた反共主義、企業主義と青年層の社会的無関心や未組織問題に、大きな風穴をあけていく可能性が出てきたのではないか、と思うわけです。ともあれ、これからは、青年層にかぎらず学習活動をつよめて、情勢に負けない運動をつくりだしていきたいと思っていますところです。

おわりに

――では、そろそろ明るい展望も見えてきたところで、最後になにか一言づいていただけますか。

荒川：基本的なことと言うまでもないかも知れませんが、愛知の労働運動には、賃上げと最低賃金制確立への取り組みをぜひいっそう具体的につよめていただきたいと思います。「定時で食える賃金」というのは、いまでも要求の基本であり、労働組合運動の力の源泉だと思うんです。もちろん、労働戦線統一への努力とか、平和問題への取り組みとか、やらなければならない問題はたくさんあると思いますが。

阿部：これだけの年表をまとめていただいたので、これを出発点に、さらに愛知での特徴的なたたかひの経験を整理・紹介したり、それぞれの組合のところで組合史づくりをすすめたりして、闘争経験の継承に役立てていけたらよいと思います。

中原：この年表も参考にして、今日における産別の運動とはどういうものであるべきか、愛労評の運動と全労連の運動との質的違いは何なのか、愛知労働運動における官公労組合の役割、などについて、改めて議論を深めていけたらいいですね。

伊藤：この年表はまだまだ未完なものなので、みなさんからぜひ御意見や情報・資料の提供をいただきたいと思います。私の思いとしては、これが各組合の戦後50年史づくりに役立つとともに、愛知における戦後労働運動通史をまとめるステップになればうれしい、と思っています。

――長時間どうもありがとうございました。

(文責・大木)

『戦後五〇年・年表で綴るあいちの労働運動』の発表にあたって

「戦後五〇年」をめぐる、さまざまな記録、歴史、評論などがあいついで刊行され、また論議がさかんにおこなわれていますが、愛知労働問題研究所も、『戦後五〇年・年表で綴るあいちの労働運動』をまとめることにしました。

この『年表』が、戦後五〇年・あいちの労働運動、とくにたたかう労働者と労働組合の歴史と教訓をつかみとる一助となることを念じつつまとめあげました。またこの『年表』が、各組合がとりくまれている「五〇年史」をはじめ、「四〇年史」「三〇年史」「二〇年史」などの編纂に、役立つことを期待してまとめたものです。

さらにこの『年表』が、近い将来、運動家や研究者の「共同作業」で、たたかう労働者と労働組合の『あいちの労働運動史』が編纂されるための出発点になればとの思いをこめて作成しました。

この『年表』は、『参考資料一覧』で紹介しましたように、研究所が創立いらい収集した「組合史」「闘争記録」などをもとにして、労働者と労働組合のたたかいを網羅することにつとめました。

なかでも、あいちの地場産業ともいべき木材産業など、中小企業労働者の争議をはじめ、多くの労働組合のたたかいの記録や、一人の差別にたいしても組合が全力をあげてたたかった記録はもとより、組合の援助が得られないでもまわりの労働者の支援を得てたたかってきた、いわゆる首切り反対・差別反対の「一人争議」「争議団」などのたたかいを網羅するようにつとめました。

こうした記録の収集にあたっては、『愛知民報』のバックナンバーがたいへん役立ちました。また「一人争議」「争議団」のたたかいの記録の多くは、元・CBC争議団から寄贈された資料などに負うところが大きいです。関係各位に厚く御礼申し上げる次第です。

この『年表』は、たたかう労働者と労働組合のたたかいを網羅したことが大きな特徴であると自負しています。

さてこの『年表』では、「時代区分」をつぎのようにしました。

I 占領下・戦後激動期の労働運動（1945～50年）

- 1 敗戦・民主的改革、産別会議を中心とする労働運動高揚の時期
(45～48年)
- 2 戦後第一の反動攻勢期のもとでの労働運動（49～50年）

II 安保体制・経済成長下の労働運動（1951～60年）

- 1 サンフランシスコ講和条約・安保条約締結下の労働運動（51～54年）
- 2 戦闘性を回復した労働運動（55～58年）

- 3 60年安保闘争と労働運動（59～60年）
- III 新安保体制下の労働運動（61～74年）
 - 1 ケネディ・ライシャワ路線・右翼的潮流の拡大のもとでの労働運動（61～69年）
 - 2 革新勢力と春闘の前進のもとでの労働運動（70～74年）
- IV 戦後第二の反動攻勢期の労働運動（1975～88年）
 - 1 深刻な経済不況下・春闘連敗のもとでの労働運動（75～79年）
 - 2 政治戦線、労働戦線の右翼的再編下の労働運動（80～88年）
- V たたかうナショナルセンター・ローカルセンター確立のもとでの労働運動（1989～95年）
 - 1 労資一体化路線に抗して「全労連」「愛労連」を結成（89年）
 - 2 バブル崩壊と増大する「全労連」「愛労連」の役割（90～95年）

この「時代区分」は、おおむね戦後日本の労働運動のそれぞれの節目を、「時代区分」の節目としました。そしてこれは、「戦後復興期」（1945～54）、「第1次経済成長期」（1955～64）、「第2次経済成長期」（1965～72）、「経済低成長期」（1973～現代）という、日本経済・資本蓄積の面からみた時代区分にほぼ照応させながら、『年表』の「時代区分」を考えました。

この『年表』をまとめながら感ずることは、あいちの労働者と労働組合は、戦後50年、弾圧や「合理化」攻撃とのたたかいの連続であり、たたかう労働組合を建設するために奮闘してきた歴史であることを知ることができます。

戦後すぐの時期には、たたかう労働者が、労働組合づくりに奔走し、労働者の権利とくらしを守るためにたかいつづけました。そして、たたかうローカルセンター「愛知産別会議」をもつことができたのです。

しかし、戦後第一の反動攻勢の中で、占領軍と反動勢力により、たたかう労働者と労働組合に弾圧がくわえられ、「企業整備」「行政整理」「レッドパージ」などで、たたかう労働者はムリヤリ職場から追い出され、たたかう労働組合は後退を余儀なくさせられました。そのために「愛知産別会議」の組織人員はいちじるしく減少し、のちに「解散」をするに至ったのです。

一方、この第一の反動攻勢の中で、反共を旗印にした「総評」が結成され、これとむすびつくローカルセンター「愛労評」が誕生しました。しかし、「愛労評」は特定政党支持を労働者におしつけるという誤りを一貫してとりつづけ、「資本からの独立」「政党から独立」「一致する要求で共同」という労働組合の初歩的な原則を守ってきませんでした。「愛労評」が県下労働者の切実な要求を反映したたたかいを担ったとはいえ、真の階級的なローカルセンターとしての役目をはたすことができず、1989年「連合」に吸収され、「解散」しました。

第一反動攻勢の中で後退を余儀なくさせられた労働者と労働組合は、そのごじょじょに戦闘力を回復していきました。こうしたなかで、愛知の労働者と労働組合は、1954年の名古屋証券取引所労働組合の争議、58年の王子製紙春日井

工場の争議、59～60年の安保闘争をはじめ、1973年には、統一戦線の力で革新名古屋市政を実現するなど、かすかすのたたかいにとりくみ、運動を前進させてきました。こうしたたたかいをつうじて、労働組合のたたかう力量は年ねん強化されてきました。

同時に、労働者と労働組合のたたかう力量の増大をおそれた独占資本と反動勢力は、労働組合つぶしのため、たたかう労働者にたいし首切り、はげしい差別攻撃をくわえてきました。多くの労働者と労働組合は「人間の尊厳」をかけたたたかいに立ち上がりました。これは60年代以降の大きな特徴であるといえます。この『年表』で多く網羅した労働組合のたたかい、さらに「一人争議」「争議団」のたたかいがそれを物語っています。

また、不況、貿易の自由化の嵐の中で、地場産業があいついで崩壊し、繊維、木材・合板産業などでの企業縮小、倒産などがあいつぎ、全員首切りというきびしい「合理化」攻撃にさらされながら、ねばりづよい数々のたたかいもこの『年表』に記録されています。

1980年代、戦後第二の反動攻勢期に、独占資本が、生き残り戦略として、政治戦線の右翼的再編と同時に、労働戦線の右翼的再編を画策してきました。あいちの先進的な労働者と労働組合は、「統一労組懇」に結集し、階級的ナショナルセンター・全労連、ローカルセンター・愛労連結成にむけて奮闘したたたかいも、またこの『年表』にしっかり記録されています。

この『年表』をつうじて、労働運動が「飛躍」「停滞」の交互作用という、いわゆる階級闘争の弁証法を読みとることもできるのではないかと考えています。

この『年表』は、伊藤欽次所員（元・自治労連愛知県本部書記長）が執筆・作成作業にあたり、後藤基所員（『データベース あいち労働・経済 資料と情報』編集責任者）および永井和彦所員（愛労連幹事）が企画・編集・整理にあたりました。

『年表』は短期間にまとめたことでもあり、大事なたたかいが漏れていたり、資料からの転記を誤り、年月日や内容に間違いがありうるかと思います。ぜひ、「漏れ」や「誤り」についてお気づきの点がありましたらご指摘いただきたいと思います。ぜひご協力をお願いします。

この『年表』は「草稿」とでもいうべきもので、こんご豊富にし、さらに正確にしていくため、また将来『あいちの労働運動史』をまとめるためにも、研究所がまだ収集していない関係資料などを、組合・個人のみなさんのご協力ですらに収集につとめていきたいと考えています。ぜひ関係資料をご提供（あるいは、借用して複写させて）いただけますよう、心からお願いする次第です。またこの『年表』についてのご意見もぜひお聞かせ下さい。

1995年9月 愛知労働問題研究所

『戦後五〇年・年表で綴るあいちの 労働運動』 目 次

I 占領下・戦後激動期の労働運動 (1945～50年) (1～20頁)

1 敗戦・民主的改革、産別会議を中心とする労働運動高揚の時期 (45～48年) (1～14頁)

【1945年】 敗戦・占領、いちはやく自主的な労働組合を組織、日本の民主改革・労働組合法制定

【1946年】 深刻な食糧危機・異常な物価高、極度な住宅不足、失業者の増大の中で、「燎原の火」のように労働組合があいついで結成、たたかいにたちあがる

【1947年】 2. 1ストにむけてたたかい高揚・中止、「全労連」結成

【1948年】 アメリカ占領軍の政策転換・政府の反動化、労働運動への弾圧はじまる

2 戦後第一の反動期のもとでの労働運動 (49～50年) (15～20頁)

【1949年】 民間・企業整備、公務員・行政整理の名のもとで大量首切り・レッドパージが強行され、たたかう労働組合が後退する

【1950年】 トヨタ自動車の大争議、朝鮮戦争の勃発、レッドパージの強行、反共を旗印にした「総評」・「愛労評」結成

II 安保体制・経済成長下の労働運動 (1951～60年) (21～38頁)

1 サンフランシスコ講和条約・安保条約締結下の労働運動 (21～25頁) (51～54年)

【1951年】 講和条約・日米安保条約調印

【1952年】 労働法規改悪反対闘争、占領から半占領・対米従属へ

【1953年】 朝鮮戦争休戦・不況

【1954年】 名古屋証券取引所に労働組合結成、争議・無期限スト

2 戦闘性を回復した労働運動（55～58年） (26～33頁)

【1955年】 農民と労働者の共闘で小牧基地拡張反対闘争

【1956年】 小牧基地拡張反対闘争つづく

【1957年】 小牧基地拡張反対闘争さらにつづく、公労協への大量処分

【1958年】 勤評闘争と王子製紙争議、愛知産別解散、警職法反対闘争

3 60年安保闘争と労働運動（59～60年） (34～38頁)

【1959年】 「安保改訂阻止県民会議」結成、統一行動ひろがる

【1960年】 60年安保・三井三池の大闘争

Ⅲ 新安保体制下の労働運動（1961～74年） (39～68頁)

1 ケネディー・ライシャワ路線・右翼的潮流の拡大のもとでの労働運動 (61～69年) (39～54頁)

【1961年】 「政暴法」反対で全国統一闘争展開

【1962年】 トヨタ自動車とトヨタ労働組合、『労使宣言』発表

【1963年】 名古屋証券労組、8年余のたたかいで解雇撤回かちとる

【1964年】 CBCの長期争議はじまる

【1965年】 「開放経済」のもとで、深刻な不況、産業再編・スクラップ
アンドビルドがすすむ

【1966年】 公務員共闘・初の統一ストライキ、最高裁10・26東京中
郵事件無罪判決

【1967年】 県教育委員会、愛高教の10・26闘争に大量処分

【1968年】 全建労東海・国井本局支部長不当配転反対闘争、27日間に
わたる大衆的抗議で当局に遺憾の意を表明させる

【1969年】 東洋プライウッド争議・解雇撤回で解決

2 革新勢力と春闘の前進のもとでの労働運動（70～74年） （55～68頁）

【1970年】 日米安保条約固定期限終了・自動延長

【1971年】 愛知県知事選挙で革新統一候補大善戦、中小木材企業・縮小、
倒産があいつぐ

【1972年】 木材産業の「合理化」攻撃つづく、私学助成をすすめる条例
制定署名運動にとりくむ

【1973年】 革新統一の力で名古屋に革新市政実現、インフレ・狂乱物価
阻止のため、社・共・公・労組・市民団体が共闘

【1974年】 「国民春闘」、インフレ阻止・生活防衛の国民的なたたかい
ひろがる

Ⅳ 戦後第二の反動攻勢期の労働運動（1975～88年） （69～109頁）

1 深刻な経済不況下・春闘連敗のもとでの労働運動 （75～79年） （69～81頁）

【1975年】 深刻な経済不況・「雇用調整」あいつぐ、日経連・賃上げ抑

制のガイドラインしめし、春闘の敗北始まる

【1976年】 「構造不況下」で、愛木労・全面的な合理化攻撃とたたかう、
「愛知統一労組懇」発足

【1977年】 第2期名古屋革新市政実現、「愛知職自連」結成

【1978年】 生活防衛・経済危機打開にむけてのたたかいにとりくむ、争
議団連絡会議発足、「栄総行動」はじまる

【1979年】 統一労組懇、労戦統一のあり方の全国討論をよびかける

2 政治戦線、労働戦線の右翼的再編下の労働運動（80～88年）

（82～109頁）

【1980年】 総評・「社公政権構想」支持をうちだし、右転落をはじめる

【1981年】 革新名古屋市政転覆の策動を打ち破り・第3期革新名古屋市
政を実現、CBC長期争議和解成立・解決

【1982年】 第二臨調「行革」で公務員の人勤を凍結、「全民労協」発足

【1983年】 20年にわたる名古屋テレビ争議解決

【1984年】 統一労組懇、健保法改悪に反対し統一スト

【1985年】 自社公民4党・同盟に愛労評が協力して自民党市政復活に手
を貸す、名古屋革新市政に幕

【1986年】 国鉄労働者「人材活用センター」で差別され、「労使共同宣
言」を拒否

【1987年】 国鉄が分割民営化、統一労組懇「階級的ナショナルセンター
確立の展望と骨格」を示す

【1988年】 消費税導入で日本列島騒然、16年間たたかった大隈争議解
決

V たたかうナショナルセンター・ローカルセンター確立のもとでの労働運動

(1989～95年)

(110～136頁)

- 1 労資一体化路線に抗して「全労連」「愛労連」を結成 (110～116頁)
(89年)

【1989年】 「年金者組合」、階級的ナショナル・ローカルセンターの結成へ

- 2 バブル崩壊で増大する「全労連」「愛労連」の役割 (90～95年)
(117～136頁)

【1990年】 全労連・愛労連、初の春闘・「連合」を上回る成果

【1991年】 「湾岸戦争」、PKO法案阻止の国民的運動高まる

【1992年】 労基法の抜本改正要求・「人間回復署名」運動ひろがる

【1993年】 総選挙で自民過半数割れ、非自民・非共産の細川連立内閣発足・自民党政治の継承

【1994年】 オークマ定年年齢引き下げ、大きな社会問題となる

【1995年】 ひろがる雇用不安のなかで、解雇規制・人べらし「合理化」とたたかう いっせい地方選挙・参議院選挙で「オール与党政治」への国民のきびしい審判

【参考資料一覧】

(137～149頁)

【統計資料】

「労働組合推定組織率」「争議発生件数」「春闘賃上げ妥結状況」

(150 頁)

目 次 終わり

戦後五〇年・

年表で綴るあいちの労働運動

I 占領下・戦後激動期の労働運動 (1945～50年)

1 敗戦・民主的改革、産別会議を中心とする労働運動高揚の時期 (45～48年)

【1945年】 敗戦・占領、いちはやく労働組合を組織、日本の民主改革・労働組合法制定

愛知県、主として名古屋市を中心に、1944年11月27日から、45年8月14日まで、102回にわたる米軍の大空襲がくりかえされた。

名古屋への本格的な爆撃は、1944年12月13日 B29約70機、三菱重工名古屋発動機製作所などの集中的な目標爆撃からはじまった。1945年、3月11～12日 B29 285機、市街地にたいする無差別な焼夷弾爆撃となり、3月19日 B29 290機、3月24日 B29 224機、4月7日 B29 153機、5月14日B29 411機、5月17日B29 457機、とつづく。6月9日 B29 42機、愛知時計電機船方工場に爆撃が集中し、学徒動員の学生ら死者2,098人、負傷者1,944人、6月19～20日 B29 136機など、大挙来襲し、軍需工場だけでなく、民家も多大な被害をうけた。当時の名古屋市内での死者8,076人、負傷者10,519人、被害家屋136,556戸であった。

6月20日 豊橋市空襲、死者624人、7月15日 半田市空襲、死者276人、7月12日・28日 一宮市空襲、死者727人、7月15日 岡崎市

[1945年]

空襲、死者250人、8月7日 豊川市空襲、B29 100機、豊川海軍工廠に爆撃が集中、学徒動員学生を含む死者3,000人、負傷者1万人、

たび重なる空襲で、本県に投下された爆弾の総数は10,700余発、焼夷弾は993,000余発（実数はこれをはるかに上回る）、県内の死者1万1,555人、負傷者1万8,250人、焼失戸数18万3,600余戸（その前に「建物疎開」によって家屋が強制的に取り壊されたもの3万戸以上）、罹災者67万2,448人にのぼる甚大な被害をうけた（『愛知県昭和史』『名古屋空襲誌』などから）

- 4. 1 米軍、沖縄本島に上陸作戦開始、6.23 日本軍全滅、軍人軍属の死者約12万人、非戦闘員である県民の死者約17万人
- 8. 6 広島に原爆投下、年末までの死者推定14万人±1万人
- 8. 9 長崎に原爆投下、年末までの死者推定7万人±1万人
- 8. 14 春日井、豊田に「模擬原爆」7発が投下される（あいち・平和のための戦争展実委『戦時下・愛知の諸記録 不完全データ』1994. 8.9より）
- 8. 15 敗戦、日本帝国軍隊はポツダム宣言を受諾して無条件降伏
- 8. 17 東久邇内閣成立
- 8. 28 アメリカ占領軍、日本に進駐、9.2 東京湾でアメリカ戦艦ミズリ一号艦上で、日本は「降伏文書」に調印
- 9. 9 愛知県土木建築労働者による労働組合結成（1,046人）
- 9. 25 「世界労働組合連盟」（世界労連）結成（パリ）
- 9. 30 大日本産業報国会に解散命令
連合軍総司令部、愛知軍政部を設置、愛知における占領政策が具体的に展開される、愛知県には9月末名古屋に先遣隊200人が到着（最高時には約27,000人に達した）
- 10. 4 連合軍総司令部、「民権自由に関する指令（天皇に関する批判の自由、政治犯の釈放、秘密・思想警察の全廃など）」を発す
- 10. 5 東久邇内閣総辞職（在任期間54日）
- 10. 9 幣原内閣成立
- 10. 10 政府、政治犯439人を釈放、日本共産党公然と活動開始する
- 10. 11 連合軍総司令部、「民主化に関する五大改革」（婦人の解放、労組の結成奨励、学校教育の自由化、秘密警察制度の廃止、経済制度の民主化）」を指令 10.15 治安維持法廃止、11.21 治安警察法廃止、日本各地で労働組合あいついで結成、争議あいつぐ

[1945年]

- 1 1 . 2 「日本社会党」結成
- 1 1 . 6 連合国総司令部、財閥解体を指令
- 1 1 . 1 1 「名鉄岐阜線従業員組合」結成（名鉄岐阜工場の労働者が中心で、部・課長を除いて結成、のちに名鉄労組が結成され、同労組岐阜支部となる）
- 1 1 . 2 4 「日本社会党愛知県連合会」結成大会
- 1 1 . 2 5 「全日本海員組合名古屋支部」結成大会
- 1 1 . 2 7 「刈谷工機労働組合」結成
- 1 1 . 2 9 「名古屋交通労働組合」（名交）結成
- 1 1 . 下旬 愛知の共産党再建会議、日本共産党愛知地方委員会が発足
- 1 2 . 1 「中部日本新聞従業員組合」結成（46.2.9「日本新聞通信労働組合」・「新聞単一」結成、中日従組も加入、中部日本新聞支部となる）
- 1 2 . 5 「名古屋港湾労働組合」を10人ばかりで結成、このことを伝え聞いた「名古屋港運」の従業員約1,500人全員が加入を申しこんだ
- 1 2 . 8 「豊田自動車刈谷工場労働組合」結成
- 1 2 . 9 連合国軍総司令部、農地改革を指令
- 1 2 . 1 0 「名古屋鉄道労働組合」結成（部・課長を含む、「天皇制絶対護持、共産主義排撃」を決議した。46.2.21 臨時大会をひらき、部・課長を除くことを提案したが、執行部案は否決され、4.20ふたたび臨時大会で部・課長などを除外することがきまった）
- 1 2 . 1 4 名古屋市内の少壮校長ら34人が、「天皇制護持」「教育行政者の公選」「教員給与の5倍増額」の要求をかかげ、県知事と名古屋市長に「決議文」を手交
- 1 2 . 2 2 「労働組合法」制定・公布(1946.3.1施行)
- 1 2 . 2 5 「名古屋造船従業員組合」結成
- 1 2 . 2 6 「日本車両工労働組合」結成
「中部日本新教育連盟」を結成、新教育実践のため「教育の民主化」「待遇の改善」など13項目の決議文を県などの手交（「全教」とのつながりをもっていた）
- 1 2 . 3 1 年末までに愛知で結成された組合11、組合員は2万7千余人

【1946年】 深刻な食糧危機・異常な物価高、極度な住宅不足、失業者の増大の中で、「燎原の火」のように労働組合があいついで結成、たたかいにたちあがる

[1946年]

- 1. 12 名古屋造船に労働争議起こる
「名古屋市交通局職員労働組合」結成
- 1. 15 「豊和工業労働組合」結成 1.22 待遇改善、社長退陣を要求
- 1. 17 「日本労働組合総同盟」（総同盟）拡大中央準備委員会、事実上「総同盟」が発足
「名古屋市熱田区訓導組合」結成
- 1. 18 「中部配電愛知労働組合」結成（組合員約2,500人）
- 1. 19 「トヨタ自動車コロモ労働組合」結成
日本発送電名港火力発電所の従業員約400人が待遇改善を要求して従業員大会をひらき、大会ご「従業員組合」結成
- 1. 20 「日本労働組合総同盟愛知県連合会」結成大会（7単組・1万人）
「名古屋逓信局従業員組合」結成
「愛知県教員組合結成協議会」発足、「教育行政の民主化」「俸給の5倍引き上げ」などを決議
- 1. 21 「日本発送電全東海支店（愛知、静岡、三重、岐阜、長野）従業員組合」結成大会
- 1. 23 「豊和工業従業員組合」結成大会
- 1. 26 「日本陶器労働組合」結成
「日本碍子労働組合」結成
「名古屋市国民学校教員会」結成大会、参加者から「古い体質を温存するような教員会ではなく、法律（労働組合法のこと）にもとづく教員組合をつくるべきだ」との主張が圧倒的多数の支持をうけ、教員会の結成は失敗した
「日本発送電全東海支店従業員組合」結成
- 1. 31 「東亜合成名古屋工業所労働組合」結成
1月末までに39組合・3万9千余人が組織される
- 2. 1 「大同製鋼築地工場従業員組合」結成
「愛知製鋼刈谷工場従業員組合」結成
「豊田系労組統一連絡協議会」発足（14工場・約18,000人、のちの「全豊田労連」の母胎となる）
「大隈労働組合」結成
- 2. 3 「愛知県教員組合」結成（委員長・加藤進）、2.19 教員の組合加入を阻止しようとした一部校長と県教育当局にたいして、抗議と断固たたく声明を発表
- 2. 5 「名古屋市水道局従業員組合」結成
「中部配電連合労働組合」結成（5県下の中部配電労働組合が一本化）
「東邦瓦斯労働組合」結成

[1946年]

- 2. 6 「愛知造船労働組合」（港区築三町）結成
- 2. 7 「愛知県労働組合協議会」（愛労協）発足（のちの「愛知産別」結成の布石の役割をはたす）
- 2. 8 「愛知時計電機労働組合」結成
「日本ミシン労働組合」（瑞穂区堀田通）結成
- 2. 9 日本車両労働組合、会社側の回答を不満として拒否、県下はじめての長期争議・生産管理に突入 2.14 争議団を結成、2.20 争議終結
「豊橋市教員組合」結成
「豊田自動織機労働組合」結成
- 2. 10 「大同製鋼星崎工場労働組合」結成
「西加茂郡員組合」結成
「大東紡労働組合名古屋支部」結成
- 2. 11 「大同製鋼熱田工場労働組合」結成
- 2. 13 「東海軽金属工業従業員組合」（額田郡福岡町・現岡崎市）結成
- 2. 15 「高砂鉄工名古屋工場労働組合」（中川区玉船町）結成
- 2. 18 「愛知製鋼知多工場従業員組合」結成
- 2. 19 「愛知県庁職員組合」結成
- 2. 21 「国鉄従業員労働組合名古屋地方連合会」結成（組合員56,600人余）
- 2. 22 「名古屋電気通信工事局従業員組合」（のちの全逓従組名古屋電気通信工事支部、中区武平町）結成
- 3. 1 労働組合法施行、地方労働委員会発足
「大同毛織稲沢労働組合」結成
- 3. 2 「名古屋市中等学校教員組合」結成(4・7 校長を除外して再組織)
- 3. 6 「豊橋木材労働組合」結成
- 3. 7 「刈谷車体労働組合」結成
- 3. 10 「川崎製鉄知多工場労働組合」結成
- 3. 11 「東海地方逓信従業員組合連合会」結成
- 3. 12 「扶桑金属伸銅所労働組合」結成
- 3. 13 「名古屋市中村区役所職員労働組合」結成
「海部郡教員組合」結成
- 3. 15 名古屋港のキャバレー「ポートナゴヤ」のダンサーたち140人が生活向上と地位確保のために従業員組合をつくり、新聞紙上で話題となる
- 3. 16 「新城町役場吏員組合」結成
- 3. 20 「岡崎市教員会」結成
- 3. 21 「東洋レーヨン労組愛知支部」結成

[1946年]

- 3. 2 2 「高岳製作所名古屋工場労働組合」結成
- 3. 2 3 「愛知県教育労働組合結成準備協議会」発足（豊橋市教員組合ほか県下20組合の代表があつまる）
- 3. 2 6 「大日本紡績労組犬山支部」結成
- 3. 2 9 愛知県地労委、「教員組合を労働組合として認めるにあたり組合から校長を除外をすること」を決定
- 3. 3 0 愛知県下の労働組合結成状況 140組合、組合員数 92,680人
- 4. 7 「日本電気産業労働組合協議会」（電産協）結成（「電産型賃金」など、戦後初期の労働運動の歴史に大きな足跡をのこした）
- 4. 9 食糧危機突破愛知県民大会（共産党愛知地方委員会主催）
- 4. 1 0 新選挙法による第22回衆院総選挙
- 4. 1 5 「大同製鋼労働組合連合会」発足
- 4. 2 0 「私鉄総連中部連合会」結成
- 4. 2 1 「日本交通運輸労働組合同盟中部地方協議会」（名交、名鉄労組で）発足
- 4. 2 2 幣原内閣総辞職（在任期間226日）
- 4. 2 4 「愛知県教育労働組合」（「愛教労」、教組の県内単一組織、国民学校部、青年学校部、中等学校部、大学高専部を設けた、「愛労協」に加盟）
- 4. 2 9 「金属労働組合愛知県連合会」（21組合 約1万2千人）議長・平田六郎、6月 51組合・3万6千人となる）
- 4. 3 0 「中部配電労働組合」（「中部配電連合労組」単一化）結成
- 5. 1 戦後初の復活メーデー（第17回）、雨をついて鶴舞公園に約4万人が参加、「悪徳官吏追放」など3項目を決議、愛知県庁まで雨中をデモ行進、知事に要求書手交
- 5. 7 「愛知県庁職員組合」結成
- 5. 1 0 「愛知県教員組合」結成（愛教労の結成反対の校長らを中心とした名古屋市教育会のグループが結成の準備をすすめたが、結成大会でこのうごきに批判的な代議員によって大会はリードされ、左派が主導権をにぎった）
- 5. 2 2 吉田内閣（第1次）成立
- 5. 2 4 「名古屋市国民学校教員組合」結成（愛教組の別組織として発足）
- 5. 2 6 反動吉田内閣打倒・食糧獲得人民大会（「食糧メーデー」メーデー実委主催、県庁前広場で約3万人参加）
「愛知県繊維工業労組連合会」（県繊維連）結成（17組合）、6.25 県繊維連・臨時大会をひらき、規約の改正をおこなった

[1946年]

- 5. 3 1 「名古屋市職員労働組合連合会」（市職連）結成
「全通従業員組合」結成大会（構成単位を「支部」とし、府県単位に「地区協議会」、通信局管内ごとに「地方連合会」、職域別に「協議会」を置くことになった）
- 6. 1 「愛知県金属労働組合連合会」第1回大会（トヨタ自動車を含む県下ほとんどの金属産業労組が結集、「愛知産別」の中心組合）
- 6. 2 愛知県地方民主戦線連盟結成（社会党、共産党、日本農民組合県連、メーデー決議実行委員会、総同盟など労働組合、東海自由文化連盟、民主主義科学者協会支部、消費組合、新日本婦人同盟支部、学生・青年団体、借家人組合、朝鮮人連盟など。委員長加藤勘十・社会党、副委員長長瀬繁太郎・総同盟、石川友左衛門・共産党、書記長荒谷宗二・社会党）
- 6. 4 「愛知県工業協会」設立（47年、「愛知県経営者協会」と改称）
- 6. 6 「愛知県国民学校連絡会」結成（「愛教」に対抗する組織として発足）
- 6. 1 4 「日本都市労働組合同盟中部地方連合」結成
- 6. 1 8 「木材労組愛知県連合会」結成
- 6. 2 1 名古屋市の「全区役所労働組合連絡協議会」発足
- 6. 2 8 「愛知県教員組合」結成
- 6. 3 1 県下の労働組合、439組合、組合員16万5千余人
全国で、約12,000組合、組合員368万人余（組織率41.5%）となり、戦前の最高記録42万人を短期間のうちに突破
- 7. 1 「全日本鉄鋼産業労働組合（全鉄労）東海支部」結成
- 7. 8 「愛知県庁職員組合連合会」（愛職連）結成
- 7. 1 4 「総同盟中部金属労働組合」結成（35組合、約5,000人）
- 7. 2 4 国鉄、全国で7万5千人の首切り通告（当時の国鉄従業員538,000人、第2次首切りは5万2千人、計12万7千人余、9.15 スト計画、9.14 首切り撤回・国鉄争議終わる）
- 7. 3 1 国鉄労組名古屋地連、首切り反対の宣言を発表
- 7. — アメリカ軍の指示により、大衆デモや屋外集会をおこなうとき、「実施日時、参加人員、集会場所、行進経路、目的地、責任者の住所氏名など」を、5日前に警察をつうじてアメリカ軍に届出をすることになった（1949.4廃止）
- 8. 1～3 「日本労働組合総同盟」（総同盟）結成大会（組織労働者の22%を組織）
- 8. 5 鉄鋼産業労組東海支部など、労働関係調整法反対スト

[1946年]

- 8. 7 海員に首切り（約5万人）提案
- 8. 12 「愛知県産別労働組合会議」結成大会（県下組織労働者の70%・11万9千余・16単産を組織する、国鉄、全通、海員、金属、電産、全日通、化学、日炭、新聞・通信、港湾、木材、愛教組など）
国鉄労働組合名古屋地方連合会、首切り絶対反対で、名鉄局構内、岐阜、大府、四日市、多治見などでいっせい職場大会をひらく
- 8. 16 名古屋造船労組、危機突破資金要求で争議始まる、9.9 生産管理闘争を決定、9.11から生産管理に入る、9.24解決
- 8. 19～21 「全日本産業別労働組合会議」（産別会議）結成大会（組織労働者の41%を組織）
- 8. 25 国鉄名古屋地連、国鉄総連合のゼネスト方針を批判する立場を声明
- 8. 26 国鉄総連、海員組合、全日本炭鉱労組連合会（全炭）が首切り反対で「ゼネスト共闘委員会」を設置、8.30「共同宣言」を発す
- 9. 5～7 国鉄総連合、誠首反対臨時大会（宇治山田市・現伊勢市、名古屋地連は門司地連、大阪地連とともに総連合のゼネスト方針に反対し、大会場から退場、残留地連で「誠首反対共同闘争大会」にきりかえ、「最悪の場合はゼネスト決行」をきめる）
- 9. 10 海員組合、首切りに反対してストライキに突入（11日間）
- 9. 11 「愛知県教育労働組合」結成大会（「愛教」、「愛知国民学校連絡会」の統一、全県単一の組織化を成就、「愛知産別」に加盟決定）
- 9. 12 愛知産別、総同盟県連共催、首切り反対・生活権擁護労働者大会名古屋市、職員1割首切り案を発表（9.20 撤回）
- 9. 14 国鉄当局首切り案撤回、国鉄労働組合ゼネスト中止
- 9. 15 「愛知県食品産業労働組合連合会」結成
- 9. 20 海員組合、首切りを撤回いさせてストを中止
愛知産別主催、首切り反対・生活権擁護労働者大会
- 9. 21 愛知産別、愛知総同盟共催、「首切り反対・生活権擁護労働者大会」（30,000人）
- 10. 1 産別会議の「10月闘争」はじまる
- 10. 5 「全日本電気工業労組愛知県支部」結成（4工場6分会、愛知産別会議に加盟、のち47.2.26「愛岐支部」へ発展）
- 10. 7 「愛知県化学産業労働組合連合会」結成
- 10. 16 金属労組県連（52組合）大会、全日本機器労組に加入を提案・決定をみず、10.19 52組合中36組合は機器労組加盟を決定、のちに（47.1.15）全日本機器労働組合愛知支部として発足

[1946年]

- 1 1. 1 扶桑金属工業（現・住友軽金属）労働組合、賃上げなどで交渉決裂、従業員大会でストライキ決定・ただちに突入、12.5妥協が成立・闘争収拾
- 1 1. 3 日本国憲法公布（47.5.3施行）
愛知産別（13万人）と総同盟県連（3万6千人）が合同について話し合う
- 1 1. 1 6 愛知産別、総同盟県連の戦線統一懇談会
- 1 1. 1 7 「東海地方窯業労働組合連合会」（東海窯連）結成（18組合 10,623人、中立）
- 1 1. 1 8 最低生活権獲得愛知県教育労組大会
- 1 1. 2 6 「全官公庁共同闘争委員会」発足（公務員労働者の2.1ストを組織する）
- 1 2. 2 生活権確保・吉田内閣打倒労働者大会（愛知産別、総同盟県連共催）
- 1 2. 1 6 「愛知県合板労働組合連合会」結成
- 1 2. 1 7 生活権確保・吉田内閣打倒労働者大会（愛知産別、総同盟県連共催）
- 1 2. 2 0 電産争議妥結（「電産型賃金体系」確立）
- 1 2. 2 5 愛教労臨時大会、分裂
- 1 2. 3 1 県内の労働組合、696組合・18万5千余人を組織

【1947年】 2. 1ストにむけてたたかい高揚・中止、「全労連」結成

- 1. 1 吉田首相、ラジオ放送の年頭の挨拶で、労働者を「不逞（ふてい）の輩（やから）」とののしり、労働者の怒りを買う
産別会議、全国の労働者にむかって「用意はよいか、前進だ。民主主義革命の年1947年！」とよびかける
- 1. 6 全鉄労矢島分会、賃上げ、協約締結で争議にはいる（92日間のたたかい）
- 1. 9 全官公労拡大共闘委員会「2月1日午前零時を期してゼネストを敢行する」と宣言
- 1. 1 1 愛知全官公共闘委「ゼネスト態勢確立地方大会」（参加組合・農政局、海運局、气象台、税関、財務局、逓信局、国鉄、県、市、愛教組、「内閣打倒のゼネスト」決行を内外に宣言）
- 1. 1 4 愛教労を脱退した「穏健派」が、「愛知県教員組合連盟」結成
- 1. 2 2 2. 1ゼネストにむけた「愛知県労働組合共闘委員会」結成、2・1ストについての「闘争声明」を発表

[1947年]

1. 27 愛知産別臨時大会
「名古屋市教員組合」結成
1. 28 吉田内閣打倒国民大会
1. 31 占領軍、2. 1スト中止命令
2. 5 愛知労働戦線統一連絡会議を前進させて、「愛知県労働組合会議」
(愛労会議) 結成
2. 10 「愛知県中等学校教員組合」結成(「愛中教」、私立中学校も含む)
2. 12 「愛知県経済復興会議」結成大会(参加団体 愛知産別、総同盟
県連、全自愛知支部、全トヨタ労連、窯連、愛知県工業協会、名古屋商工会議所中小企業復興部会)
2. 14 「愛知県地方自由労働者組合」結成(全日自労の前身)
2. 20 「愛知県国民学校教職員組合」結成
2. 29 「私鉄総連中部地方連合会」結成(9組合参加)
3. 3 愛知県中等学校教員組合、学制変更により 4.1から「愛知県高等学校教員組合(愛高教)」と改称を決定(1954.7 愛知県高等学校教職員組合と改称)
3. 4 愛知県中等学校教員組合と愛知県国民学校教職員組合で「愛知県教員組合協議会」を結成
3. 10 「全国労働組合連絡協議会」(「全労連」) 結成大会
3. 21 世界労連日本視察団団長ルイ・サイヤン氏来日、約2週間日本の労働事情を調査研究
「愛知木材産業労働組合」結成
3. 29 「名古屋市職員労働組合」結成(市職連を単一化)
4. 1 6・3制新教育制度実施
「全日本自動車産業労働組合(全自動車) 東海支部」結成
「愛知県蚕糸従組連合会」結成
4. 10~11 トヨタ自動車コロモ労働組合などが中心となって「全日本自動車労働組合(全自動車) 結成準備会」発足(1948.3.25結成)
4. 15 全港湾名古屋支部、港湾協会と労働協約を締結(ユニオンショップ、唯一団交権、経営・人事同意権、組合活動の自由を認めさす)
4. 20 第1回参議院議員選挙
4. 25 第23回衆議院議員選挙、社会党第一党
4. 28 「全松坂屋従業員組合連合会」結成
4. 29 「日本経営者団体連盟」(日経連) 創立総会

[1947年]

- 5. 3 日本国憲法、地方自治法施行
- 5. 8 「電産中部地方本部」と「電産愛知支部」発足
- 5. 17 「全銀連東海支部」「同愛知分会」結成
- 5. 18 「愛知県印刷工業労働組合連合会」結成
- 5. 24 社会党党首・片山哲、首相に指名される

- 6. 1 片山内閣成立、社会党、民主党、国民協同党三党連立内閣
- 6. 4 豊田自動織機労働組合、賃金引き上げで25日間のストライキ
- 6. 5～7 「国鉄労働組合」結成
- 6. 6 愛労会議主催「労働戦線統一促進大会」（800余人の組合員が参加）
- 6. 9 社会党県連、容共的分子排斥声明を発表
- 6. 28 「愛知県教員組合」結成大会 48.3.8日教組第2回臨時大会で日教組加入承認さる

- 7. 5 片山内閣、標準賃金を1800円ベースにおさえるなどの「新物価体系」（物価は戦前の約65倍、賃金は約25倍）を発表
- 7. 11 愛知県工業協会、「愛知県経営者協会」と改称

- 8. 2 愛知製鋼刈谷分会、生活危機突破資金を求めて107日間のストに突入

- 9. 1 労働省発足、労働基準法施行
- 9. 21 「愛知県陸上小運搬労働組合連合会」結成

- 10. 21 「国家公務員法」公布（1948.7.1施行）

- 11. 7 「国鉄反共連盟」結成（48.3.18国鉄民同）
- 11. 10 全公連と都市同盟が統一して「日本自治団体労働組合総連合（自治労連）」結成

- 12. 16 「愛知県職員労働組合」結成（「職組連合会」単一化）

【1948年】 アメリカ占領軍の政策転換・政府の反動化、労働運動への弾圧はじまる

- 1. 23 総同盟、「労働組合民主化運動」を決定

[1948年]

- 2. 10 片山内閣総辞職（在任期間292日）
- 2. 13 「産別民主化同盟」（産別民同）結成
- 2. 20 名古屋市中区栄町に「愛知産別会館」を竣工（現在の、「三越」の久屋大通り側）
- 2. 28 「自治労連愛知県連合会」結成（愛知県職労、名古屋市職労など13組合、13,886人で結成）
- 3. 8 全通・熱田支部、岡崎支部、生活補給金獲得をめざして24時間ストライキ突入、翌3.9 中村支部も24時間スト、3.12 中央電信局支部も24時間スト、3.19 中央郵便局支部、中郵便局支部24時間スト、3.25 愛知地協・44支部いっせい24時間スト、3.30 東海以西の連合会、いっせい24時間スト、3.31 愛知地協24時間スト（全通の3月闘争）、3.31 アメリカ占領軍の命令でストライキ中止
- 3. 10 芦田内閣成立
- 3. 15、19 全財務愛知地連いっせい賜暇闘争、つづいて3.25 愛知地連独自に21支部で賜暇と現業スト
- 3. 23 電産中部48時間停電スト、家庭は5分間停電スト
- 3. 25～27 「全日本自動車産業労働組合」（全自動車）結成（8支部・96組合・42,179人、59.12 解散）
- 4. 19 「全日本機器豊和分会民主化同盟」（豊和民同）結成
- 6. 12～13 名古屋市外新川町で「産別民同第1回全国大会」ひらく
- 6. 28 総同盟、全労連脱退を声明
- 7. 1 全通・中村支部、内勤者・外勤者の増員を要求して、内勤者が集団欠勤をはじめ、7.5 外勤者もこれにくわわった。当局は政令201号がだされたのを好機とばかりに、9月、組合員2人を懲戒免職、嚴重注意94人の処分をおこなおうとし、地労委に同意を求めたが、地労委は免職は認めず、1949.5.6 地労委は、減俸2人、嚴重注意7人の処分に同意した
- 7. 7 福井大地震（6.28）を口実に、政党、民主団体の活動を封殺するため、福井市が「公安条例」公布（日本で初めて）
- 7. 15 愛知時計労組、臨時大会で賃上げでスト宣言を発表、8.4 生産管理闘争にはいる 8.25 闘争解決
- 7. 22 占領軍司令官マッカサーが政府に書簡・官公労働者のスト権はくだつを命令

[1948年]

- 7. 3 1 芦田内閣、「マ政令201号」を公布し、公務員労働者からスト権をはく奪
 - 全通・昭和支部、全通の政令201号反対闘争に反対して、全通中闘不信任と総辞職勧告の声明を、支部大会で決定、12.29 昭和支部は、多数決で全通脱退を決定
- 8. 4 愛知時計労組、生産管理闘争にはいる 8.25 闘争解決
- 8. 6 政令201号に抗議し「職場離脱闘争」（北海道新得機関区分会から）はじまる、名鉄局管内では、8.30 高山機関区にはじまり美濃太田、名古屋機関区へと波及 9.7 職場離脱者338人に達す（最終的に名鉄局管内で離脱者は5454人となり、逮捕令状執行者54人、検束者23人、免職となったもの49人）
- 8. 1 6 愛知産別・愛知全官公共催「公務員法改悪反対・生活権獲得愛知県人民大会」を県内4カ所でひらく
- 8. 2 5 全通愛知地協臨時大会・中闘信任90、不信任78、白紙6で中闘不信任否決（昭和、名古屋貯金支部などが退場 10.30 昭和・枇杷島・春日井3支部、条件付き脱退）
- 9. 4 「愛知地方民主主義擁護同盟」第1回準備会
- 9. 1 9 「愛知県私立高校教職員組合」結成（淑徳、椋山は愛高教から円満分離し参加）
- 10. 6 全日本機器豊和分会分裂・第2組合結成
 - 10.27 第2組合総会に第1組合員がおしかけ流会させる
 - 10.28 会社、第1組合役員17人を解雇
 - 10.30 「豊和争議団」結成、第2組合員 2194人、第1組合員188人となる
 - 12. 8 「全金属豊和分会」は有効と地裁仮処分判決
 - 12.10 愛知産別主催、豊和争議支援人民大会
- 10. 7 芦田内閣、昭和電工疑獄事件で総辞職（在任期間220日）
- 10. 1 6 「愛知県地方民主主義擁護同盟準備会」結成大会（参加：20団体）
 - 10.31 「同上」主催・民主主義擁護人民大会
 - 12.21 「同上」主催・生活権確保、要求貫徹人民大会
- 11. 4 「全日本金属愛岐支部」発足、機器、鉄労、日車の合同で
- 11. 1 9 第2次吉田内閣成立
- 11. 3 0 国家公務員法改悪（スト禁止、政治活動の制限、労働組合法・労働基準法適用除外など）

[1948年]

- 12. 8 人事院設置(12.10 初の人事院勧告が出される)
- 12. 18 連合国軍総司令部「日本経済安定と復興を目的とする九原則」
(経済安定九原則)を政府に指令
- 12. 22 労働次官通牒「民主的労働組合及び民主的労働関係の助長について」で、「青年部・婦人部は二重権利行使・二重組織である」として組織の解散を指示、このご多くの組合はこの指示で、青年部・婦人部を自主的に解散するところがあらわれた

2、戦後の第一反動攻勢のもとでの労働運動 (49～50年)

【1949年】 民間・企業整備、公務員・行政整理の名のもとで大量首切り・レッドパージが強行され、たたかう労働組合が後退する

1. 10 豊和工業のロックアウトにたいして豊和分会組合員が入門しようとしたのに対し、第2組合員が入門を阻止しようと乱闘、以降小競り合いがつづく

1. 17 世界労連、分裂 (11.28 「国際自由労連」結成)

1. 23 第24回衆議院議員選挙、民主自由党単独過半数を獲得、社会党後退、日本共産党35人当選 (愛知1区 [名古屋市] から共産党代議士誕生)

2. 5 名古屋地裁、豊和工業の豊和分会組合員17人の解雇は有効と不当判決

2. 11 600余人の武装警官、豊和分会と支援労働者を住居侵入、公務執行妨害で121人を検挙 (占領軍まで介入、逮捕者、豊和第一27、大同製鋼33、名造船18、大隈工業11、岡本工業7、三菱名機4、日車3、その他16、うち23人起訴、罰金1,000円 1人、500円 22人)

2. 12 豊和第2組合幹部16人と会社警備課長が警察に検束される

2. 15 豊和分会の弾圧に全金属愛岐支部抗議スト (2万5千人参加) 新川町で抗議集会 約5千人、これにたいして武装警官3千人 アメリカ占領軍も出動した

2. 19 豊和工業弾圧事件、119人中69人釈放、「不当弾圧犠牲者歓迎集会」ひらく

2. 26 政府、「行政整理要綱」発表 (4.30 267,300人と決定)

3. 15 大同製鋼、2,145人の人員整理基準を発表 (「郷土産業を守れ」と3カ月ちかくにわたる争議となる、5.10～21 大西共闘議長 [県会議員] らハンストに突入、5.24 桐谷県副知事から争議解決の斡旋案提示される、6.7 斡旋案を受諾して終結、7.5「大同製鋼失業者同盟」結成、約140人)

ーその他の「企業整備」(首切り) 愛知製鋼刈谷600、愛知時計484 (3.13)、岡本工業6～700 (4.23)、三菱電気・全国で1,800 (5.6)、扶桑金属2,052 (6.3)、鳴海製陶 240 (6.3)、日本特殊陶業 女子250 (7.4)、日本碍子250人 (7.11)、日本車両1,100 (7.20) など

[1949年]

- 3. 2 3 占領軍、組合専従者に賃金支払い禁止を命令
- 4. 1 1 豊和分会17人の解雇とりけし(4.16復職)、平田、安藤ら7人は自発的退職、4.12 豊和工業第1、第2組合無条件合同、半年つづいた争議に終止符
- 4. 1 3 政府、地方公務員の整理方針を決定
- 5. 1 3 「県公安条例反対闘争委員会」結成(愛知産別、総同盟、全財、全通、全官公、金属、国鉄、窯連、名大職組、愛高教、社会党、共産党、労農党など)、5.27 「地方公安条例制定反対大会」(栄町日活スタジアム)
- 5. 1 6 総同盟県連も公安条例制定反対を表明
- 5. 1 8 愛知県、教員2千人の首切りを発表
- 5. 2 7 名古屋鉄道局、管内の臨時人夫1,607人名中、1,079人に解雇通知
「愛知県公安条例反対総決起大会」
- 5. 3 1 「行政機関職員定員法」制定(6.1施行)
- 6. 1 3 総同盟県連、愛労会議脱退を決める
- 6. 2 9 名古屋交通労組と市交通局職員労組が合同
- 7. 1 急施臨時県議会に公安条例(「行進又は集団示威運動に関する条例」案)を上程、これを阻止しようと「数千の労働者がおしかけ、議場の傍聴に650人、議場内で赤旗をふり、労働歌を唄う」など抗議するが、賛成多数で可決(翌2日公布、5日施行)
- 7. 4 日本特殊陶業、女子労働者250人を首切り
- 7. 4~5 国鉄、各鉄道局いっせいに30,700人に解雇を通告、名鉄局管内で1,700人に解雇通告
- 7. 5 「大同製鋼失業者同盟」結成大会
- 7. 5 「下山事件」(国鉄総裁が行方不明となり、翌日未明、れき死体で発見された事件)発生
- 7. 7 大隈工業、1割の賃下げ
- 7. 1 3~1 6 国鉄第2次解雇通告 60,300人、国労左派中闘17人を解雇、名鉄局管内 7,589人、解雇された組合役員の組合事務所立ち入りが阻止される
- 7. 1 5 「三鷹事件」(深夜、無人電車の暴走事件)発生
- 7. 2 2 国労民同「ゼロ号指令」を発し、解雇された組合幹部を排除、国労を乗取るす
- 7. 2 5 国税庁、3千余人の首切りを通告

[1949年]

- 7. 27 労働省、約2,800人の首切り発表
- 7. 30 農林省、4,300人の首切り提案
- 8. 1 「熱田自由労働組合」結成（当初約200人、50.3 約3,600人）
- 8. 10 「全名古屋日雇労働組合連合会」結成
- 8. 11 郵政省、全通労組に11,500人の人員整理を通告、8.12 名古屋郵政局・東海電通局 県内 108人に「人員整理」を通告
- 8. 15 豊和工業、4割の賃下げを提案
- 8. 16 「愛知県労働組合統一会議準備会」結成大会（総同盟と「民同」による「民主的労働組合」のあらたな労戦統一を志向するもの）
- 8. 17 愛知県議会、「県職員定数条例」を賛成多数で決決して「松川事件」発生
- 8. 22 名古屋市、「行政整理」14人に辞職勧告（11人は共産黨員）
9.21 2人地労委へ提訴 50.5.30 1人に救済命令
名古屋市交通局、名交労組本部役員4人を含む28人に「退職勧告」（2名退職拒否・解雇）
- 8. 29 全財（税務署職員の組合）名古屋国税局管内 282人の「行政整理」発表
- 8. 31 愛知県、愛知県職労役員14人をを含む186人に退職勧告（拒否者、役員8人をを含む14人） 8.27 県職労臨時大会、「人員整理は不当、闘う」ことを決議 9.21 8人が地労委へ提訴（50.4.4 6人に救済命令）、9.24 臨時大会、解雇された役員を除外して役員改選、10.22 県当局、県職労の組合事務所の明け渡しを要求
豊橋市、第1次人員整理（77人）
- 8. ー 春日井市、組合役員3人をを含む11人を「行政整理」、9.3 役員3人は解雇取り消し
- 9. 10 半田金属624人の退職者、10.11「半田金属退職者同盟」93人の参加で結成
- 9. 28 愛知県、第2次人員整理・96人に退職を強要
- 10. 3 豊橋市、第2次人員整理（10人）
名古屋造船、350人の首切りと2割賃下げを発表 10.26 労組、首切り反対でスト
- 10. 7 自労笹島、大曾根、熱田、「仕事をあたえよ」で市役所におしかける
- 10. 14 県労働組合統一会議準備会と国労、電産愛知支部共催「愛知県労働者大会」ひらく、22項目の「要望書」を政府と衆参両院議長当てに提出した

[1949年]

- 10.22 半田市、第1次行政整理・3人、11.末 第2次・23人
- 10.24 名古屋市、第2次人員整理(125人)
- 10.28 名古屋市交通局、第2次人員整理(206人)
- 10.― 愛知県労働組合統一会議、愛知総同盟愛知県連などで「愛知県国会対策共同闘争会議」結成
- 11. 1 県教委、レッドパージ(3人)
- 12. 1 名古屋市教委、レッドパージ(1人)
- 12.17 豊和工業、300人の首切り発表、50.1.31妥結
- 12.24 全自動車トヨタコロモ分会、「1割の賃下げを承認して首切りを回避する」ことで覚書調印
- 12.― 「愛知県保険医協会」結成総会

【1950年】 トヨタ自動車の大争議、朝鮮戦争の勃発、レッドパージの強行、反共を旗印にした「総評」・「愛労評」結成

- 1. 7 「愛知県民主商工協会」結成(愛商連の前身、48.1から中区、昭和区、中川区の下之一色、西区、港区、熱田区、津島市、千種区、新川町などの「納税民主化同盟」・現在の「民商」が大同団結し組織した。1970.9.27 「愛知県商工団体連合会」・愛商連と改称)
- 1.30 「岡崎市自由労働組合」結成、岡崎市に全員就労を認めさせる
- 2. 8 高丘製作所、150人の首切り
- 2. 9 愛知県職員労働組合、自治労連からの脱退を決議
- 2.13 「笹島自由労働組合」結成大会
- 2.24 愛知県国会対策共同闘争会議、「労働者大会」をひらく(県労働会館、約350人参加、屋外で労働者大会とデモをおこなう予定であったが、占領軍の妨害で実現できず、屋内集会のみとなった)
- 2.― 愛知県国会対策共同闘争会議、マッカーサー占領軍指令官に「賃金ベース改訂に関する懇請書」を提出
- 3. 7 愛知県国会対策共同闘争会議、「労働者大会」(3,500人参加)
- 3.13 愛知時計、484人の首切り発表
- 3.22 「知多自由労働組合」結成大会
- 3.25 愛知県国会対策共同闘争会議、「労働者大会」をひらく(東別院広場、3,000人参加)

[1950年]

- 3. 3 1 日本電装、528人の首切り、労働時間1時間延長など提案
(4.1 533に指名解雇 4.29妥結)
「豊橋自由労働組合」結成大会(組合員130人)
- 4. 4 「津島自由労働組合」結成(組合員105人)
- 4. 5 西臨港線開通式に、中、南などの自由労働者、失業反対同盟員が
「職よこせ」でデモ行進、6人が逮捕される、4.7 6人の釈放と
「仕事をよこせ」で笹島、熱田の自由労働者が県庁などにおしかけ
る
「瀬戸自由労働組合」結成(組合員160人)
- 4. 7 全自動車トヨタ分会、賃金遅配解消のため 4.9から争議行為には
いることを通知
- 4. 8 「自由労働者笹島支部新川労働組合」結成(組合員150人)
- 4. 1 4 「刈谷自由労働組合」結成(組合員93人)
- 4. 1 7 「大曾根登録労働者組合」結成(組合員約700人)
- 4. 1 9 挙母町(現・豊田市)議会、トヨタの首切り反対を決議
- 4. 2 2 トヨタ自動車、1割賃下げ・1,600人の首切り(5人に1人)
を発表、全自動車トヨタコロモ分会・首切り反対闘争(4.24、4.28、
5.5~8スト、6.7~9ハnst) 6.9 闘争終結、退職者2,146
人、残留者の賃金1割引き下げ
6.25 朝鮮戦争勃発、特需により、1950.5. 月産304台が、50.8に
は1,096台、51.3には1,542台と急増、このため戦後一貫して株式配
当・無配から1951.4期以降、連続4期・3割の高配当となる
- 6. 4 第2回参議院議員選挙
- 6. 6 占領軍、政府に日本共産党中央委員の公職追放を指令
- 6. 6~25 遅払い賃金の支払いなどの要求で、新大同製鋼労連、製品出
荷強行阻止闘争(6.17 会社側、武装警官約600人の援護のもとで出
荷強行、6.25 組合側出荷拒否闘争を解除)
- 6. 1 6 占領軍の命令で、全国的に集会・デモが禁止される
- 6. 2 5 朝鮮戦争勃発 6.26「アカハタ」の発刊停止(52.5.1復刊)
- 7. 3 大同製鋼、出荷拒否闘争で連合会委員長以下19人を懲戒解雇
- 7. 1 1~12 「日本労働組合総評議会」(総評)結成大会
- 7. 1 2 電産中央常任執行委員会「電産非常事態収拾に関する特別指令」
(組合員再登録による「共産派」排除) 8.25 電産、「特別指令反
対者」を除名、権利停止
- 7. 2 0 中日本重工(現・三菱重工)名古屋、6,581人中1,136
人の首切りを発表

[1950年]

7. 2 7 朝日新聞中部支社 8人、名古屋中央放送局 (NHK) 1人、レッド
パーズ、これ以降主要産業・企業でレッド・パーズあいつぐ
ー中部日本新聞 (8.2) 36、名古屋タイムズ (8.3) 4、電産中部
(8.23) 133 (=愛知12)、日通名古屋 (9.25) 72 (愛知・38)、
中日本重工=三菱重工 (10.10) 32、農林省愛知作物報告事務所
(10.14) 8、三菱電機(10.14) 7、名鉄 (10.23) 21、大同製鋼
(10.25) 21、名古屋造船 (10.30) 20、東亜合成 (10.30) 18、大
隈工業 (11.9) 12、名古屋郵政局 (11.15) 3、豊田自動織機 (12.
19) 7、など計34社・事業所357人。ほとんどの組合はレ・パ
を容認、反対闘争は組織できなかった

7. 3 1 特殊軽金属、156人の首切りを発表

7. ー 「愛知県自由労働組合連合会」結成 (8.全日土建・産別会議加盟
に加盟、1954.9「全日本自由労働組合愛知県支部」と改称)

8. 2 1 「愛知県地方労働組合評議会」(愛労評)結成第1回準備会

8. 2 6 経営者側、中部配電138、日本発送電89人解雇通告 (全国、
2,137)

8. 2 9 電産中部地本、98.5%の組合員が「確認書」(組合員再登録)提
出

8. 3 0 占領軍、政府に「全労連」の解散を指令、役員12人を公職追放

8. 3 1 製造、販売一体の「全日本自動車産業労働組合トヨタ自動車分会」
結成大会

9. 1 政府、閣議で「あらゆる産業部門にわたるレッドパーズ」方針を
正式に決定 (全国で、民間24産業・573社 10,972人、政府機関 1,
196人・11月末現在)

10. 2 3 「愛知県地方労働組合評議会」(愛労評)結成大会 (10組合、約
103,000人)

11. 3 「総同盟県連」第7回年次大会で解散を決定 (愛労評に合流のため)

11. 2 1 「愛知県民主労組闘争委員会」(民労闘)発足

12. 9 岡本自転車労組、労働協約と越年資金要求で闘争宣言、14 ハン
スト

12. 1 1 民労闘主催「要求貫徹労働者大会」

12. 1 3 「地方公務員法」制定 (スト禁止条項、労働組合法適用除外など
をもちこむ)

II 安保体制・経済成長下の労働運動 (1951～60年)

1 サンフランシスコ講和条約・日米安保条締結下の労働運動 (51～54年)

【1951年】 講和条約・日米安保条約調印

2. 27 「名古屋港湾自由労働組合」結成大会（港湾労働会館、約250人参加）

3. — 「東海統一情報懇談会」（総評運動に批判的な、全自東海支部、大同製鋼、名古屋造船、名古屋市職など15団体・44,000人が参加）
発足

3. 10～12 総評第2回大会、平和四原則確立、国際自由労連一括加盟
否決（ニワトリからアヒルに転換）、3.28 総同盟解散 29 総同
宣言」 4.21, 23 2時間スト 24から無期限スト 5.7、8 24時間
スト 5.8 アメリカ占領軍・軍政部介入、5.9 交渉妥結

4. 1 「東海鉄鋼労組連合会」（8組合）結成

4. 7 中労委、名古屋市職労書記長の「行政整理」による解雇（1949.8）
は不当労働行為として、原職復帰を命令（のちに、市当局との話し
合いで、一時外郭団体に就職、その後市役所の復職）

4. 15 全港湾名古屋支部、退職金でスト

5. 1 「中部電力株式会社」発足

6. — 「愛知県総合開発計画」策定

7. 4 「愛知県労働法規改悪反対闘争委員会」（愛労闘）結成

7. 10 朝鮮戦争・休戦会談はじまる

7. 30 トヨタ自動車、労働組合と無協約時代にはいる

8. — 「全電通東海地方連絡協議会」結成（50.9 全電通は全通から分
離独立、52.8 電電公社発足）

8. 10 「愛知県平和推進国民会議」結成

8. 16 労働法規改悪反対で、瀬戸地区労働者大会、鳴海地区労働者大会
がひらかれる、9.22までに、県下各地で労働者大会がひらかれた

[1951年]

- 9. 4～ 8 サンフランシスコ講和会議、9.8 対日講和条約調印、日米安保条約調印
- 9. 6 愛労評第2回大会、総評との関係は密接・有機的に強化する。国鉄・小山案の講和条約反対、海員・内山案の講和条約賛成・再軍備反対を、討論採決の結果、絶対多数で小山案を決定
- 9. 26 「労働法規改悪反対愛知県大会」（愛知労働会館、30団体・636人参加）
- 10. 1 全自動車トヨタ分会、賃金引き上げを要求 10.17 「17日より全職場時間外作業拒否」を決定、10.19 スト権確立 26、29 全面スト 29 妥結
- 10. 10 電産争議～ 12.4 解決
- 10. 30 「危機突破スト禁止法制定反対愛知県労働者総決起大会」（51. 11 政府、法案国会提出あきらめる）
- 11. 22 日本陶器、共産党員である組合活動家・元役員を排除するため、3人を懲戒解雇、つづいて11.30「人員整理実施要綱」を発表、21人の整理を通告、18人の元組合役員、サークル活動家などの解雇を組合と合意
- 12. 25 津島市役所、2割の人員整理案発表、反対闘争を展開、52.1.31 15人が解雇される

【1952年】 労働法規改悪反対闘争、占領から半占領・対米従属へ

- 1. 18 「労働法規改悪反対懇談会（総評オルグ講座）」3カ所でひらかれる
- 3. 1 全自動車・トヨタ自動車分会、労働法規改悪反対・労働者決起大会をひらく
- 3. 26 「弾圧法規反対労働者総決起大会」（愛知労働会館、350人参加）
- 4. 12 労働法規改悪反対闘争（「労闘」）第1波スト（全自動車各分会24時間スト、電産2時間スト）、「弾圧法規粉碎愛知県総決起大会」（鶴舞スタジアム、41団体・約6,000人参加）
- 4. 18 「労闘」第2波スト
- 6. 7 「労闘」第3波スト、6.17 「労闘」第3波第2次スト

[1952年]

- 6. 20 「労闘」第4波スト (7.3 破防法、7.31 労働3法改正成立)
- 7. 4 「愛知県労働法規改悪反対闘争委員会」(愛労闘)結成
- 7. 7 ソ連、中国にわたった帆足・宮腰代議士をむかえて「報告大会」(大須球場)、集会閉会このデモ隊に警官隊が襲撃・「大須事件」発生、98人が検挙される
- 7. 15 日通笹島支店、賃金差額清算払いを要求して時間内にくいこむ職場常会(6.18)をひらいたことを理由に、全日通笹島支部の委員長ら役員7人を懲戒解雇、7.10 地労委に提訴、7.19 地裁に身分保全の仮処分申請
- 7. 28 「名古屋市職員労働組合連合会」(名古屋市労連)結成大会
- 9. 14～15 「笹島事件における不当解雇白紙撤回」を求めて、「全日通労働組合総決起臨時全国大会」が、名古屋市内でひらかれ、15大会終了後市内をデモ行進
- 9. 24 電産争議 16波におよぶ電源・停電スト
- 9. 25 「愛知労働金庫」創立総会 10.29 営業開始
- 9. 28 名古屋市長選挙、社会党推薦の小林橘川氏が当選
- 9. 30 海運産業労組名古屋地協がよびかけて、「伊良湖岬試砲場設置反対期成同盟」結成(1953.秋、山本薩夫監督の「伊良湖岬」上映)
- 10. 24 全日通笹島支部懲戒処分撤回闘争(6.18職場常会、7.15処分)、9.29スト体制確立 10.15地労委が調停、11.17 懲戒処分の取り消しが実現、紛争は解決
- 10. 一一 第25回衆議院議員選挙
- 11. 10 電産離脱組が「中部電力愛知労組」を結成
- 12. 18～20 「中部電力労働組合」結成(電産中部地本17,005人中 11,484人参加)

【1953年】 朝鮮戦争休戦・不況

- 1. 25 「東海民主主義労働運動連絡協議会準備会」 4.6 結成大会(やがて「愛知同盟」に発展)
- 3. 12 愛教組、日教組のいっせい休暇闘争にかえて、「教育防衛総決起大会」をひらく(市金山体育館、約2,000人参加)

[1953年]

- 4. 1 名古屋市立高等学校教員組合、愛高教から分離
- 4. 19 第26回衆議院議員選挙
- 4. 24 第3回参議院議員選挙
- 5. 25 日産、組合に対して工場閉鎖準備を通告、日産争議始まる 8.11
日産争議終わる 100日間争議・第2組合結成で敗北
- 5. 30 名古屋港弾薬集積所設置反対闘争はじまる
- 5. — 「伊勢湾工業地帯建設期成同盟」結成
- 7. 17 全自動車3社共闘統一スト
- 7. 27 朝鮮戦争休戦協定調印
- 8. 5 「スト規制法」成立
- 9. 25 台風13号による被害激甚・44万人が被災、愛労評、民主団体
などで「愛知県民主団体水害復興対策会議」を結成、救援・復興活
動をはじめる
- 11. 30 「全国金属労働組合愛知地方本部」結成（全国金属加盟の「中部
金属労働組合」と「全国繊維機械産業労働組合」加盟の5支部が統一、
加盟支部40、組合員9,300人）
- 12. 21 全織同盟愛知支部、愛労評脱退決議（54.2.20 正式に脱退）

【1954年】 名古屋証券取引所に労働組合結成、争議・無期限スト

- 1. 26 国労18人の幹部解雇にたいして順法闘争方針決定
- 3. 1 第5福竜丸ビキニで水爆被災
- 4. 15 愛労評、愛教組「教育防衛大会」（約3,000人参加）
- 4. 22 「全日本労働組合会議」（全労）結成
- 5. 29 近江絹糸人権争議、106日間の大闘争 9.16 妥結
- 6. 20 大阪証券取引所争議・組合結成 8.23→無期限スト8.30解決
- 7. 28 東京証券取引所争議 10.26 24時間スト 警察の実力介入

[1954年]

8. 3 1 全国金属・豊田工機支部に賃下げ提案につづいて、350人余の首切り提案（1カ月にわたるたたかいの結果、条件闘争で終結）

9. 4 「名古屋証券取引所従業員組合」結成大会（近江絹糸の人権争議、さらに大阪・東京証券争議に刺激されて組合結成） 9.9 臨時大会で「要求事項」とともに「スト権確立」、組合の名称を「労働組合」に変更、10.3 東京、大阪、名古屋、神戸の「4証券取引所労組共闘連絡会議」結成、10.5 24時間スト、10.6以降 無期限スト 10.15 地労委の斡旋で円満妥結、闘争終結（愛労評は結成いろいろの大闘争、10.5～13 のべ5,000人を動員）

9. 5 豊田工機労働組合、人員整理反対闘争でストライキ、9.10 366人の人員整理実施

9. 1 8 全国金属・佐竹鉄工支部に、80人の首切り提案（希望退職74人で終結） このころ、9月、大府産業で工場閉鎖・全員解雇、10月、中央発条で臨時工の首切り・賃下げ提案、日本染色で首切り提案（希望退職で妥結）、55年、高砂鉄工で首切り・賃下げ提案、名古屋アルミ（現、東海プレス）に首切り・賃下げ提案、とつづいた

11. 1 4 全自動車東海支部臨時大会・解散決定、12.1 全自動車労働組合・解散

12. 1 0 「鳩山内閣」成立

12. 2 2 愛知印刷労連・笹徳印刷労組（港区）の争議（越年資金要求を拒否、11.28 社長宅で第2組合結成、首切り「54人中41人の整理」）、製品搬入・搬出をめぐる第1、第2組合とのトラブルに、武装警官約100人と私服警官の介入、1955.1.22 地労委のあっせんで妥結・闘争収拾

12. 2 3 炭労、私鉄、合化、電産、紙パで「5単産共闘会議」結成（事実上、春闘はじまる、のちに全国金属などをくわえ「8単産共闘」となる）

2 戦闘性を回復した労働運動

(55～58年)

【1955年】 農民と労働者の共闘で小牧基地拡張反対闘争

- 1. 10 総評、5単産を春季賃上げ闘争の柱とすることをきめた
- 1. 19 全自動車コロモ分会、「トヨタ自動車労組」と改称
- 1. 22 他単産もくわえ、「春季賃上げ共闘会議」（8単産共闘）設置
- 1. 23 「日本自動車産業労働組合連合会」（「自動車労連」、日産自動車とその系列の組合の連合体）結成
- 1. 24 三菱電機、中部電力、全織同盟県支部などで「愛知県労働組合会議」（仮称）準備会 2.17 準備会 3.29 準備会
- 1. 26 中部電力労組、「職階給制度採用の協定」に調印
- 1. 28 「中部生産性懇談会」発足
- 1. ー 全港湾名古屋支部から、「藤木」「大洋」「協和」の船内労働者が脱退（第1次分裂）

2. 5 「原水爆禁止運動愛知県協議会」結成（商工館ホール）

2. 27 第27回衆議院議員選挙、革新1/3を制す

3. 1 新三菱重工労働組合（2万人）、総同盟に一括加盟

3. 4 日経連、春闘批判「当面の賃金問題にたいするわれわれの見解」を発表

ー 要点 ①物価高のもと、製品コスト引き下げが急務であり企業経理改善が先決、②ベア方式による賃上げは、企業経理を脅かし雇用安定に影響するなど妥当でない、等であった。これ以降、日経連は毎年、春闘批判を展開してきた

3. 6 「自動車産業労組東海地方連合会」（自動車東海）結成（トヨタ自動車、トヨタ自販、大豊、拳母鉄工、トヨモータース、津田、スプリング、新川、トヨタ車体、日本電装、愛工、日特、名古屋ゴム、愛三、メタル岐阜、みずほ螺子、18組合）

3. 27 55春闘、第1波実力行使（私鉄24時間、3.28炭労大手、合化など24時間スト）

3. 28 全国金属・大府産業支部、工場閉鎖・全員解雇のため支部を解散名古屋調達局、小牧基地拡張のため、関係2市3村に立ち入り調査を申し入れ

3. 29 小牧基地拡張反対で、北里村（現、小牧市）代表300人が県庁に集団陳情 5.2 北里村議会、拡張反対を決議

[1955年]

4. 29 渡辺製菓（西区と東京に事業所、総従業員1,376人、名古屋696人）は、経営不振のため、無期限の臨時休業を発表、渡辺製菓労働組合、スト権確立、会社再建、退職者に対する退職手当の増額などを要求、希望退職者予定人員を上回り、会社の再建のメドたたず、8.20 組合大会で解散を決定、残留者も同日付けで退職

[1955年]

5. 2 犬山市役所、特別職8人、一般職員36人に退職勧告、組合を結成して反対闘争 6.15 団交で、市長首切り撤回・反対闘争勝利
5. 6 砂川基地闘争はじまる 5.12 砂川町議会、反対を決議、町議全員が闘争委員に
5. 17 小牧飛行場拡張問題で2市3町連絡協議会発足
5. 18 愛労評「小牧基地拡張反対闘争委員会」設置
5. 29 小牧飛行場拡張反対居住者大会（北里村）
5. 30 名鉄労組、臨時給与「年間協定」受諾
6. 1 「鉄鋼労連東海地協」結成・愛労評に一括加盟（大同星崎、同築地、鉄鋼刈谷、同知多、神鋼名古屋、川崎知多、矢作製鉄、東邦製鋼の8単組）
6. 4 第1回愛知母親大会（市教育館、350人参加、日本大会参加8人）
6. 7～8 第1回日本母親大会
6. 9 トヨタ車体、退職金を従来の1/2～1/3に切下げを提案
6. 17 トヨタ自動車、操業短縮を提案 7.4 組合承認
6. 20 小牧基地拡張反対県民大会（1,000人参加）
7. 2 中京タクシー（中区、従業員81人）、中京タクシー労働組合（組合員75人）の組合長、書記長を会社業務に非協力的として解雇通告、7.3 組合臨時大会で首切り反対を決議、7.4 会社側、営業所閉鎖、7.5 地労委に提訴、会社側は営業所を再開、地労委の斡旋に応じ7.14 地労委の斡旋で、組合長、書記長の解雇をみとめることになった
7. 11 愛労評、小牧基地反対闘争を強めるため、現地に常駐オルグを派遣、街頭署名運動と宣伝をはじめる
7. 22 トヨタ車体労組組合大会で闘争体制確立、翌日スト権投票・スト権確立、7.30 トヨタ車体、経営不振を理由に128人の人員整理を発表、8.1 労働組合スト突入（～8.13）
7. 25 総評、全国一般合同労組連絡協議会（のちの「全国一般」）発足
7. 26～29 総評第6回大会、事務局長に岩井章を選出
7. 30 トヨタ車体、経営不振を理由に128人の人員整理を発表、8.1 労働組合無期限ストに突入（～8.13）、8.13 争議解決

[1955年]

- 8. 2 名証券労組、退職金を規定どおり支給せよと、たたかいをはじめ
る 8.19 組合役員ハNST (108時間でドクターストップで中止)
8.22 専務退陣要求 8.29 組合役員3人を懲戒解雇 9.5 地労委
へ不当労働行為救済申し立て、57.7.18 地労委、救済申し立てを棄
却、組合中労委へ再審を申し立て
- 8. 2 松竹タクシー (東区、従業員25人) は、3人を不正行為を理由に
解雇、8.7 組合結成 (組合員22人)、団交拒否、8.30 地労委に不
当労働行為救済申し立て、9.12 スト突入、「愛旅同盟」のスト解
除勧告に応じて、9.15スト解除、10.6 地労委の非公式斡旋で、組
合長の懲戒解雇取り消し、円満退職・金一封 (1万円) で解決、他
の2人は復職させることで解決
- 8. 6 ~ 8 第1回原水爆禁止世界大会 (広島市、愛知県代表46人)
- 8. 15 愛労評、民主団体主催「終戦10周年記念愛知平和祭り」 (金山
体育館)
- 8. 20 朝鮮戦争特需 (火薬) の極度の減少のため、日本油脂武豊工場、
臨時工431人の指名解雇
- 8. 26 小牧北里村で基地撤去の村民大会 (975戸から、1,200人参加)
- 9. 6 鉄鋼労連初の産業別統一闘争~9.22 4波にわたるスト
- 9. 19 「原水爆禁止日本協議会」 (原水協) 結成
- 10. 1 「愛知県労働組合協議会」結成大会 (全織同盟県支部、海員、食
品労連、中部電力、新三菱重工、国鉄機関車など)
- 10. 11 全織同盟綿紡部会、無期限全面スト~11.2
- 10. - 「愛知用水公団」発足
- 11. 26 東海電極労組、年末手当要求で96時間スト 12.7中労委斡旋で妥
結
- 12. 7 ~ 12 小牧基地を守るタベひらく (7 刈谷、8 名古屋、9 瀬戸、
10 豊橋、11 岡崎、12 豊田)

【1956年】 小牧基地拡張反対闘争つづく

- 1. 23 愛労評、名古屋証券取引所労働組合の闘争支援のため、組合員1
人・1円のカンパ (総額10万円) を傘下組合に要請

[1956年]

- 2. 15 56春闘、第1波～2.20 公労協を主とした官公労も参加
- 3. ー 第2回愛知母親大会（市公会堂、「愛知母親大会連絡会」発足）
- 4. 8 小選挙区制反対県民大会
- 4. 14 「愛知県一般労組連合会」結成
- 4. 16 「生産性中部地方本部」発会式
- 5. 9 中部電力労組、全労に加盟
- 7. 3 経済企画庁、5月の鉱工業生産指数、戦後最高と発表（神武景気）、
7.17 「経済白書」発表くもはや戦後ではない>と
- 7. ー 第4回参議院議員選挙
- 8. 9 杉山合板、突如「企業不振で工場閉鎖」を宣言、8.7 杉山合板労
働組合結成にたいする偽装倒産、愛知合板労連の支援をえて30日
のたたかいで、9月発足の新会社・中日プライウッドに再雇用させ
た（第二組合を統一、そのご瑞穂合板労働組合へと発展した）
- 8. 14 名古屋証券取引所、全従業員に組合員かどうかの調査票を配布、
不当介入
- 8. 25～28 総評第7回大会、共産党との共闘禁止方針を削除
- 9. 8 「全国中立労働組合連絡会議」（中立労連）発足
- 9. 26 名古屋市長に小林橘川氏当選（再選）
- 9. 29 鉄鋼労連、産業別統一賃金闘争で24時間全面スト、以後5波に
わたるスト 11.6妥結
- 10. 1 CBC契約者労働組合（劇団労組）結成、10.6 争議（無期限ス
ト）突入、10.31 劇団員全員解雇、11.13 契約条件切り下げ案を
受諾して解雇撤回・争議終結
- 12. 12 「小牧基地拡張反対同盟」結成
- 12. 23 石橋湛山内閣成立（在任期間65日）

【1957年】 小牧基地拡張反対闘争さらにつづく、公労協への大量処分

- 1. 14 「小牧基地拡張反対闘争支援団体協議会」結成
- 1. 19 「愛知県私立学校教職員組合協議会」（愛私教）結成

[1957年]

1. 20 「愛知県原水爆被災者同盟」発足
1. 26 「小牧基地拡張反対総決起大会」を現地（北里村）でひらく
2. 13 神鋼名古屋工場、分離独立提案 4.20 スト権確立 5.11 会社
白紙撤回
2. 25 「岸信介内閣」成立
3. 1 「原水爆禁止愛知県協議会」結成（理事長 坂田昌一名大教授）
3. 30 「小牧基地闘争2周年記念平和集会」を現地でひらく
5. 2 はげしい切り崩しとたたかう北里村農民の小牧基地拡張反対闘争
に、労働組合が連日支援オルグ派遣
5. 8 三公社五現業当局、公労協の春闘統一闘争にたいして、国鉄の解
雇23人をふくむ888人の大量処分、7.9 国鉄当局、被解雇者を
三役に選出したとして団交拒否
7. 20 小牧基地拡張工事強行、緊急動員（以降連日の動員で阻止行動）
7. 31 名古屋証券闘争に対する委員長の解雇取り消しの提訴で、愛知地
労委は棄却命令をだす
8. 6 「小牧基地拡張反対抗議集会」（北里村小針神社、3,000人参加）
9. 16 白砂電機、従業員415人中、305人解雇を組合に通告 9.21
工場閉鎖 10.1 地労委の斡旋案を労使受諾、解決（10.14 第二会
社設立、従業員200人で再出発）
9. 24 愛知県教育委員会、11.1以降例年どおり勤評実施を発表
9. 25 日教組、勤務評定反対全国いっせい職場集会
10. 3 第3回愛知母親大会（市公会堂、500人参加）
10. 8 鉄鋼労連争議、最大の賃上げ争議、11波19日間の波状スト、
ゼロ回答を破れず 12.13終息
10. 27～28 産別会議第7回大会、「解散」を決定
11. 20 名教組・名高教・愛高教共催「勤評阻止要求名古屋市大会」 12.
6 教育委員会へ勤評の実施延期を申し入れ（愛知県は、すでに52年
から勤評は実施いた）、12.22 日教組第16回臨時大会、勤評反対闘
争で「非常事態宣言」

[1958年]

【1958年】 勤評闘争と王子製紙争議、愛知産別解散、警職法反対闘争

- 1. 28 愛教組臨時大会で勤評反対を決議
- 1. 29 愛高教臨時大会で勤評反対を決議
- 2. 9 「勤評絶対反対総決起大会」（鶴舞スタジアム、25,000人参加）
- 2. 16 全国金属と全金属（産別）と統一大会
- 3. 20 全逓中央郵便局支部、時間内くいこみ職場大会、4.28 郵政省、
全逓幹部ら7人の免職をふくむ22,478人の春闘処分発表
5.10 警察当局が名古屋中郵支部を強制捜査、5.13 支部組合員
12人に任意出頭をもとめる、9人を逮捕、5.26 地区本部委員長
ら2人、6.9 地区本部書記長ら3人を逮捕、8.4 4人を起訴
（「名古屋中郵事件」）、1審有罪、2審無罪、1976.5.4 最高裁
逆転有罪判決
- 3. 30 「働く婦人の愛知県中央集会」ひらく
- 4. 20 「勤評反対第2回総決起大会」（県庁前広場、11,000人参加）
- 4. 23 都教組、勤評反対で10割休暇闘争
- 4. 28 郵政省、全逓幹部ら7人の免職をふくむ2万2478人の春闘処
分 5.28 組合員大量逮捕、8.4 東京、名古屋で幹部起訴、全逓東
京、名古屋中郵事件へ 5.13 名古屋中郵組合員9名検挙、6.9 全
逓地区本部役員2名逮捕
- 5. 17 「生活と権利と教育を守る総決起大会」（テレビ塔下、6,000人参
加）
- 5. 22 瀬栄陶器労組、賃上げ要求で争議はじまる 8.29 職場放棄
- 5. 25 第28回衆議院議員選挙
- 6. 14 「愛知松川事件対策協議会」結成
- 6. 25 日教組、勤評反対全国統一行動
- 7. 9 日教組、勤評反対第2波全国統一行動、愛教組各地で定時退校
- 7. 18 王子製紙労組、労協闘争で無期限ストに突入（王子製紙争議）
8.4 各支部で第2組合結成（～8.11） 愛労評、春日井支部に連
日炎天下の支援動員、8.22 5人逮捕、9.14 3人逮捕、9.5 1
人逮捕、9.14 第2組合200人が工場内に突入、9.15 第1組
合にたいしてロックアウト、11.21中労委あっせん案提示、11.23
双方受諾、12.8 中労委の斡旋案で妥結調印、12.9スト解除、

[1958年]

145日の大争議終結

7.21～25 総評第10回大会、太田・岩井体制確立

8.2 王子製紙闘争、分裂のうごきにたいして愛労評3,000人の支援動員

8.8 王子製紙工業新労働組合結成（第2組合）、8.11 王子春日井で第2組合結成

8.19 全港湾東海地本、エリコン荷揚げ拒否決定、8.22 「エリコン持込阻止愛知県共闘会議」発足、小林名古屋市長出席「市民の問題として反対する」と表明、8.24 横浜で荷揚げ、名古屋港でも予定どおり荷揚げされた

8.22 愛知産別会議・第8回臨時大会、解散を決定

8.28 中労委、名古屋証券取引所労働組合の解雇・不当労働行為事件にたいして、地労委の棄却命令（1957.7.27）を取り消し、解雇は「組合の弱体化、退職金の一方的解決を意図したもの」で不当労働行為と断定、救済命令がでる、取引所側、中労委命令を不服として、9.25 中労委を相手どって東京地裁に行政訴訟をおこす、中労委も東京地裁に、命令全部を履行するよう緊急命令の申し立てをおこなう（1963.9.23 東京地裁で和解成立）

8.―― 第4回愛知母親大会（中区役所ホール、500人参加）

9.1 「東海製鉄株式会社」発足（64.9 第1号高炉稼働、67.6 第2号高炉稼働、67.8 富士製鉄に吸収合併、さらに富士製鉄と八幡製鉄が合併して新日鉄となる）

愛教組、勤評の中止をもとめ県庁前に座りこむ、9.5愛労評、愛教組代表ら300人が、県教育委員会と勤評問題で集団交渉

9.9 愛教組臨時大会、約25時間におよぶ激論、日教組統一行動否決

9.10 愛高教、愛教組の出方をみて、臨時総会で、集会にきりかえ

9.14 王子・春日井、第2組合が就労強行、会社、無期限ロックアウトを通告

9.15 日教組、勤評阻止第1次統一行動（愛教協、県下137ヶ所で集会中央集会・金山体育館で8,000人参加、対県交渉 勤評反対県民大会10,000人参加）

9.―― 小牧飛行場からアメリカ軍撤退

10.8 警察官職務執行法（警職法）改正案を国会に提出 11.22廃案

10.10 瀬栄労働組合幹部5人に解雇通告、ロックアウト宣言、11.22 労組分裂、「生産再開同志会」結成、12.20 地労委の斡旋で解決

10.14～16 日教組第19回臨時大会、国際自由労連脱退を決議

10.15 新三菱重工労組などで「日本労働組合総同盟愛知県連合会」発足

[1958年]

10.16 「警職法改悪反対国民会議」結成、10.25,10.28,10.31統一行動を
よびかける

10.20 「警職法改悪反対闘争愛知県共闘会議」結成（共産党のそく）

10.21 愛教組、臨時大会で「午後3時半授業打ち切り、集会参加」を決
定、10.25 愛教組、ふたたび臨時大会（徹夜）で、日教組の第2次
統一行動の参加することを決定

10.28 日教組、勤評阻止第2次統一行動、愛教組、参加見合わせ（愛教
組執行部一旦辞意表明、撤回）

警職法改悪反対第3次統一行動、労働組合いっせい時間内職場集
会、警職法改悪反対市民大会（12,000人参加 県下13市でもいっせ
いに市民大会）、10.31 警職法改悪粉碎愛知県大会およびデモ
（40,000人参加）

11. 1 愛知県教育委員会、教員の「勤務評定」を実施

11. 5 日教組、勤評阻止第3次統一行動

11. 7 愛知交通志賀労組にたいして全員解雇を通告

11.13 愛知タクシー、幹部をふくむ9人を解雇

11.15 警職法改悪粉碎・国会解散要求県民大会とデモ

11.26 勤評反対第4次統一行動 愛教組21地区で集会

12.18 県知事選挙母体として「県政刷新同盟」発足 吉田万次さん推薦
12.22 吉田さん急死 29 磯部巖さん（元秋田県知事）推薦を決め
る

12. — 「愛知県国家公務員労働組合共闘会議」（愛知国公共闘）発足

12. — 「愛知県地方計画」策定

3 60年安保闘争と労働運動

(59～60年)

【1959年】 「安保改訂阻止県民会議」結成、統一行動ひろがる

1. 1 挙母（ころも）市が豊田市と改称、文字どおり企業城下町となる
1. 26 瀬栄労組幹部4名、争議中の「暴行」容疑で起訴
1. 31 王子製紙、第1組合員にたいして解雇4人をふくむ35人の懲戒処分を通告、2.1 王子製紙労組処分反対闘争 3.24 時限スト
7.29 労使で「平和宣言」
2. 1 愛知県知事選挙、磯部巖・県政刷新同盟の統一候補善戦するも破れ、桑原幹根知事三選、名古屋市部では磯部候補が優位にたつ
[1959年]
2. -- 中京商業3教諭解雇（吉田、植木、野崎）、4.--地労委に救済申し立て、1961.3 地労委のあっせんで和解
3. 3～10 全電通東海地本、東海通信局社内に3回にわたりビラ貼り（約4,400枚）、4名が起訴（「全電通ビラ貼り事件」 63年 1審で無罪勝利判決、2審・1審判決破棄・有罪）
3. 5 半田輸送機労組第2波スト
3. 8 名鉄労働組合、長期安定賃金協定を締結
3. 22 「東海労働弁護団」結成
3. 28 「安保条約改定阻止国民会議」結成
3. -- 中京商業、3先生（吉田、植木、野崎）解雇、中商闘争始まる
61.3 地労委の斡旋で、2年の期限つきながら、ほぼ現職復帰
4. 6 「安保改訂阻止愛知県民会議」結成大会（共産党はオブザーバー）
4. 7 「最低賃金法」成立（7.10施行）
4. 9 「国民年金法」可決（11.1発足）
4. 15 安保改定阻止第1次統一行動
5. 16 安保改定阻止第2次統一行動
6. 23 全労、安保共闘不参加を決定
6. 25 安保改定阻止第3次統一行動
日教組、勤評反対第1次統一行動
6. -- 第5回参議院議員選挙

[1959年]

- 7. 25 安保改定阻止第4次統一行動、愛知県民大会（5,000人参加 右翼の妨害で赤松勇代議士負傷）
- 7. 一一 全建設省労働組合（全建労）東海地方本部、三つの組合（「全建労中部地本」「連合会」「三重労組」）を統一して誕生
- 8. 1～ 2 第5回愛知母親大会（愛知大学名古屋校舎）
- 8. 6 安保改定阻止第5次統一行動
- 8. 8 名城大学職組、緊急大会で「不当解雇撤回・学園民主化要求闘争」を宣言
- 8. 10 最高裁、松川事件原判決（有罪）破棄、差戻し判決
「愛知県最賃審議委員会」設置
- 8. 26～29 総評第12回大会、社会党一党支持方針、賛成者不足で否決・「政治方針」空白となる（「総評」史上初めての出来事）
- 8. 28 三井鉱山、第2次合理化案で4,580人の削減を提案（三池争議の始まり）
- 8. 31 安保共闘組織、46都道府県すべてに結成（うち41で共産党正式参加）
- 8. 一一 「全国合板労働組合協議会」発足（事務局、愛知合板労連）
- 9. 6 名城大全学協議会、田中理事長退陣を要求
- 9. 8 安保改定阻止第6次統一行動
- 9. 15～23 安保改定阻止県内自転車パレード 15 豊橋を出発
- 9. 26 伊勢湾台風、死者・行方不明5千人以上、全国民医連は、東京・京都・大阪を中心に10大都府県連から、約200人を名古屋南部に派遣し、49日間にわたる救援活動を展開
- 9. 30 「愛知民主団体災害救援委員会」発足
- 10. 15 名古屋地裁、名古屋証券取引所労働組合の梅村さんの「交通費過剰受給」を口実にした解雇（1958.5）は不当・解雇取り消し判決がでる、10.23 取引所側、梅村さんに「資格剥奪・減給・始末書提出」などの懲戒処分を発令、組合は再度仮処分申請を名古屋地裁に提訴、仮処分の決定を前にして、12.11 突如、この二重の懲戒処分を取り消した、ところが、12.12 就業規則を口実に「解職（首切り）」を通告、12.14 三度、地裁に身分保全の仮処分を申請、スト権を確立、地裁は、即日「あきらかな不当解雇」と解雇無効の決定をだす、12.21 交渉で、取引所側はその非をみとめ、協定書を取り交わし、梅村さんの復職実現
- 10. 20 この日を中心に、安保改定阻止第7次統一行動

[1959年]

- 1 1. 1 6 名城大学職組、給与不払いで、地裁へ提訴
- 1 1. 2 1 伊勢湾台風被災者救援早期復興要求県民大会、デモ（6,000人参加）
- 1 1. 2 4 県労協解散総会・「全日本労働組合会議愛知地方会議」結成
- 1 1. 2 7 安保改定阻止第8次統一行動、「災害復興要求、安保改定阻止愛知県民大会」（5,000人参加）
- 1 2. 1 0 安保改定阻止第9次統一行動、「愛知県総決起大会」（7,000人参加）
- 1 2. 1 1 三井鉱山、三池労組にたいして1, 2 7 8人の指名解雇通告
- 1 2. 2 2 安保改定阻止第10次統一行動
- 1 2. 2 6 全労愛知「安保改訂反対総決起大会」

【1960年】 60年安保・三井三池の大闘争

- 1. 1 4 安保改定阻止第11次統一行動、「岸渡米調印阻止愛知県民大会」（鶴舞グラウンド、16,000人参加）
- 1. 2 0 日米新安保条約、ワシントンで調印
- 1. 2 4 民主社会党結成 2.8 民社党愛知県連結成
- 1. 2 5 三井三池鉱業所全面ロックアウト、三池労組全山無期限スト突入
- 2. 1 5 「愛知県公務員共闘会議」発足
- 2. 2 5 公務員共闘会議第1次統一行動、名古屋市労連、春闘総決起大会（1,150人が、午後早退で参加）、2.29 国公・地公共闘会議を「公務員共闘会議」と改称
安保改定阻止第12次統一行動、2.20から県内行進、この日大行進をむかえ「安保批准阻止・生活と権利を守る愛知県民中央大会」
- 2. — 名古屋南部臨海工業地帯造成工事着工
- 3. 1 2 名古屋テレビ塔で、安保阻止婦人集会をひらき、鶴舞公園まで〃母と娘〃3, 0 0 0人が静かなデモをおこなう
- 3. 1 7 三池炭鉱新労組（第2組合）結成
- 3. 1 9 安保改定阻止第13次統一行動
- 3. 2 5 公務員共闘会議第2次統一行動
- 4. 1 安保改定阻止第14次統一行動
- 4. 6 三池労組、中労委の斡旋案を拒否
- 4. 1 5～1 6 安保改定阻止第15次統一行動
- 4. 2 8 全労愛知、安保批准反対総決起大会

[1960年]

- 5. 9～26 安保改定阻止第16次統一行動（総抵抗期間）
- 5. 10 「愛知県社会保障推進協議会」結成総会
- 5. 13 名古屋市内5地区から求心デモ、安保批准阻止・審議打ち切り反対・国会解散要求県民総決起大会
- 5. 18 愛労評、三池闘争対策委員会設置、逆オルグ、激励オルグ、カンパ活動、「三池を守る会」の組織などをきまる
- 5. 20 衆院、未明、警察官500人を導入して、新安保条約批准を自民党単独で強行採決、愛労評傘下組合、抗議集会、時間外職場集会
民社党・全労愛知「安保反対・国会解散愛知県総決起大会」
- 5. 24 県民会議「新安保粉碎・国会解散要求・岸内閣打倒愛知県大会」
- 5. 26 「新安保粉碎・国会解散県青年婦人大会」、自民党県連からアメリカ領事館にむけてデモ
- 5. 30 全労愛知「岸内閣退陣・国会解散総決起大会」
- 6. 3 国会請願上京団（約50人）歓送のため、名古屋駅に労働者、学生など6,000人がつめかける
- 6. 4 安保阻止国民会議、国労などを中心に第17次全国統一行動（6.4スト）、名古屋市職労、水労、早朝1時間の職場大会（実質上30分スト）、市交通労組・4,500人が早朝職場大会、名鉄労組・5分間スト
全商連のよびかけで東京の8千軒など、全国2万軒が「抗議閉店スト」、6.15 3万店、6.22 6万店が参加
- 6. 8 東海地区大学人安保問題懇談会など、「民主主義を守り国会即時解散を要求する学者・教育者・文化人・学生の集会とデモ」
- 6. 10 「新安保批准阻止・国会解散要求・アイク訪日反対・岸内閣打倒・民主主義擁護県民大会」
中央大行進（11日）参加のため愛知県代表団900人がバス17台に分乗・上京、11早朝、川崎から大行進に合流
- 6. 11 県学連、安保反対のデモで自民党県連前で68人検挙される
- 6. 15 安保改定阻止第18次統一行動、「安保粉碎・国会解散・アイク訪日反対県民大会」
- 6. 18 安保改定阻止第19次統一行動 国会へ空前の33万人のデモ、愛知から約1,000人が前日の夜行で上京
- 6. 19 新安保条約自然成立、「国会解散・岸内閣打倒・安保粉碎・民主主義擁護・不当弾圧反対県民大会」
- 6. 22 安保改定阻止第19次統一行動、「新安保無効確認・国会解散要求愛知県民大会」
- 6. 25～7. 2 安保改定阻止第20次統一行動

[1960年]

- 7. 2 「新安保不承認・国会解散要求・不当弾圧反対・新安保条約締結
首謀者追放県民大会」
- 7. 10 安保改定阻止第21次統一行動
- 7. 15 岸内閣総辞職（在任期間1241日）
- 7. 17 三池争議・ホッパー決戦 「三池を守る10万人集会」がホッパ
ーを囲む
- 7. 17～26 安保改定阻止第22次統一行動
- 7. 19 池田勇人内閣成立
- 7. 22 「賃上げ・労働基本権確立・不当弾圧反対・安保不承認・国会解
散要求愛知県大会」
- 7. 31 第6回愛知母親大会（愛知大学名古屋校舎、500人参加）
- 8. 8 人事院、国家公務員の給与平均12.4%引き上げを勧告（7年
ぶりの引き上げ勧告）
- 9. 6 炭労第27回臨時大会で、中労委の斡旋案受諾を決定、9.8三池労
組も炭労大会決定を確認 三池争議事実上終結
- 9. 18 名古屋市長選挙、小林橘川市長・三選さる
- 10. 8 愛知私教協「中京商業3教師解雇反対決起集会」
- 10. 12 浅沼社会党委員長右翼に刺殺
- 10. 29 三池労組、中央交渉妥結、12.1 312日ぶりに就労
- 11. 1 東京医労連、第1波スト（病院ストはじまる）
12. 2・第2波 12. 9・第3波（全国で160病院がストに参加）
12.13・第4波 12.17・第5波 12.22・第6波 12.27・第7波
争議越年
- 11. 20 第29回衆議院議員選挙
- 12. 27 池田内閣、閣議で「国民所得倍增計画」を決定、高度経済成長政
策本格化へ
- 12. — 愛知合板連（のちの、愛木労）、「実働7時間」を要求して時間
短縮産別統一闘争展開

III 新安保体制下の労働運動

(1961～74年)

1 ケネディー・ライシャワ路線・右翼潮流の拡大のもとでの労働運動

(61～69年)

【1961年】 「政暴法」反対の全国統一闘争展開

1. 28 「子供を小児マヒから守る愛知県協議会」結成

2. 1 全自交加盟の、一城（第一、金城）、新相互、丸広、朝日、中日、富士、アツタのタクシー関係組合、賃上げ、最低保障賃金を要求して統一交渉を申し入れ、時間内職場大会（3.4）、数次にわたる1時間時限スト、3.31 10時間スト、ついに経営者団体が集団交渉に応ずる、4.22～5.13 各社であいついで妥結

2. 4 「愛知県医療労働組合協議会」結成大会（日本医労協加盟）

3. 4 「愛労評主婦の会」結成大会

3. 23 安保阻止県民会議を発展させ、あらたに「安保廃棄・平和と民主主義を守る愛知県民会議」を結成

3. 25 小林橘川市長の「市民葬」（3.16死去）

3. 29 安保改定阻止国民会議を、「安保条約反対・平和と民主主義を守る国民会議」（安保反対国民会議）と改称

4. 1 「国民保険」制度実施・国民皆保険実現、名古屋市国保、世帯主8割・家族5割給付で出発

4. 19 ライシャワー新駐日大使着任

4. 28 名古屋市長選挙、杉戸清当選・自民党市政復活

5. 13 自民・民社両党が「政治的暴力行為防止法案（政暴法）」を衆院に上程

5. 27 「自衛隊の陸空演習反対・小牧基地撤去愛知県民総決起大会」（小牧南外山）

6. 2 安保国民会議、政暴法反対闘争で国会請願行動、6.3 6.6 6.7 6.8 とつづく、6.3衆院で強行採決、6.8参院議長幹旋で継続審議
62.5.7 第40国会で廃案

[1961年]

- 6. 3 「民主主義を破壊する政暴法粉碎愛知県民総決起大会」
- 6. 6 「不法採決無効・政暴法粉碎愛知県民大会」
- 6. 17 「池田渡米反対・政暴法完全粉碎県民大会」

7. 25～31 日本共産党第8回大会、「綱領」を決定

- 8. 4 愛知県公共闘会議・第1回定期大会
- 8. 6 第7回愛知母親大会（東区筒井小学校、600人参加）
- 8. 7 第7回原水爆禁止世界大会、民社党系脱落（「核禁会議」結成）
- 8. 8 「松川事件判決勝利記念集会」（鶴舞公園）
宮タクシー争議（3.5、宮タクシーがセントラルタクシーへの買収をめぐり労働条件で合意せず、4.6から無期限ストライキ）120日余で終結

9. 25 「政暴法完全粉碎・県公安条例廃止要求総決起大会」、9.25 県議会本会議に県公安条例改正案上程、「公安条例改正案阻止大請願団」、夕刻には5,000人、県庁をとりまく、1,500人以上の警官で排除され、同夜11時すぎ一方的可決

9. 30 愛知用水完行・通水

11. 10 「高校増設・すしづめ解消愛知対策協議会」結成

12. 10 全港湾名古屋支部から、「船内」「沿岸」「筏」「職員」など1,500人が脱退（第2次分裂）

【1962年】 トヨタ自動車とトヨタ労働組合、『労使宣言』発表

- 1. 14 県公安条例廃止直接請求署名はじまる
- 1. 26 「公安条例廃止要求愛知県民総決起大会」
- 1. 28 「全国自動車労働組合連合会」（全国自動車）結成、トヨタ自動車労働組合、全員投票で加入決定（1.21）

2. 22 自動車東海、「全国自動車東海支部」に変更

2. 24 トヨタ自動車工業、労資協議会で『労使宣言』を発表、労資協調路線確立、各界に大きな波紋をよぶ

3. 一一 「愛知県新地方計画」策定

[1963年]

8. 3 1 9. 1 横須賀大集会に愛知県代表团歓送集会（代表团2,800人がバス52台に分乗出発）

9. 1 1 建設省中部地方建設局、「8. 1 5 大臣訓辞」をうけて、全建労東海地本にたいして「職員団体に対する便宜供与について」という通告分を手交（地本書記局室は認めるが、電話台は払え、次かんんあいの組合活動は認めない、チェックオフはやめるなど）63.12月、突如、10.1に遡及して勤務評定を復活、差別攻撃はじまる

9. 1 2 松川事件再上告審判決・無罪確定、愛知でもテレビ塔下で「無罪判決祝賀大会」ひらく

9. 2 3 名古屋証券取引所労働組合の解雇撤回闘争は、東京地裁の和解勧告にもとづく交渉の結果、8年余にわたるたたかいで、不当解雇は撤回され、船橋さん、亀井さんの職場復帰を実現

11. 2 1 第30回衆議院議員選挙

11. 2 9 石塚硝子労組、争議はじまる

【1964年】 CBCの長期争議はじまる

3. 1 1 全国金属白砂電機支部、賃金問題（35段階の職務給提案）で分裂、「新労シルバー労組」結成（100日スト）

3. 2 5 CBC（中部日本放送）、CBC合唱団員5人を解雇、3.29 民放労連・東海地連と愛労評で「合唱団首切り反対闘争委員会」結成、5.1 「CBC合唱団労働組合」結成、5.19 「CBC管弦楽団労働組合」結成（民放労連加盟）

65年4月、合唱団員、管弦楽団員の契約形態変更（専属からフリーへ）に関する紛争から、その後賃上げ闘争から、不当処分撤回闘争に進展したもの、合唱団労組は、65年3月、不当労働行為救済を申し立て

66.2.9 地労委、申し立てを棄却、71.12.17 地裁、地労委の棄却命令取り消し判決、74. 9.16 高裁、地労委の控訴を棄却、76. 5. 6 最高裁、使用者側の上告を棄却

3. ー 愛知教育委員会、愛高教の「職場から組合活動」を一掃するための「三点通告」（学校での人事交渉を認めない、半専従執行委員を認めない、時間内組合活動を認めないー校長の独断専横を確保するためのもの）をだす

4. 8 日本共産党「4. 8 声明」（公労協の4.17スト反対の声明）

[1964年]

- 4. 8 石塚硝子労組、組織分裂 6.18 新労組結成
- 4. 16 池田・太田会談 4.17スト中止
- 4. 28 全電通、4. 17スト反対者を統制処分（全国で除名116人、権利停止197人）
- 5. 16 国際金属労連日本協議会（IMF・JC）結成
- 6. 19 「愛知県原水爆禁止協議会」（愛知原水協）再建総会（20地域原水協をふくむ92団体が参加）
- 7. 5 第10回愛知母親大会（分科会、愛知大学名古屋校舎）、8.5 同、全体会（愛知大学名古屋校舎）
- 7. 15 日本共産党、「4. 17スト問題」で自己批判
- 9. 1 トヨタ自動車＜持ち家制度＞実施
全港湾名古屋支部・全検分会への組合つぶしの攻撃つよまる（第3次分裂）
- 9. 11 愛木労の支援で、山藤製材の倒産・首切りにたいし、山藤製材労働組合が生産管理に入る、66.1 和議が成立、再建闘争は勝利した
- 9. 12 愛木労・名南プライウッド労働組合の書記長が解雇される、9.15臨時大会で全票一致でスト権確立、団交できびしく追求、首切りを撤回させる
- 9. 24 全港湾名古屋支部提唱「原子力潜水艦入港阻止集会」（4,000人参加） 9.26 原潜寄港阻止県民集会
- 10. 9 全建労東海地本、分裂行動はじまり「建職労」を旗揚げ、全建労は19人・のべ139日間の全国オルグ投入（当局の期待した東海地本の右傾化・丸がかえは失敗）
- 10. 10～24 東京オリンピック（第18回）開催
- 11. 5 社保協と新日本医師協会愛知支部が共催で、第1回労働災害職業病討論集会をひらく（労働者35組合・42人、医療担当者19人参加）
- 11. 8 「原潜寄港反対名港5万人集会」
- 11. 9 「佐藤栄作内閣」成立
- 11. 10 「全日本労働総同盟」（同盟）結成大会
- 11. 19 「全日本労働総同盟愛知地方同盟」結成大会
- 11. — 藤の花保育園林保母解雇事件（1965年8月、仮処分勝訴、そのご「閉園」職場を失う、「青空保育園」をひらく、1972.7 運動終息）

[1962年]

- 4. 9 梶浦毛織労組（津島）の執行部全員と運転手解雇通告、争議となる
- 4. 17 公安条例廃止直接請求署名運動、短期間に133,585人分をあつめ 3.27 知事に提出、臨時県議会ひらかる
県庁前で三回わけて、春闘要求貫徹・公安条例粉碎決起大会をひらく 臨時県議会会期1日、委員会審議もせず公安条例廃止案を否決
- 4. 22 国鉄労組に不当処分、名古屋地本委員長ら解雇4人
- 4. 26 「全日本労働総同盟組合会議」（同盟会議）結成（64.11に「同盟」に発展）
- 7. 1 第6回参議院議員選挙
- 7. 2 合板大手3社（東洋、名ブラ、中村）スト（12日まで）、7.3 石川合板労組 5日から 浅井プライウッド労組も 13日まで全面スト
- 8. 4～ 5 第8回愛知母親大会（愛知大学名古屋校舎、400人参加）
- 8. 6 第8回原水爆禁止世界大会、「いかなる国問題」で社会党・総評退場
- 8. 24 「半田合同日東産業・首切り反対闘争支援抗議集会」（武豊町）
- 8. — 全国合板労協第4回大会、「全国木材産業労働組合」に改組（1963.8 総評加盟を決定）
- 10. 21 平和委員会提唱「小牧基地包囲東海ブロック大集会」30,000人参加)
- 10. 25 「日韓会談粉碎愛知県民総決起大会」
- 10. 27 炭労逆オルグ団200人が来県、石炭政策転換の共闘を訴え県内各地をオルグ（～11.4）
- 11. 15 平野製作所、企業不振で内整理にはいる
- 11. 17 「軍事基地撤去・憲法完全実施・日韓会談反対愛知県総決起大会」
- 11. 27 東邦製鋼（南区、従業員265人）、経営悪化を理由に1000人の人員整理を発表、11.29 労働組合、スト権確立、1963.1.18 24人の指名解雇、賃金引き下げを提示、2.9 「東邦製鋼支援共闘会議」結成、3.1 会社不渡り手形、無期限の臨時休業、4.13 株主総会で解散を決定、66人大同製鋼に就職、残った組合員は、再建をめざして行商活動、8.20 地裁裁判長立ち会いで「和解」（指名解雇、全員解雇を認め、退職金は規定どおり支払い、解決金の支給など）、8カ月つづいた労使紛争は終止符

[1962年]

11. 27 県民会議主催「日韓会談粉碎愛知県民集会」

12. 8 愛労評、「中小企業共闘会議」結成総会

【1963年】 名古屋証券労組、8年余のたたかいで解雇撤回かちとる

1. 8 革新県政をめざし「県政刷新同盟」結成、1.9 知事選告示 佐藤一平さんを推薦候補としてたたかう、2.3 愛知県知事選挙、桑原4選を阻止できず

1. 20 三愛スライアート、経営不振で経営者行方不明、労働者、愛木労の援助で労働組合結成（組合員31人）、賃加工方式で自主生産をはじめて1カ月ご、社長が謝罪し再建の先頭に立つことで協議がまとまり、職場と組織を守り抜いた（そのご経営が移り、中央合板労働組合として活躍）

1. 25 トヨタ自工の下請け・小田井鉄工（組合員170人）が全国金属を脱退、これを皮切りに、トヨタ自工下請け企業の碧海工機（70人）、中央可鍛が、あいついで全国金属を脱退（トヨタ資本の全国金属組織破壊攻撃）

3. 24 「愛知県民主医療機関連合会」（愛知民医連）結成

4. 1 愛知郡鳴海町が名古屋市に合併、緑区が発足

4. — 中部経済団体連合会（中経連）、「東海三県統合構想」発表

5. 20 「安保条約廃棄・日韓会談粉碎・原子力潜水艦寄港反対愛知県民大会」

6. 23 「ボラリスくるな・F105かえれ 安保廃棄・原潜寄港反対3万人名港大集会」（港区・中央埠頭、30,000人参加）

7. 1 「愛知同盟会議」結成（名古屋市公会堂、全労10組合、総同盟3組合、全官公4組合、140,100人）

7. 3 「政府自民党国会暴挙抗議・原子力潜水艦寄港阻止愛知県民大会」

8. 5～ 7 第9回原水爆禁止世界大会、分裂、8.6 社会党・総評独自集会をひらく

8. 10 第9回愛知母親大会（愛知大学名古屋校舎、600人参加）

8. 26 「憲法擁護愛知県実行委員会」（「愛知護憲連合」）結成総会

[1965年]

【1965年】 「開放経済」のもとで、深刻な不況を迎え、産業再編・スクラップアンドビルドがすすむ

1. 25 「CBC合唱団首切り・合理化反対決起大会」
1. 28 総評、原水協脱退、「原水禁国民会議」結成に参画、2.2 原水爆禁止日本国民会議（原水禁）結成大会
1. 31 「愛知県自動車交通労働組合」結成（個人加盟の「愛自交」に2つの組合が参加し再発足させたもの）
2. 7 アメリカ、北ベトナム爆撃開始、日本国民の間に戦争の不安をひろげた（5.7 佐藤首相、米の北ベトナム爆撃を支持）
2. ー 全税関名古屋支部に組織分裂攻撃、第2組合をデッチあげる
3. 25 CBC（中部日本放送）労組、団交拒否にたいして全面スト、超勤拒否 3.30 ふたたび全面スト、超勤拒否
3. 30 CBC合唱団、楽団労働組合、団交拒否で、地労委に救済申し立て、CBC労働組合、合唱団首切り反対でスト権確立
4. 1 CBC、労組3役3名を含む人事異動を発表、CBC労組・3役3名の指名スト 4.1、4.6、4.10 全面スト
4. 10 「憲法改悪阻止愛知県各界連絡会議」（略称「愛知憲法会議」）結成
4. 25 名古屋市長選挙、近藤信一革新統一候補12万票差で敗れる
5. 1 地域の政治新聞『愛知民報』創刊
6. 22 「日韓基本条約」等調印
7. 4 第7回参議院議員選挙
7. 7 CBC、人事異動撤回闘争にたいして処分、西沢委員長、加藤剛民放労連東海地連書記次長を解雇、管生副委員長・出勤停止15日間 7.9 スト権確立（88%）
7. 15 CBC労組、西沢委員長、民放労連東海地連加藤書記次長の不当解雇反対闘争支援の「マスコミ弾圧反対・放送反動化反対大抗議集会」
7. 17 全港湾名古屋支部「争議協定書」調印、100日闘争終わる
8. 8 第11回愛知母親大会（愛知大学名古屋校舎、1,000人参加）
8. 15 CBC、第2次処分（出勤停止15日間 2人、減給 12人）

[1965年]

- 8. 2 6 「自動車産業労組協議会」(自動車労協)・結成(1972.10.3 「自動車総連」へ発展)
- 8. 2 7 「マスコミ反動化、C B C 労組・C B C 合唱団不当解雇反対総決起集会」
- 8. 3 1 池田首相没(在任期間1,575日間)
- 9. 1 8 C B C、労組事務所の明け渡し請求訴訟を提起 66.4.10～会社玄関から組合事務所まで「イエローライン」を設置 68.6.11撤去
- 9. 2 5 明電舎名古屋工場、一時帰休制実施(1966.3.4まで)
- 10. 1 輸送機工業半田工場、一時帰休実施(10月末まで)
- 10. 7 「愛知反戦青年委員会」結成
- 10. 1 1 愛労評、中日新聞社に新聞代の一方的値上げに抗議行動、値上げ分の不払いと、「中日新聞」不買運動をはじめる
- 10. 1 5 全金・中部鋼板支部に赤字を理由に首切り提案
全金・小笠原鑄造支部、不当解雇・介入反対闘争
C B C 労働組合、西沢、加藤の解雇撤回を求め地裁に仮処分申請(67.12.18 解雇無効の地裁判決)
- 10. 2 6 公務員共闘、人勤の完全実施を求め半日スト(中止)
- 10. ー 私教連、豊川高校・金城教諭解雇事件、地裁に提訴、1967.12地裁で勝利判決、1970.6 高裁判決直前に自主交渉で和解・職場復帰)
- 11. 4 愛労評単産代表者会議、日韓条約批准阻止闘争で「非常事態宣言」を発する
- 11. 7 「全日本郵政職員労働組合東海地方本部」結成大会
- 11. 1 2 日韓条約批准阻止の国労スト支援のため、名古屋駅・豊橋駅に夜より労組員支援動員 13日早朝(始発列車)時限スト
- 11. 1 3 「日韓条約強行採決抗議県民総決起集会」
- 11. 2 4 半田市の朝日製油、会社再建計画発表、全国一般半田合同朝日製油班、地本と協議、首切り反対闘争にはいる、12.15、12.20つづいて不渡り・倒産・全員首切り、東海銀行にある会社の預金を払えと銀行に交渉・市民宣伝、66.3.29 国鉄半田駅前で「朝日闘争支援集会」、66.5.31 銀行から350万円支払わせることで闘争終結
- 11. 2 7 海員組合スト(36日間の停船スト、国際海運史上最大規模、このあと幹部リコール運動始まる)
- 12. 8 中部鋼板、人員整理320人 1966.1.15 650人の人員整理
- 12. 1 6 日韓条約粉碎 11. 1 3 統一行動の参加した全港湾名港海運の不当解雇に、愛労評、会社側に抗議行動

[1965年]

- 12.18 テレビ塔下で、物価値上げ反対のエプロン集会
- 12.10 東大・名大病院の無給医局員約340人、身分保障を求めスト
- 12.ー 「民主教育と金城先生を守る会」（会長、黒木三郎愛知大教授）
発足、12.13、1966.2.11、3.26 豊橋、豊川で決起集会とデモ

ーこの年、倒産件数6141件、前年の50%増、物価高（消費者物価7.4%上昇、過去10年間の最高）

【1966年】 公務員共闘・初の統一ストライキ、最高裁10.26東京中
郵事件無罪判決

- 1. 7 全港湾名古屋支部全検分会執行部8人解雇される、1.18 名古屋
港抗議集会（800人参加）、3.11 地位保全の仮処分・勝訴、本訴と
なり、のち1968.10.21 「西川裁判長の不当判決」へ
- 2.18 愛知県経営者協会、模擬団交交渉講座ひらく
- 2.19 繊維労連・昭和紡機織物労組、前年6月からの全員解雇・工場閉
鎖反対闘争、団交で争議解決
- 2.27 春闘共闘、初の物価メーデー
- 3.21 「農村労働組合愛知県連合会」結成大会
- 3.30 社・共・公三党、小選挙区制粉碎などで連絡会議結成
- 3.ー 私教連、東海工業高校・細井実験助手ほか1人解雇、1968.9地裁、
仮処分完敗、つづく高裁でも仮処分・敗訴、1972地裁へ本訴、1976.
2 地裁で逆転勝訴、1976.11 控訴審の過程で職権和解、職場復帰
断念
- 4.15 名古屋放送労組、時限スト
- 4.26 名鉄労組24時間スト
- 5. 8 名古屋争議団共闘会議、被解雇者交流会をひらく（ここには、全
港湾、CBC労組、愛知私教連、全自運東海生コンなど16団体 40
人が参加）
- 5.10 最高裁、東海電気通信局びら貼事件、高裁の逆転有罪判決を支持
- 5.30 山種証券、木全さんに（全国一般名古屋支部・組合員）「30才
定年制」と「結婚退職制」の内規を口実に一方的に解雇、6.1から2
7日間、就労闘争、女子若年定年制反対のたたかいはじまる（67.7
.4 勝利解決までたたかいつづく）

[1966年]

- 5. ー 総評全国一般・明治屋名古屋労組、61年8月からたたかわれていた処分撤回闘争、労使合意で解決
- 6. 23 全自運東海生コン支部・一色分会（名古屋市中川区下之一色、63.4結成）、65年4月以降、東洋レミコン運輸経営者の組合分裂・不当労働行為・首切り攻撃（65.7.18）とたたかい、地労委から「会社は4人を原職復帰させよ」「その間の賃金を支払え」との救済命令
- 6. 24 全国13大学で、無給医局員の有給化で4千人が診療ストップ
- 7. 8～8. 3 27日間、名古屋テレビ労組、不当なロックアウト攻撃とたたかい、組合つぶしの意図を粉碎、就労を勝ちとる
- 7. 13～15 全国金属・東海鋼材支部（組合員330人）は、会社の低額回答と「合理化」に反対して、72時間ストを決行、7.16 希望退職者120人募集、7.26 「全国金属・東海鋼材支部「合理化」反対闘争支援決起集会」（白川公園、2,000人参加）
- 7. 17 全自運（現、運輸一般）の路線に反対する名鉄運輸・愛知陸運・岐阜トラックなど全ト労連（全国トラック運輸労組連合会）結成のち68.11 全日通労組などと組織合同、運輸労連結成
「大須事件被告を守る会」結成大会
- 7. 31 第12回愛知母親大会（第1日目、愛知大学名古屋校舎）
- 8. 15 総評、日本母親大会に不参加を決定
- 8. 26 「愛知核禁会議」結成
- 10. 1 第12回愛知母親大会（第2日目、愛知大学名古屋校舎）
- 10. 11 愛労評、愛知最賃審議会をボイコット
- 10. 21 総評、初の「ベトナム反戦統一行動」
公務員共闘、人勧の完全実施を求め統一スト、名古屋市職労、名古屋水労、整然と初の1時間スト（1967.3.31 名古屋市職労、名古屋水労役員に訓告処分）、10.22 警視庁、10. 21闘争で、日教組全国200カ所以上に強制捜査
- 10. 26 最高裁、全逓東京中郵事件で無罪判決、官公労働者の争議権を基本的に認め「必要最小限度制約論」をしめした
- 11. 27 物価メーデー
- 12. 27 佐藤内閣、共和精糖汚職事件などの追求をさけるため国会解散
- 12. 31 宝樹全逓委員長「反共の労働戦線統一」を提唱（宝樹論文）
ーこの年、いざなぎ景気・卸売物価4.3%上昇、10年来の上げ幅

[1967年]

【1967年】 県教育委員会、愛高教の10.26闘争に大量処分

1.29 第31回衆議院議員選挙、自民得票率50%を割る

2. 4 愛知県知事選挙（社会党・愛労評候補擁立見送り、共産党独自候補をたててたかう）

3.11 社会、共産両党、東京知事選挙で「政策協定」、3.16 「明るい革新都政をつくる会」結成、4.15 都知事選挙、美濃部革新知事を当選させ、首都東京に革新都政実現

3.30 愛木労・湯浅名古屋合板工場労働組合、産別・地域の連帯支援で退職金闘争・無期限ストライキに突入、5.19 会社側からの回答（退職金の増額、賃上げ）をうけて「50日闘争」終結

4. 1 国鉄当局、5万人合理化（67-68年度実施）を提示
いっせい地方選挙・前半選、名古屋市議会で、初の日本共産党市議（1人）誕生

4.22 東海ラジオ、長谷川さんを「女子30歳定年制」内規を理由に解雇通告 5.30 民放労連の支援で解雇を撤回させる

5.18 愛木労・湯浅合板労組（組合員450人）、前年11月いらい、退職金増額、さらに、春闘・賃上げ要求をかけた、3.27から残業拒否、4.10 24時間スト、4.24以降連日4時間の無期限ストをくりかえすなかで、会社側が組合要求を全面的に受け入れて妥結・闘争終結（のべ300時間を超えるストライキ）

5.28 反共・反総評・反産別統一闘争をめざす反組合集団「民主主義研究会」（民研）旗あげ、年末闘争のあとの役員選挙で、愛木労に結集した執行部・委員長以下全員落選、「民研」グループが執行部独占

5.30 「山種証券女子30歳定年制反対共闘会議」（愛労評、全国一般、金融共闘、全証労協）主催の「結婚退職、若年定年制をはね返し働く者の生活と権利を守る集い」（婦人を中心に350人参加）

6.23 山種証券・女子若年定年制反対闘争、7.7判決をまたず、会社側、内容証明郵便で「解雇は白紙撤回」を通告 7.1 支援労組、組合員にはげまされ出社、7.4 団交で「解雇の撤回、ストップしていた定昇の復元、未払い賃金・一時金の支払い、弁護士料・慰謝料の支払い、社会保険の継続、不利益取扱いはしない、30歳定年制の見直し、などで合意・勝利解決

[1967年]

- 7. 16 「ベトナム侵略反対7. 16名古屋港大集会」
- 7. 19 名古屋市職労定期大会、「政党支持自由」の修正案が多数の支持をえて決定（特定政党支持路線からの決別）
- 7. 28 建設省当局、全建労東海地本にたいして、各事業所に「建設省直轄直営」の官製御用組合・建設省職組づくりにのりだす～1968.7まで（「心は第一、身は第二」という形で多くの仲間が奪われた、1970「建職組中部地本」結成）
- 7. — 繊維工業の構造改善事業が始まる（設備の近代化と過剰設備の廃棄、企業の集約）
- 8. 4 全自運愛知支部丸池八田分会（小野田レミコンの下請け、名竜レミコン運輸に働く労働者、組合員17人）、組合員全員解雇・企業閉鎖を通告（5年まえ、輸送部門の「合理化」による企業へいさ、首切り攻撃に120日の長期闘争をたたかいぬき、不当弾圧をハネかえし経験がある）
- 8. 20 第13回愛知母親大会（愛知大学名古屋校舎）
- 9. 15 「会社は原田組（暴力団）と手を切れ、作業場での安全を保障せよ」と関光汽船会社に要求して無期限ストに突入していた全港湾労組大阪関光分会・脇田分会長が数人の警察官の目の前で、原田組組員に刺殺される、9.30 名港労協主催「脇田分会長虐殺に抗議する決起集会」、港警察署まで怒りの抗議デモ 10.12 全港湾労組主催「故脇田分会長追悼葬」、つづいて「脇田分会長虐殺抗議諸要求貫徹決起大会」（100団体・2千人参加）
- 9. — 熱田区沢下町に「愛知単一労働会館」建設・竣工
- 10. 12 全金・リコー時計支部に、ロックアウト（鉄条網封鎖・機動隊導入・以後11月17日完全勝利までたたかい抜く）
- 10. 20 「新日本体育連盟（新体連）愛知県本部」結成
- 10. 29 伊勢湾と名古屋港の軍事化に反対する行動として、「自衛隊伊勢湾観艦式反対10. 29中央集会」（名城小公園）
- 11. 5 「伊勢湾の平和を守る11. 5東海地区集会」
- 11. 16 「日米共同声明」発表、アメリカのベトナム政策の全面支持・安保条約の堅持（自動延長）、1972年沖縄返還（「本土」の沖縄化）
- 11. 21 家主から立ち退きを求められている千種区豊年町の「青空保育園」の保母、母親、園児たちが、名古屋市役所西庁舎1階ロビーで、臨時保育をはじめ、市民生局と集団交渉

[1967年]

- 12. 18 名古屋地裁、CBC労組の2役員の解雇無効判決
- 12. 23 愛知県教育委員会、愛高教の(67年)10.26全国統一行動参加者1,921人にたいして戒告処分を発表、県人事委員会に不当な処分であるとして被処分者がいっせいに不服申し立てをおこなう

【1968年】 全建労東海・国井本局支部長不当配転反対闘争、27日間にわたる大衆的抗議で当局に遺憾の意を表明させる

- 1. 11 「健保改悪阻止愛知県連絡会議」発足
- 1. 18 「エンタープライズ寄港反対愛知県集会」(栄公園)
- 1. 31 名古屋市中区官公庁街に乳児から預かる公立保育所をつきろうと「(中区南外堀町)六の一保育所づくり実行委員会」発足
- 2. 11 愛知労組連絡会議主催「春闘を勝ち抜く学習と経験交流集会」
- 2. 13 湯浅名古屋工場労働組合、「民研」グループ執行部、前役員の「組合会計上のわずかな手落ち(印鑑が押してない、領収書がない)を口実に」査問委員会に呼び出し、これを拒否した前委員長、前副委員長を評議委員会で規約を無視して「除名」を決定、2.14 会社はユニオンショップ協定をタテに「解雇」を本人に通告、3.28 前委員長・副委員長が解雇される
- 2. 25 県春闘共闘主催「物価メーデー」
- 3. 1 新潟県立病院看護婦2・8闘争、組合ダイヤによる夜勤勤務に突入(3.3 要求実現・妥結)、全国に看護婦の2・8(増員)闘争ひろがる
- 4. 1 CBC労組争議・1,000日集会(市教育館)
- 4. 4~14 「沖縄返還大行進」県内行進はじまる
- 4. 13 「ベトナム人民支援委員会愛知県センター」結成
- 5. 20 全建労東海地本本局支部・国井支部長を一方的配転通告、東海地本はじまっていらいの大闘争・不当配転反対闘争(「国井闘争」)6.14までの27日間のたたかい 国公の仲間の支援をうけて 5.30 400人、6.5 800人の「地建玄関前抗議集会」、早朝ピラ入れ、昼・地域抗議団、本局支部の大衆抗議行動、夜・局長宅訪問、深夜・抗議電報、24時間の抗議行動(早朝ピラ25,000枚、大小集会11回・1,500人、局内抗議28回・35時間360人・仕事は完全にマヒ、警察への抗議3回・480人、局長宅への抗議5回・9時間・50人、深夜電

[1968年]

報50通、不当処分撤回撤回署名局内の過半数突破、カンパ11,000円、組合員組織拡大・5人) ついに、当局を交渉の場にひきだし、撤回はできなかったものの「遺憾の意を表明し、こんご配転を含む労使の話し合いに応じ、三役については事前に話す」と約束させた

- 6. 1 大講演会「憲法と革新自治体」(愛知憲法会議・愛知護憲連合主催、講師・美濃部東京都知事、蜷川京都府知事)
- 6. 3 最低賃金法改正(業者間協定方式から、最賃審議会方式に)
- 6. 27 「女子若年定年制・結婚退職制粉碎、労働者の生活と権利を守る6. 27集会」(市教育館)
- 7. 9 第8回参議院議員選挙
- 7. 29~9. 3 C B C労働組合・定期大会つづく、会社・役員選挙に介入、会社派組合員を利用して役員にアカ攻撃・民放労連批判をくりかえす
- 8. 4~5 第14回愛知母親大会(愛知大学名古屋校舎)
- 8. 26 名古屋地裁、山一証券名古屋支店の西川さんにたいする「結婚退職強要」(1967.10)は憲法違反との仮処分命令をだす(本人の都合もあって、最終的には金銭解決)
- 9. 11 国労・動労、5万人首切り反対の半日スト(12日午前零時から)支援のため「国鉄5万人合理化反対利用者集会」(名鉄局玄関前)
- 9. 20 「不当解雇撤回・要求完全勝利をめざす9. 20名港大集会」(1,800人参加)
- 10. 21 名古屋地裁、全港湾労組全検分会役員ら解雇事件(1966.1.7、66. 3.11地裁で身分保全の仮処分申請は全面勝訴)日韓条約粉碎のたたかいと結合した職場諸要求かくとくのたたかいを「政治ストであり違法」と断定、解雇を認める不当判決(1971.4.10名古屋高裁でも敗訴)
- 10. 26 「民主教育を守る愛知県民の会」発起人総会
- 11. 2~3 愛労評第20回定期大会、70年安保条約固定期限切れを前にして、いっそう安保共闘を強化すべきであるにもかかわらず、7年間継続してきた「県民会議」の役割を問題別共闘に引き下げ、民主勢力の共闘を弱める方針――「安保反対・憲法擁護実行委員会」をあらたにつくり、これを中心に「70年闘争をたたかう」との提案にたいして、統一戦線推進の立場にたつ単産からきびしい批判

[1968年]

- 11.17 「物価値上げの佐藤内閣打倒・国民の生活を守る予算要求県民集会」（物価メーデー）
- 11.20 社会党・愛労評など「反安保護憲県実行委員会」を結成、民主勢力の共闘にあらたな障害をつくりだす
- 11.27 「鉄道労組名古屋地本」結成大会
- 12. 8 愛労評青年協第4回定期大会、「名古屋市長選挙は社・共を中心とする広範な民主勢力を結集し、愛労評青年協が活動し、統一候補を立候補させるために運動する」「1970年にむけての反戦平和の闘いは『安保廃棄県民会議』をいっそう発展させ、青年学生の共闘を、青年協、社青同、民青、県学連を中心に組織してたたかう。旧三派系や革マル系など一切共同行動を行わない」という修正提案が、5時間にわたる論議の上、採決の結果可決された。
- 12.15 「第1回民主教育を守る県民集会」（愛知大学名古屋校舎）
- 12. — 全国金属・豊田織機労組、21年ぶりに2日間のスト決行

【1969年】 東洋プライウッド長期争議・解決

- 1.18 機動隊8,500人、東大安田講堂の封鎖解除・学生ら631人を逮捕（東大紛争）
- 1.28 東洋プライウッド、労組の対して、1,231万円の損害賠償請求訴訟を提訴、1.30 岡田委員長ら5人を不当解雇、2.28 「正常会員会」旗上げ、3.7 幹部5人の解雇無効訴訟を提訴 4.13 第2組合結成
- 1.31 名古屋高裁、CBC労組の加藤さんの解雇は不当の仮処分勝訴、民放労連主催の「勝利報告集会」（理容会館）
- 2.23 物価メーデー
- 3. 1 証券労働者ならだれでも加入できる「名古屋証券労働組合」を結成、名古屋証券取引所労働組合も「取引所分会」となり、「共栄証券分会」を公然化
- 3. 3 「春闘勝利・東プラ支援総決起集会」
- 4. 4 名古屋放送、大木さんを「女子30才定年制」で解雇
- 4.26 名古屋市長選挙、横山利秋候補18万余票、浅井美雄候補4万2千余票、杉戸清現市長（34万余票、59.3%得票）に大差で敗れる

[1969年]

- 7. 9 名古屋交通労組第32回定期大会、一党支持を克服・社会党への「団体支持費」打ち切りを決定、「要求を支持する社会党を中心に、共産党とも必要に応じ協力関係をたもちたたかう」方針を決定
- 7. 16 「たたかっている婦人労働者を励まし、労働者の生活と権利を拡大する7. 16集会」(350人参加、全国一般、民放労連、など18組合・民主団体主催。女子若年定年、結婚退職強要、企業閉鎖、職業病、思想攻撃、生理休暇取得賃金カット、組合づくり解雇などで19人の婦人労働者が報告)
- 7. 18 全国金属・利川製鋼支部(名古屋市中川区)、同盟と会社の介入で、全国金属脱退
- 8. 3 第15回愛知母親大会(愛知大学名古屋校舎)
- 9. 5 東洋プライウッド闘争、「労使正常化協定」および「覚書」成立・争議解決(「解雇問題」は裁判所の確定判決にしたがうと確約)
- 9. 21 「第2回民主教育を守る県民集会」(名古屋大学豊田講堂)
- 9. 22 名古屋地裁、尾州紡績の女子従業員・交告(こうけつ)さんの労音のサークル活動を理由に 66.4.1 仕事取り上げ、「寮での待機」・事実上の監禁、9.8 美濃太田工場への配転命令、拒否、66.9.11 配転命令拒否を理由とする解雇事件にたいして、解雇は無効と判決 9.30 3年5カ月ぶりに職場復帰 10.3 勝利報告集会「10. 21 西川判決粉碎・不当解雇撤回要求総決起集会」
- 10. 7 愛木労・朝日木工労組、東芝製品不買運動をとりくみなど108日間のロックアウト(1969.6.16~) 反対闘争で、「こんご不当労働行為はしない」と約束(10.1)させて、組合員がいつせいに就労、が会社は就労12日目に組合三役を解雇、12月に青年部長を解雇
- 10. 18 「公害対策愛知連絡会議」結成大会(会長・新村猛、副会長・堀場英也ら)
- 11. 11 名古屋地裁、大須事件に騒乱罪を適用
- 11. 29 愛知県教育委員会、愛高教の全国統一闘争・11. 13ストにたいして、停職1カ月・1人、減給2カ月・1425人、戒告・147人という大量処分を発令
- 12. 16 CBC、労組事務所明け渡し請求裁判(65.9.18提訴)、判決日(12.22)をまえに、突然提訴を取り下げ
- 12. 27 第32回衆議院議員選挙、自民・安定過半数、社会党激減、共産党の伸び目だつ

2 革新勢力と春闘の前進のもとでの 労働運動 (70～74年)

【1970年】 日米安保条約固定期限終了・自動延長

1. 13 38単産懇談会『全民主勢力の統一のためのアピール』発表、
のちに、「統一促進懇」の結成となり、「統一労組懇」の母体となる
1. 17 繊維労連・サンライズ労組（尾西市）の企業閉鎖反対闘争のため
「支援共闘会議」結成、4.19 闘争終結
2. 15 愛知争議団連絡会議、「争議団交流集会」
2. 17 CBC、元組合役員・活動家など100人こすものにたいして抜き打ち配転を強行
2. 20 愛木労、名水労、全林野名古屋地本、全港湾名古屋支部、国公共闘、愛高教、愛知私教連、民放労連東海地協、全自運愛知支部、全日自労愛知支部、愛建労など17単産・単組があつまり、「全民主勢力の統一のためのアピール愛知推進協議会」を発足させる
3. 1 CBC、労組前委員長の大西さんら不当配転、3.10 大西さん、配転無効処分申請、3.14 大西さんに不当解雇、3.18 名古屋地裁、大西さんの解雇・配転の効力停止の仮処分決定、3.23 不当配転を受けた斉藤さんら5人、配転無効の仮処分申請、4.6 斉藤さんら2人の配転無効の仮処分決定
3. 30 「東海日米労働交流研究会」結成（朝見清道・愛知同盟会長、石垣卯一・新産別委員長、小塚一男・私鉄中部地連委員長、沢田寿・全自東海委員長のよびかけで結成、アメリカ大使館員が歓迎のあいさつ、連絡事務所・アメリカ領事館広報文化局中部事務所、「愛知民報」70.5.1号に参加者名簿が掲載されている）
4. 2～ 4 自治労東海地連「伊勢湾総合開発問題現地調査」を実施
4. — 「愛知文化団体連絡会議」結成
5. 3 愛知憲法会議・反安保護憲実行委員会共催、憲法公布24周年記念大講演会「中央の政治と地方の政治——70年と憲法」（講師：蜷川虎三・京都府知事、土井たか子・社会党代議士、東中光雄・共産党代議士）

[1970年]

- 6. 22 日米安保条約固定期限終了 6.23 同自動延長
- 7. 19 C B C労組定期大会、民放労連脱退を大会で強行採決、8.12 再開大会で、組合費1/2以下に引き下げを決定
- 7. 24 全通脱退の名古屋郵政局職員260人が、新組合を結成
- 8. 12 名古屋地裁、山一証券女子職員の地位確認仮処分申請に「結婚を理由に解雇することは男女の労働条件を差別するもの」として、無効の判決
- 8. 28 大和通信工業（コロンビア〔日立〕資本）工場閉鎖・全員解雇、全国金属・大和通信工業支部のたたかいはじまる、10.20 739人の不当解雇撤回・和解
- 9. 6 第16回愛知母親大会（名古屋大学、2千人参加）
- 10. 25 「第3回民主教育を守る県民集会」（名古屋大学豊田講堂）
- 11. 22 名古屋市に老人医療無料化の直接請求署名運動を社保協を中心に展開、217, 774名の署名集約 71.4より実施させる
- 12. 21 「あかるい革新愛知県政をつくる会」結成総会、社会・共産両党の政策・組織協定を基礎に、新村猛氏（名古屋大学名誉教授）を推薦することを決定 71.2.1 「あかるい会」加入・推薦団体1, 056団体・42万人
- 12. 25 石播名古屋造船労組、全造船機械を脱退

【1971年】 愛知県知事選挙で革新統一候補大善戦、中小木材企業・縮小、倒産があいつぐ

- 1. 29 名古屋地裁、名古屋盲学校坂下教諭（69.9「条件付採用」を理由に解職処分された）の復職を決定
- 2. 7 愛知県知事選挙、新村猛候補 915, 477票、桑原現知事 1, 037, 290票、約10万票差まで肉薄（名古屋市内などでは逆転勝利）
- 2. 18 名古屋市議会、75才以上の老人の医療費無料化を決定
- 2. 29 名古屋地裁、大和通信工業の「解雇は有効」との不当判決、3.27「全金・大和通信工業支部争議支援共闘会議」結成

[1971年]

3. 2 東洋精機KK（本社・尼崎市）名古屋出張所、玉置雅子さんを「赤字なので経費節減のため」解雇を言いわたす、4.26 名古屋地裁に解雇無効の訴訟をおこす
3. 9 愛木労・松栄化学労働組合にたいして、会社から「企業存続はむつかしいので、縮小をはかり、110人の労働者を3月いっぱい東洋プライウッドに移籍したい」と提案、組合、移籍に応ずるための要求を対置、3.26 臨時大会でスト権確立（83.8%）、3.末「移籍は一歩的強行はしない、あくまで合意を前提」と言わせる、4.14「職場選択は本人の意志尊重」などの合意成立、4.21 移籍実施
4. 1 1 愛知県会議員選挙で、初めて共産党県議会議員3人誕生、名古屋市議会1人から6人に躍進
5. 3 愛知憲法会議、憲法記念日大講演会「地方政治の革新」（講師：黒田了一・大阪府知事）
5. 1 7 中村合板、空見合板工場（港区）全面閉鎖、253人の労働者を本社工場などへ配転したいと提案、6.17 組合要求をほぼ認めさせ、空見工場の閉鎖を認める
6. 1 4 愛知家具団地協同組合・倒産、6.26 労働組合・愛木労に結集、7.30 全員解雇、9.6 譲渡物件を現金に替え・労働組合解散
6. 2 7 第9回参議院議員選挙
7. 2 8 「闘う仲間を励まし、司法反動化の狙いをつく集会」（総評全国一般愛知地本、民放労連東海地連、東海金融共闘共催、東別院青年会館ホール）
9. 2 企業、労組、住民、県・市が公害対策をはなしあう「名古屋南部労使会議」を開催
9. 1 0 愛知地労委、愛木労・朝日木工労働組合にたいする不当労働行為にたいして救済命令をだす（一つは、70春闘を前に、会社が「2組に入れ」と組合切り崩し行為は「支配介入、組合に陳謝文を手交せよ」というもの、二つは、1969.12 配転拒否を理由に懲戒解雇された長谷川青婦部長の「配転、懲戒解雇処分は取り消せ、職場復帰をさせよ」と命令）
9. 2 2 「愛知民間労組連絡協議会」（愛知民労協、828組合、34万9千人）結成
9. 2 9 愛木労・名古屋モールディング労働組合にたいして「赤字経営にくわえドルショックで経営ができない、10月いっぱい閉鎖」を

[1971年]

通告、臨時工をくわえ54人で闘争にはいる、10.14 退職金の上積みなどで、会社の解散をみとめ・自主退職

10. 2～ 3 愛労評第25回定期大会、全通、電通から特定政党支持を原案よりつよめるロコツな修正案と原案ともに否決、執行部の提案で、前年度方針にもとづき（踏襲ではない）新しい方針を幹事会で決めることになった

10. 5 愛労評、名古屋鉄道管理局にマル生運動の中止を申し入れる、「国鉄マル生運動」公労委で審査、10.8 当局側の不当労働行為が認められるとし「組合に陳謝せよ」と命令 10.11 国鉄総裁「命令」を受諾すると表明 10.23 国鉄当局、不当労働行為の責任者にたいする訓告処分と職員局長を更迭

10. 10 鉄鋼労連中部地方本部、愛労評を脱退、「鉄鋼愛知労働組合会議」（愛知製鋼、神戸製鋼、矢作製鉄の3労組）は、愛労評にとどまる 愛知県医療労働組合協議会、愛労評に加盟

10. 17 第17回愛知母親大会（岡崎・県立岡崎商業高校、1,400人参加）

10. 19 愛木労・中村合板労働組合の書記長を懲戒処分すると非公式にうちだす、非公式折衝の末「勧告退職」とすることで合意

10. 23 愛木労・浅井プライウッド労組（組合員72人、1955年組合結成）興和資本の工場閉鎖・全員解雇にたいして倒産反対闘争はじまる、10.26 各家庭に退職勧告書郵送で届く、10.27 愛木労、中川地区労主催「浅井闘争支援総決起集会」（400人参加）、11.10 会社、解散を決議、11.22 「解雇通告書」通知、12.11 交渉再開ならず、「協定書」調印・104日の闘争終結、12.17 労働組合解散、19～20 慰労会

11. 14 石川島播磨名古屋造船労働組合（3,000名、すでに全造船機械からの脱退）、愛労評も脱退

12. 3 C B Cの労組前委員長の大西さん、名古屋地裁で配転・首切り無効の勝利判決を勝ちとる

12. 17 名古屋地裁、C B C合唱団・楽団労組の行政訴訟、契約合唱団員・楽団員は労働者であり、団交拒否は不当労働行為であるとの判決

【1972年】 木材産業の「合理化」攻撃つづく、私学助成をすすめる条例制定署名運動にとりくむ

1. 9 「名演会館」落成式

[1972年]

1. 18 安宅資本、愛木労・中村合板労組と名古屋プライウッド労組にたいして会社再建のためとして400人の希望退職などの「合理化」を提案、組合側、退職者の処遇引き上げなどを安宅資本に要求、1.28 安宅資本側、退職金積み増しを回答、1.29 スト権確立、だが月末までに退職希望者416人に達する、2.4 こんご1人の人員整理をださないことを確約させ、たたかいを収拾
1. 21 「愛知全自運会館」（現、運輸一般）を建設（中川区宮脇町）
名古屋地裁、CBCの大脇さんら2人の不当配転無効の仮処分申請を認める
2. 4 朝日木工・豊橋工場閉鎖、530人の従業員を350～60人に減らし、豊川工場と東芝名古屋工場に配転させる「合理化案」を組合側に提示（第1次合理化、東芝へ出向を命じられたものの多くは退職を余儀なくさせられた）
2. 20 「愛知私学助成をすすめる会」結成
3. 27 名古屋放送の女子職員30才定年制は不当と、清水さんが地裁に地位保全の仮処分を申請
4. 1 愛知県、名古屋市、老人医療無料化を70才に年齢引き下げ実施
4. 4 海員組合、「賃上げ、人間性回復、合理化対策」のスローガンで、92日間（75港、1,272隻参加）の長期ストライキで要求実現
4. 27 朝日木工、250人の希望退職を募集・応じないものは指名解雇、72年の賃上げゼロ、60歳定年を55歳にするなど提案（第2次合理化案）、5.10 地労委に不当労働行為救済申し立て、5.13 「独占・東芝の首切り合理化反対闘争」として「朝日木工闘争支援共闘会議」結成、5.22 「会社再建に期待できない者」68人を指名解雇（1人が第2組合の女性、他は第1組合員）、6.2 地裁に「第1組合つぶす解雇」と提訴、7.31 「独占東芝の首切り糾弾・朝日木工闘争支援大決起集会」（豊川市体育館）、9.12 東芝本社と団交、「解雇は撤回しない・解決金を支払う」と回答、交渉団回答を拒否、11.27 裁判闘争・結審、公判後裁判長から和解案提示、会社・組合拒否、73.1.23～24 東芝で団交、「59人の解雇者中36人と解雇係争中の長谷川青婦部長を原職復帰・解雇されている組合3役は『会社都合で退職』とする、解決金の支払い」などの回答を、交渉団受け入れ・仮協定、1.25 全体集会、仮協定を44対18で否決、2.13～15 豊橋で東芝と団交、「職場復帰者は組合が決める」などをみとめさせ、2.16 長期闘争に終止符をうち「和解協定」に

[1972年]

調印、3.5 287日ぶりに解雇された者のうち34人(37人のワケに達せず)が職場復帰(かつて1968年・1200人いた労働者が、1976年には107人となり、東芝独占が持ち株100%を握る)

4. 28 名古屋地裁、大木さんが訴えた、「名古屋放送の女子職員30才定年制」は不当との全面勝利判決 5.11 会社側は判決を不満として高裁に控訴

5. 3 愛知憲法会議「憲法施行25周年記念大講演会」(講師:平良良松・那覇市長、阿部行蔵・立川市長)

5. 15 沖縄施政権返還・沖縄県発足

5. 16 豊橋市職・市従(自治労)、1969. 11. 13ストにたいする三役・減給、執行委員・戒告、参加者(812人)・訓告という大量処分(1970.2.24)を、公平委員会・地労委闘争をつうじて「処分はなかったこととする」という処分撤回を勝ちとる、5.29 西尾市職の71. 7. 15統一ストにたいする大量処分(71.10.19)を取り消させる、6.4 瀬戸市職の71. 7. 15統一ストにたいする大量処分(71.10.19)を取り消させる、これを契機に、自治体労働運動の権利闘争が大きく前進した

5. 20 「愛知県消費者団体連絡会」(消団連)結成

5. — 乳幼児医療無料化の署名運動を社保協を中心に展開

6. 9 名古屋地裁、清水さんが訴えていた「名古屋放送女子職員30才定年制」は不当との訴えを認めた、会社が敗訴

6. 17 佐藤首相、退陣を表明(在任期間、2798日、戦後最長の総理大臣)

6. 20 名古屋放送の大木、清水さん「女子30才定年制」で、会社を相手取って本訴

6. 23 愛知民労協、自治体に公害防止で申し入れ

7. 7 「田中角栄内閣」発足
「大須事件20周年集会」

7. 24 四日市公害訴訟、地裁で勝利判決(「被告」側控訴せず確定)

7. 25 全国金属・東洋工機支部に、全員解雇通告、反対闘争へ

7. 28 小寺製作所(南区、従業員80人)、「年休取得制限は労基法違反」と訴えていた青年(全愛知金属産業労働組合組合員)を不当にも解雇 8.25 地労委に提訴 9.30 和解成立・原職復帰

7. 30 第18回愛知母親大会

[1972年]

8. 2 1 C B C合唱団争議、和解（解決金850万円）成立、8.30 和解調印、
73.8.16 合唱団労組解散

9. 1 1 「全トヨタ労組連合会」結成（76組合、97,000人）

9. 2 2 愛知社会保障推進協議会、「3歳以下の乳幼児の医療の無料化をめざす請願署名」10万余を県議会に提出

9. — 大隈鉄工、従業員の吉川さんを、9月25日から4日間・通算25時間以上も監禁・脅迫して、民青同盟員であったことを隠していたとして「謝罪文」と「退職願」を書かせて一方的に解雇した

10. 2 全国金属・白砂電機支部、和解協定調印

10. 3 「全日本自動車産業労働組合総連合会」（自動車総連）結成（日産労連、全トヨタ労連など12連合、79万6191人）

10. 7～8 愛労評第26回定期大会、自治労、全港湾、愛高教、全日自労など8単産が「政党支持の自由、革新政党との協力共同」の修正案を提案

10～11 名古屋・乳幼児医療無料化の議会修正に杉戸市長「再議権」を発動。社保協など「再議権」発動に抗議し市民運動を展開（73.4より1才児まで無料化を実現。愛知県は、73.4より0才児までの無料化を実施）

11. 9 初の「年金メーデー」ひらく

11. 11 「造船重機労連東海地協」結成

11～12 「私学助成をすすめる会」を中心に名古屋市に直接請求署名運動を展開（35万名を集約、杉戸市長は否定的態度。73.4本山革新市政実現で全国初の「私学授業料助成条例」を制定<5月>）

県公害連を中心に、名古屋市に「公害防止条例制定署名運動」を展開。12月議会で、住民サイドの条例を成立させた

12. 10 第33回衆議院議員選挙、保守・中道の後退、革新の躍進（共産党38議席、3倍近くにふやす）、名古屋市で自民党全滅 革新共同・田中美智子さん当選

12. 12 名古屋地裁、C B C労組の加藤さん（65.7懲戒解雇）の解雇撤回訴訟に、勝利判決を下す

12. 21 名古屋高裁、愛高教の「坂下解雇事件」（1969.9「試用期間」を口実にした解雇）、名古屋盲学校の生徒・父母らの「坂下先生を守る会」の熱い支援のもとで、和解が成立（坂下さんを1969.10.1付で再任用、賃金などを10/16支払う、など）

[1973年]

【1973年】 革新統一の力で名古屋に革新市政実現、インフレ・狂乱物価
阻止のため、社・共・公・労・市民団体が共闘

- 2. 5 大隈鉄工、勤続17年の労働者酒井さんが、夜勤中の疲労からつい居眠りをし機械を破損したことを口実に、「出勤停止10日間」を言いわたした。この処分の取り消しを求めたのにたいして「反省が足りない」として、1.31 「2月5日まで要求書を撤回しないと解雇する」と通告、酒井さんは、2.2 地裁に「解雇禁止仮処分命令」を申請、2.5 全面勝訴、しかし会社は地裁決定を無視し解雇
- 2. 12 名古屋市労連、自治労県本部など45単産・単組がよびかけて「知事選型共闘結成促進」をめざし「革新統一促進労働者大集会」ひらく(6,000人参加)
- 2. 24 全愛知金属産業労組・城北工機支部結成(従業員160人中、110人)ところが、そのご「公安調査庁」の指導で、3.26分裂・第2組合結成、はげしい第1組合攻撃を不当労働行為として、地労委に提訴してたたかう
- 2. 26 愛労評第27回臨時大会、名古屋市長選挙は「知事選挙の教訓を生かし社・共両党と愛労評、学者文化人懇談会の4団体を軸に『あかるい革新名古屋市政をつくる会』を発足させ、その中核としてたたかう」ことを決定
- 3. 10 「愛知県高齢者退職者協議会」結成
- 3. 11 物価・年金メーデー(久屋市民広場、15,000人参加)
- 3. 19 「あかるい革新名古屋市政をつくる市民大集会」(県体育館、1万人参加)
- 3. 20 「マスコミ争議解決3.20大集会」(75団体・1,000人参加)
- 3. 22 社会党・共産党・愛労評・学者文化人懇談会の4者が、名古屋市長選挙の革新統一候補に本山政雄・名古屋大学教授を推すことで合意したことを発表
- 3. 23 「あかるい革新名古屋市政をつくる会」結成総会
- 3. 30 名古屋地裁豊橋支部、全通労組組合員の熊谷さんの共産党市議候補の選挙ポスターを貼った行為(67.4)は「政治活動にあたり、国公法102条、人事院規則違反」として逮捕・起訴された事件で、「政治活動の制限は憲法の表現の自由に違反する」として無罪判決を言いわたした
名古屋地裁、CBC労組の前委員長の大西さんの懲戒解雇(70.3)は不当との勝利判決
- 4. 1 「あかるい革新名古屋市政の会」総決起集会(市公会堂)

[1973年]

- 4. 2 トヨタカローラ名古屋KK（本社・中区、従業員570人）、全愛知金属産業労組組合員の大平さんらを解雇、5.8地裁に解雇無効・地位保全仮処分を提訴、8.23 「大平さんを守る会」結成
- 4. 10 「マスコミ爭議解決要求大行動」・対県交渉、5.22 ひきつづき5. 22大行動・大集会
- 4. 13 愛知民労協、自治体に「公害基金」設立を申し入れ
- 4. 17 春闘共闘委、初の「年金統一スト」
- 4. 22 名古屋市長選挙、「あかるい革新名古屋市政をつくる会」で本山政雄氏を当選させ、革新統一に凱歌、12年ぶりに革新市政奪還（本山 421,266票・50.28%、杉戸 416,512票・49.72%）
知多郡武豊町でも、山本革新町政を実現
- 4. 25 最高裁、全農林警職法事件など3事件に、逆転敗訴の反動判決
- 4. 27 春闘史上最大の統一スト、公労協72時間スト突入、公務員共闘半日スト
地裁、名古屋放送の「女子30才定年制」違憲と判決 大木、清水さん勝訴
- 5. 1 第44回愛知中央メーデー、本山革新名古屋市長のあいさつに参加者大きな歓声
- 5. 3 愛知憲法会議「憲法施行26周年記念第講演会」（市公会堂、本山名古屋市長挨拶）
- 5. 22 「CBC・NBN・中日新聞・三見社糾弾、マスコミ弾圧、女子30歳定年制をハネ返し、革新名古屋市政を育て、小選挙区制を阻止する5. 22大集会」（CBC・NBC・東京新聞・ラジオ関東の爭議解決共闘会議主催、80団体・800人参加）
- 5. 25 名古屋地裁、名古屋放送（NBN）東京支社の榎崎さんの「女子職員30歳定年制」は「民法90条の公序良俗に違反し無効」と解雇差し止めの仮処分申請を認める決定をした、判決ごの交渉で、会社側は「裁判所の決定を守る、定年解雇の辞令は出さない」ことなどを約束した
- 5月～7月 小選挙区制粉碎闘争展開（5.― 社・共・民主団体で「小選挙区制粉碎愛知連絡会議」結成、5.15―16、5.18―19など統一行動、自民党、法案国会提出を断念させる）
- 6. 2 愛知県教育委員会、愛高教の1979. 5. 19全国統一闘争（1時間スト）にたして、停職1カ月・1人、減給1カ月・4人、戒告・12人、文書訓告・1686人と大量処分を発令

[1973年]

- 7. 6 「東海自治体問題研究所」設立総会
- 7. 24 C B C労組組合員が昇格差別是正を求めて地労委に不当労働行為救済申し立てを行う 75.2.28 一部救済命令 75.3.18 中労委に申し立て人が再審査申し立て 75.3.27 使用者側、地労委を相手取って取り消しの行政訴訟を提訴
- 8. 5 第19回愛知母親大会（菊里高校）、17年ぶりに名古屋市教育委員会が後援
- 8. 20 「名古屋高速道路反対市民会議」結成
- 8. 30～31 全電通・名古屋中央支部定期大会、同支部青年常任委員全員の解任という異例の提案を賛成多数で決定、解任された青年常任委員会（4人）は、「74年参議院選挙の全国区候補・地方区候補の必勝を期してたたかう」などを「青年会議の方針案に入れなかった」として、解任の暴挙を強行された
- 9. 20 全国金属・大和通信支部、3年にわたるたたかいをつうじて、解雇撤回を勝ち取る 11.1 「全金大和闘争報告集会」
- 10. 1 名古屋市、「私学授業料助成制度」発足
- 10. 15 名古屋地裁、帝国興信所名古屋支部の吉田さんの「生理休暇、月に2度認めよ」の訴えを認める・勝利判決
- 10. 17～18 愛労評第28回定期大会、10年間議長を務めた飯島幹雄退任、8単産が「政党支持の自由」で修正案を提出
- 10. 23 第1次石油危機、11.6～ 各地で、トイレトペーパー、洗剤、砂糖の品不足、買いだめ騒ぎ起こる
- 10. — 利川製鋼「公害差し止め」裁判、勝利判決
- 11. 8 名古屋高裁、C B C労組前委員長の大西さんの解雇・配転は支配介入の不当労働行為と断定、勝利判決
- 11. 14～21 日本共産党第12回大会、「民主連合政府綱領」決定
- 11. 16 名古屋市職労、保母5人が腰痛・頸肩腕症候群で、公務災害申請をしたところ 72.10.13却下されたので、地公災基金名古屋市支部に公災審査請求 11.19 あらたに保母35人が腰痛・頸肩腕症候群で公災認定を申請
- 11. 20 公労協、インフレ手当を要求し第1波の統一スト
- 11. 21 「私学助成法制定・学費値上げ反対・助成金大幅増額要求・教育・保育諸要求実現決起集会」（愛労評、私教連、県学連など実行委員会主催、2,000人参加、当日、8大学・26高校・7幼稚園教組が半日ストを決行）

[1973年]

12. 4 公労協インフレ手当を要求し第2波の統一スト

12. 11 愛商連、新婦人、母親連絡会、建設産業労組、日農、民医連、大学生協、共産党などで「インフレ・物価値上げ反対、物不足を解決する愛知県連絡会」結成

12. 22 社・共・公3党と愛労評・電機労連・消団連など7団体で「インフレ阻止、生活防衛愛知県民会議」結成

——この年、狂乱物価が家庭生活を襲う（12月の卸売物価、前月比7.1%の暴騰、チリ紙 対前年比150%、砂糖50%上昇、大商社の買占め・売り惜しみに抗議の集会があいつぐ）

【1974年】 「国民春闘」、インフレ阻止・生活防衛の国民的なたたかいひろがる

1. 7 春闘共闘委員会、「反インフレ・生活防衛の国民春闘」とすると宣言

1. 15 C B C楽団労組、日本音楽家労働組合東海地方本部C B C楽団分会に移行

1. 16 愛知民労協、労災シンボ

1. 19 名古屋市職労、保母などの大幅増員（保母・予備保母・業務士「408」人の増員要求）、ホームヘルパー全員の正職員化を求め、父母・住民の支援のもとで全日スト、本山革新市長、要求をほぼ認める（4.1 143人新規採用、保母ら増員281人、7年ごしのたたかいでホームヘルパー106人全員本採用）

1. 13 動労名古屋地本「不当な統制処分に反対する会」6支部代表者会議主催、「不当な統制処分に反対し、基本的人権と民主主義を守る決起集会」（名古屋市教育館、50人参加）

1. 21 私教連加盟の20保育園が、公私格差の是正を訴えて、23日午後半日ストを市当局に通告（スト中止・私立保育全園で休園）

1. 25 社・公・共・総評など70団体、インフレ阻止国民共闘（インフレ阻止・物価値上げ反対・生活危機突破国民連絡会）結成

1. 30 愛知民労協、エネルギーシンボ

2. 3 新幹線名古屋市内沿線住民、騒音・振動差し止めと損害賠償を求めて「新幹線公害訴訟原告団」結成、3.30 名古屋地裁に提訴

2. 5 未組織木材労働者の組織化をすすめていた愛木労・愛知木材産業労働組合は、大府市の日進木材工業で、職場の圧倒的多数を組織して「日進支部」を公然化

2. 18 名古屋地裁、愛知機械工業で不当解雇（1972.5）された平田さん

[1974年]

の「解雇は名城大学（夜間）での自治会活動を嫌った思想弾圧、私生活への干渉である」として、地位保全の仮処分申請にたいして、
「解雇は解雇権の乱用・無効」との判決で勝訴

- 2. 21 動労、名古屋新幹線公害原告団に呼応して、減速運転
- 2. 27 名古屋地裁、全自運愛知支部が山本建材（名古屋市西区）を相手
どって水島照明さんの配転・解雇は無効との、地位保全・仮処分申
請を全面的に認める、勝利判決
- 2. 28 愛知同盟、「インフレ反対・生活防衛大集会」
- 3. 1 反インフレ統一スト 3.1、3.26、4.4と、連続して中電、東海銀
行、名古屋商工会議所などへ大衆交渉、インフレの元凶を糾弾
- 3. 3 「インフレ阻止・物価値上げ反対・生活危機突破愛知県民総決起
集会」（久屋市民広場、20,000人以上が参加）
- 3. 17 日本ジャーナリスト会議東海地区連絡会議（略称：J C J 東海）
第1回定期総会
- 3. 20 愛知国公、建設省マル生粉碎第1次決起集会、そのご、3.26 第
2次、3.29 第3次、4.10 第4次、4.26 第5次とつづく 1975.
3.27 全建労と建設省でマル生問題で合意・マル生闘争終結
- 3. 21 愛知県教育委員会、愛高教の1973. 4. 27全国統一行動
（半日スト）にたいして、停職3カ月・1人、停職1カ月・4人、
減給1カ月・19人、文書訓告・1, 799人におよぶ大量処分
- 4. 2 「春闘勝利・民主主義と人権を守る動労組合員をはげます愛知県
大集会」（港湾会館）
- 4. 4 人事院、国家公務員にインフレ手当0. 3月分支給勧告
- 4. 7 全動労に結集する「全国鉄動力車名古屋地方労働組合」結成大会
- 4. 10～12 全動労名古屋地方労組、94春闘で革マル暴力集団の妨害
をはねのけて、整然と96時間ストに突入
- 4. 11 74春闘、これまでの最大の交通ゼネスト、公務員共闘、半日ス
ト（名古屋など大都市、日教組などは全日スト）
日教組に不当弾圧、愛高教にも刑事弾圧（24カ所の家宅捜査、29
分会・64人に不当にも任意出頭を求める＜4.14現在＞）、4.13 愛
高教、県警の強制捜査に抗議しストライキ
- ――この年の県春闘の平均賃上げは、28. 432円（32.9%）で史上最高
を獲得
- 5. 3 愛知憲法会議「憲法施行27周年記念大講演会」（講師：蜷川虎
三・京都府知事、本山政雄・名古屋市長ら、市公会堂、2千数百人）

[1974年]

- 5. 7 「日教組・愛高教弾圧反対、教育反動化粉碎愛知県共闘会議」結成（東別院青少年会館ホール）
- 5. 9 「革新名古屋市政1周年を記念する市民大集会」（市民会館、2,000人参加）
- 5. 21 中部電力、全国最高の料金値上げを発表
- 5. 24 自治労・市労連・愛高教共同「愛高教にたいする政治弾圧、名古屋市労連に対する不当処分に抗議する5・24総決起集会」
- 5. 30 人事院、74年度に限り、公務員給与を4月から10%引き上げを勧告（暫定勧告）
- 7. 2 東亜合成資本の組合つぶしとたたかう全国一般名古屋合同支部・日本アクリル化学分会を支援・激励する「不当労働行為粉碎・夏季一時金闘争勝利7・2総決起集会」
- 7. 7 第10回参議院議員選挙、議席差7・保革伯仲
- 7. 26 人事院、公務員給与平均29.64% 31,144円アップを勧告（人勧史上最高率の引き上げを勧告）
- 7. 28 第20回愛知母親大会（全体会、県勤労会館）
- 8. 28 名古屋地裁、6年間・35回の裁判でたたかってきた石川島播磨・山下東彦さん解雇事件に「活発な反労使協調路線の組合活動家を配転拒否したことを理由に解雇したことは不当労働行為であり、解雇は無効」との勝利判決（1962.9 神戸事務所転勤命令、「3年間の期限つき」の約束を反古に、1967.8 名古屋造船に戻さず、名古屋営業所に転勤命令、やむをえず地裁に仮処分申請、地裁は「工場に戻さなくとも不当とは言えない」との不当判決、1968.10 東京第3工事部への転勤命令、これを拒否、1968.11 拒否を理由に懲戒解雇された事件）
- 9. 25 全国一般・豊橋木工の鈴木さん、業務命令違反で解雇（1964.5）から10年間の「解雇無効」のたたかいで（裁判闘争で、仮処分、本訴・地裁、高裁いずれも勝訴）、会社側と和解成立・職場復帰を勝ちとる
- 9. 27 「反インフレ・生活防衛、民主主義擁護9・27県民大集会」
- 9. 28 第20回愛知母親大会（分科会、菊里高校）
- 9. 30 名古屋高裁、名古屋放送「女子30才定年制」訴訟に、1審どおり「違法」の判決 10.6 名古屋放送労組との団交で、①最高裁には上告しない、②「女子30才定年制」廃止する、③大木、清水さんを復職させることを約束 12.20 就労記念集会

[1974年]

9. — 名古屋地裁、東洋精機名古屋出張所で働く玉置き雅子さんの解雇は無効と判決

10. 1 新聞労連東海地連、愛労評に加盟

10. 15～16 愛労評第30回定期大会、県知事選挙で「進歩的、良心的な無党派の学者・文化人の候補者を」の方針を決定

11. 13 「革新県政をめざす大集会」（市公会堂、3,000人参加）

11. 14 愛木労・愛知木材産業労組、近鉄丸物工器名古屋工場（新川町）で、「近鉄丸物工器支部」を公然化

11. 26 田中首相、金権体質が批判され辞任（在任期間・886日間）

11. 29 「愛知県中立系労組連絡協議会」結成（中立労協、15万人）

11. 30 社会党・共産党・愛労評・学者文化人懇談会で四者会談、「みんなの革新県政をつくる会」で合意 12.17 四者会談、「同和行政は特定団体に偏重せず、公正、民主的に」で合意、知事選の統一成立、候補者には成瀬幡治・社会党参議院議員を無所属統一候補として推すことを確認

12. 5 「統一戦線促進労組懇談会」（統一労組懇）発足

12. 9 三木内閣発足

12. 11 地方公務員災害補償基金名古屋市支部、保母2人の「腰痛症腱症炎は公務災害」と認定、ひきつづき 12.13 10人、翌年2.3 8人をそれぞれ認定した

——— この年、倒産11,681件、負債総額1兆6,490億円、ともにこれまで最高、経済成長率 マイナス0.2%、戦後初のマイナス成長、卸売物価 24.5%上昇の狂乱物価

IV 戦後第二の反動攻勢期の労働運動 (1975～88年)

1 深刻な経済不況下・春闘連敗のもとでの労働運動 (75～79年)

【1975年】 深刻な経済不況・「雇用調整」あいつぐ、日経連・賃上げ抑制のガイドラインしめし、春闘の敗北始まる

1. 6 民放労連・名古屋放送労組の大木さん、清水さん、女子30歳定年制無効をたたかいとり、労使合意で元の職場に復帰
1. 21 日経連、「賃上げ15%以内」のガイドライン確認
1. — 電機、造船、繊維などで「雇用調整」あいつぐ(75.1～3にかけて、雇用調整の実施がピークに達する)
2. 9 愛知県知事選挙、「みんなで革新愛知県政をつくる会」統一候補・成瀬幡治氏惜敗、自民・民社支持の仲谷愛知県政が発足
2. 28 地労委、C B Cの昇格差別は不当労働行為と認定、救済命令をだす(第1次)、3.27 会社側、地労委命令を不服として行政訴訟
- 4.23 第2次提訴分についても、不当労働行為として救済命令、
- 4.23 地労委が裁判所に緊急命令を申し立て、5.7 名古屋地裁、C B Cは地労委命令を守れとの緊急命令判決をだす
3. 13 愛知地労委、全愛知金属産業労組城北工機支部の申し立てにたいして、「第2組合育成・支部組合員への脱退強要などは不当労働行為」と認定、救済命令をだす
3. 27 名古屋高裁、大須事件で91被告に「騒乱罪」適用・不当判決(4.9 被告団、最高裁に上告)
3. 28 「住民要求実現・地方財政確立県民会議」結成(愛労評、愛教組、名古屋市労連、自治労など10団体、北区役所ホール)
3. 31 県教委、愛高教の74春闘(4.11、4.13全国統一行動)にたいして、停職4カ月・1人、停職2カ月・3人、停職1カ月・1人、減給2カ月・13人、文書訓告・2, 019人におよぶ大量処分
4. 9 75春闘、鉄鋼、造船回答14.9%、初の「一発回答・妥結」不況とインフレの同時進行下、雇用・合理化問題が登場するなかで、日経連のガイドライン(15%)内に抑え込まれた春闘

[1975年]

4. 13 いっせい地方選挙、日本共産党・県議3→ゼロ、名古屋市議6→5（推薦をくわえ6）と後退

東京・美濃部知事3選、大阪・黒田知事再選、神奈川・長洲革新県政実現

4. 30 南ベトナム解放軍、サイゴンなど全土を解放（アメリカ敗北、ベトナム戦争終結）

5. 16 自治省事務次官、自治体労働者の「給与水準適正化」を自治体に通達 これ以降、自治体労働者にたいする賃金抑制攻撃がはげしくなる（のちに、75人勸による賃上げが、県職、教組には1号ダウン・7月実施がおしつけられる）

5. 21 6年半にわたる東洋プライウッド闘争、名古屋地裁で「解雇無効」の全面勝訴判決でる

5. 26 中部電力労働者90人が、名古屋地裁に「中部電力の人権侵害、思想差別撤廃」を求めて提訴、中電人権闘争はじまる

6. 21 同盟・全官公、労働基本権問題で、つよいスト制限認める「意見書」発表

6. 28 「中電人権闘争愛知支援する会」結成

6. ー 全商業・関西精機分会（73.6結成）、委員長ら4人の指名解雇にたいして、地裁に地位保全の仮処分を申請

7. 11 新聞労連東京新聞（中日新聞）争議、10年にわたるたたかい組合側の全面勝利（組合三役ら4人の解雇をすべて撤回）で解決

7. 28 石川島播磨重工・山下東彦解雇事件で、地裁勝利判決をうけて、会社側と「懲戒解雇撤回、未払い賃金の支払い、同日づけで『自己都合退職』」で勝利的「和解」成立

8. 10 部落解放同盟正常化愛知県連第1回大会、76.6.13 第2回大会で「愛知県部落解放運動連合会」（愛解連）と改称
第21回愛知母親大会（名古屋市公会堂）

8. ー 日本アクリル化学（全国一般・日本アクリル分会、1972.10 結成）争議、1981.12までつづく

9. 18 紙パ労連王子製紙労組春日井支部（組合員21人）は、「会社側の組合活動敵視、不当な身分・賃金差別は不当労働行為」と地労委に救済申し立て（69.11）をしていたところ、地労委のあっせんで6年ぶりに和解が成立

[1975年]

9. 21 名古屋地裁、旭精機労働者6人の「降格処分は無効」と判決（会社は、地裁に地労委命令取り消しをもとめて提訴したもの。76.1.12 会社は控訴を取り下げたため、地労委命令が確定、11.13 会社は謝罪・誓約分を掲示した）
10. 2 名古屋高裁、CBCの大西さん、加藤さんの解雇事件は一審どおり「解雇は不法・無効」として、会社の控訴を棄却した、10.3 会社は最高裁に上告
10. 3 名古屋市など37市が赤字に転落と全国市長会が発表
10. 12 「第1回教育を語る父母と教職員のつどい」（名古屋大学、父母と教師2,500人参加）
10. 16～17 愛労評第32回定期大会、7単産が「政党支持の自由」で修正案を提案・少数否決
10. 22 名古屋地裁、「愛知同盟」役員らは会社社長らをまじえて勤務時間中に同盟事務所でオチチョカブ、かけマージャンにふけり//麻雀生産性本部//と自認していたことを警察に告発したため、報復的に解雇（70.11.28）された愛知同盟の元書記Mさんの「職員としての地位確認訴訟」は、元書記の主張をほとんど認められ、「解雇権の乱用・解雇は無効」の判決が言いわたされた。「同盟」は直ちに控訴（78.3.28 3.30判決を前に、同盟側は控訴を取り下げ、Mさんに「内容証明郵便」で、①労働契約上の身分は存続するので、4.11に出勤されたい、②未払い賃金は当日支払う、と通知してきた）
11. 7 愛労評を中心に、「スト権回復を支持する県民会議」結成
11. 20 愛知県、職員・教員などの賃金を「1号ダウン、賃上げ7月実施」をおしつける 愛高教、県庁内にすわり込む
11. 26 「中区争議団連絡会」結成（名演会館、10の争議団が参加）
11. 26～12. 3 公労協・地公労、8日間におよぶ史上空前の「スト権スト」に突入
名古屋市議会、自民・民社両党が、スト権回復ストに反対する立場から、名交労組の半日ストを口実に、「名古屋市職員の労務管理調査特別委員回」設置の緊急動議を提出、共産、社会両党の反対をおしきり強行採決・設置を決定
12. 10 教員の「主任制」反対の「県民連合」1万人集会
- ――この年、不況深刻、倒産件数1万2,606件、負債総額1兆9,146億円、卸売物価指数3.0%上昇、消費者物価指数11.8%上昇

[1976年]

【1976年】 「構造不況下」で、愛木労・全面的な合理化攻撃とたたかう、
「愛知統一労組懇」発足

1. 12 「中部電力人権訴訟支援団体連絡会議」結成
1. 16 闘争10周年を機に「全日検不当解雇撤回、10. 21西川判決
粉砕、76春闘勝利、1. 16名古屋港大集会」ひらく
1. 26 日経連、「賃上げゼロか、1ケタ」のガイドゾーンを決定
名古屋地裁、中電人権訴訟原告にたいする知多火力での暴力事件
にたいして異例の勧告
1. 31 国鉄、75年末スト権スト処分・解雇15人を含む5, 405人
2. 4 「ロッキード事件」発覚 7.27 田中角栄前首相逮捕
2. 14 国鉄当局、国労・動労のスト権ストにたいして202億円の損害
賠償請求訴訟提訴
2. 18 大同製鋼・日本特殊鋼・特殊製鋼が合併調印、9.1 大同特殊鋼と
して発足
2. 29 インフレ共闘、生活防衛国民会議大集会(7万人)、全国258ヶ
所・86万人
3. 9 日教組、「主任制」反対全国統一行動
3. 16 大隈鉄工所、69人の労働者を「指名解雇」通告(2.16から希望
退職者を募っていたが、2月末までに311人が応じた、後藤徹さんら5
人も指名解雇・「解雇撤回」を求めてたたかうことを決意、のちに
他の解雇者とともに「大隈争議団」を結成)
3. 28 「インフレ・物価値上げ反対、不況突破、生活防衛、ロッキード
汚職糾弾3. 28県民大集会」(久屋市民広場、10,000人参加)
4. 5 愛木労・中村合板労組に会社は、港区空見工場閉鎖・15か所の
営業所廃止にともなう、244人の人員整理案(3度目の首切り提案)
を提案、71.1の1度めの首切りの際「2度と人員整理をしない」と
いう協定をまもれと、背景資本・安宅産業(71.2に吸収される)に
たいするたたかいが始まる、東京行動を組織(7.-- 首切り撤回、
同時に希望退職募集に同意、退職条件の上づみをかちとる)
4. 8 県春闘共闘委・はじめての「地域スト」で、東海銀行などへ抗議
行動
4. 10 「革新統一戦線を促進する労働組合懇談会(略称:愛知統一労組
懇)を結成、20労組、24人が参加、「金権・戦犯・売国政治を
打破するため労働者のみなさんに訴える」とのアピールを採択呼び
かけ人10氏(内田基大・全日自労県支部委員長、小川春水・名古

[1976年]

屋水労委員長、大塩順一郎・全港湾名古屋支部委員長、鈴木正明・愛知地方建設労組委員長、中原東四郎・自治労県本部委員長、永井清明・愛知私教連委員長、中者輝治・愛知国公共闘議長、原哲郎・名古屋市高教組委員長、広田利雄・全自運地方本部委員長、宮崎雄介・愛知県高教組委員長)

4. 13 愛木労・石川合板労働組合(205人)に、会社側、「労働時間の1時間延長、賃金15%切り下げ、定年切り下げ、手当などの切り下げ」を提案、4.23 100人の希望退職の募集を提案、翌日から募集を強行、これにたいして、合理化攻撃をたたかう中村、東ブラ、岡本ベニヤ、ラクダ、名古屋ベニヤと「愛木労反合6組合共闘」を結成、5.21 会社は組合の協力が得られないとして、6.20付けで「工場閉鎖・全員解雇」を発表、6.10 背景資本・揖斐川電工本社(大垣市)へ全組合員による大抗議行動、6.14 高浜市長、会社「工場閉鎖を再考し操業を継続」を申し入れる、6.20 全員解雇予定日、解雇強行できず、以後、大垣での宣伝行動、高浜市内全戸ビラ配布、石川会長宅座り込み、揖斐川電工への直接団交要求、6.29 徹夜団交・30日未明「背景資本・揖斐川電工に経営責任をとらせて、工場閉鎖・全員解雇の白紙撤回、操業再開」をかちとる

4. 18 愛知統一労組懇「76春闘勝利交流集会」

4. 23 「大隈鉄工所の不当解雇反対支援共闘会議」結成、「大隈鉄工所のたたかう労働者を励ます集い」(北区役所ホール)

5. 6 最高裁、CBC楽団員は労働者であり、団体交渉拒否は不当労働行為と断定、楽団員の労働者としての権利は確定 5.11 会社側は団体交渉に応ずると回答、そのご団交メンバー(上部団体)に介入して交渉ができない 6.13 ようやく団交開始 7.10 地労委、団交拒否は不当労働行為として救済命令(団交開催、謝罪文掲示)をだす 7.15 会社、謝罪文を労働組合に手交

6. 5 「未組織労働者の組織化をすすめる愛知共同センター」(略称:「未組織共同センター」)発足(事務局組合:建設一般、全自運、全愛知金属、全商業、事務所:愛知単一労働会館内)

6. 27 愛知統一労組懇「闘争経験交流集会」ひらく

6. 28 「中日新聞差別をなくす会」(東京本社勤務・42人)は、東京都労委で、争議全面解決の「和解」協定に調印、1967年の不当解雇を撤回、身分・賃金上の不当差別撤廃などで合意 6.30 名古屋本社勤務・29人も、愛知地労委で同趣旨の「和解」協定に調印

[1976年]

8. 2 2 第22回愛知母親大会

9. 1～2 全電通・名古屋市外支部大会で、「昨年12.26名古屋北労基署へ職業病の認定審査申請をした3人の組合員（被災者）にたいして、認定審査申請取り下げ要請」を不当に決定（3人の組合員は取り下げに応ぜず、10.14 電電公社東海電気通信局は、「業務上災害」と認定・通知）

9. 3 「労働会館第二ビル」竣工

9. 4 愛知統一労組懇主催「愛知における統一戦線をめざすシンポジウム」（講演「政治危機を打開するイタリアの統一戦線運動」 講師 高木督夫法政大学教授）

9. 6 愛知地労委、東洋ブラウード労働組合の賃金差別（1973.）の排除をもとめた申し立てに、「組合員に不利な取扱いをしないよう、考課やり直し」「謝罪文の交付」命令をだす

9. 7 人事院、名古屋税関に働く2人の青年労働者が、第2組合を脱退し、全税関に加入しようとしたところ、当局からのさまざまな妨害があり、これを不当労働行為と認定し、「かようなことがないように」と警告した

9. 8～9 愛労評第34回定期大会、「解同」朝田派県連と愛労評で「部落解放愛知県共闘会議」結成を提案、自治労、愛高教など統一戦線支持の11単産が連名で「ロッキード疑獄の徹底究明、統一戦線の促進に関する決議（案）」は、執行部による一部修正のうえ提・可決された

9. 2 4 「地方財政確立県民会議」（75.3結成）、9月県会にむけて「大法人の事業税をふやし、8大要求を実現せよ」との請願署名44万人分を提出（12月県議会で「法人事業税適正課税（3年間）」を可決）

10. 5 C B C 楽団争議、解決で合意（解決金5,900万円）

10. 2 5 名古屋高裁、C B C 争議について和解案提示（解雇撤回・職場復帰、権利回復、解決金など、「公表」せず口コミで職場へ）

11. 1 2 名古屋高裁で裁判長の職権あっせん、新日鉄労働者の「労働災害死亡損害賠償裁判」で、1,900万円の見舞金支払いで「和解」成立（9年2カ月ぶりで解決、一審判決の3倍にあたる見舞金で解決）

12. 5 第34回衆院総選挙、自民党、無所属を加えてかろうじて過半数確保

12. 2 4 福田内閣成立

12. 2 7 総評と共産党、原水禁運動の再統一でトップ会談

[1977年]

【1977年】 第2期名古屋革新市政実現、「愛知職自連」結成

1. 1. 1 全日本検数協会の不当解雇撤回闘争、11年間のながいたたかいに終止符をうつ、全日本検数協会と全港湾名古屋支部で和解確認書調印(1966.1.7 日韓条約批准反対で政治スト[1965.11.13]を企画指導などの理由で8人役員を解雇した事件、66.3.11 地裁、解雇無効の仮処分を決定したが、協会側は異議申し立てをし、1968.10.21 地裁は「政治ストは違法」として解雇を認める不当判決をくだした、1971.4.10 控訴審判決では、1人のみ解雇無効、他は1審判決支持の不当判決、組合は、1人の職場復帰(71.8.16)をかちとり、他はひきつづき6人が本訴を1972.5.22提起し、6年余28回の法廷闘争をとりくんだ結果、協会側との和解交渉で、66.1 3人は退職・77.2.1 協会に再採用、他の3人は、退職とすることで合意した)
1. 1. 2 地労委、C B Cの昇格差別(第2次)に不当労働行為として救済命令をだす
1. 1. 8 野党4党が「1兆円所得減税要求」 2.24 3千万署名運動 この結果、標準世帯で、1万5千円の「戻し税」実現
2. 1. 0 愛知統一労組懇、安保破棄県実委と共催で、第2期本山革新市政実現のための要請運動など当面の諸闘争推進のための「学習交流集会」
2. 1. 4 名古屋市で「清潔で豊かな市政をすすめる会」結成総会
2. 1. 5 C B C放送労働者にたいする弾圧・差別をめぐる長期争議のうち、不当解雇・不当配転とたたかってきた9人が、11年8カ月ぶりで、名古屋高裁で和解、2.16 2人の解雇は撤回、3.14 就労
2. 2. 6 中部鋼板、親企業(新日鉄)の下請企業系列支配がつよまるなかで、全金・中部鋼板支部組合員の大多数が脱退・別組合結成・鉄鋼労連加盟、5人が全金支部の旗を守る、のちに2人となり、8.16 会社は、鉄鋼労連中部鋼板労組から除名されたことを口実に2人を解雇、解雇反対闘争 1979.12.26 解決金支給で和解
2. 2. 7 愛知統一労組懇「77国民春闘交流集会」(桜華会館)
3. 1. 2 「職場に自由と民主主義を守る愛知連絡会議」(愛知職自連)結成総会(名演会館、会長・真下信一名古屋大学名誉教授)
3. 2. 7 愛知国公、「行政相談活動」をはじめる
4. 2. 4 名古屋市長選挙、本山市長 46万余票・54%の得票、7万票差で再選をかちとり、名古屋革新市政第2期実現

[1977年]

- 4. 26 中村合板（従業員530人）、前年10月から連続して赤字、会社が更正法申請・倒産、5.31 「支援共闘会議」結成、これに包まれて労働組合（組合員230人）「再建闘争」をすすめる、7.19 「更正開始決定」、9.30 「再建合理化案」を合意、10.8 希望退職者確認、1979.9.29 「更正計画案」決定、11.20 「計画」認可、11.21 「新会社」（更正会社中村合板株式会社）として再出発、そのご必死の努力にもかかわらず、住宅建設の激減など経営環境の悪化で、連続18カ月の赤字つづき、新会社の存続も困難と判断、1981.3.26 自主廃業、退職条件で合意「協定」、4.28 臨時大会で組合解散、4年にわたる再建闘争に終止符、4.30 自主廃業
- 4. 27 CBCの「マル秘報告書」が公表される（1973年度CBC労組の代議員選挙等で誰がどう投票したかを組合書記長がチェックして会社提出した一覧表で、昇格差別に悪用されたもの）
- 5. 4 最高裁、全通名古屋中郵事件判決（公労法17条は合憲と判決）
- 5. 19 原水協・原水協、運動統一で合意
- 5. 22 岩倉市長選挙、革新統一候補・丹羽孝氏当選、岩倉市にはじめて革新市政誕生
- 5. 27 CBC「解雇・配転争議解決報告会」
- 6. 4 第1回「健康と環境を守れ！愛知の住民いっせい行動デー」
- 7. 10 第11回参議院議員選挙
- 7. 16 「原水爆禁止愛知県統一実行委員会」結成 7.19 14年ぶりに「原水爆禁止愛知県統一大会」をひらく（県勤労会館、1千人）
- 7. 28 平野織機倒産・和議申請、全国金属・平野織機支部再建闘争はじまる
- 8. 3 14年ぶりの原水禁統一世界大会
- 8. 17～20 総評第55回定期大会、連合の時代に対応した反自民統一戦線形成にむけて「反安保・反独占」路線を修正
- 8. 27 「職場に自由を！愛知県集会」（愛知職自連主催、18団体参加）
- 9. 18 第23回愛知母親大会（北区・ミヒロホール）
- 9. 22 大塚グループの資本参加で会社再建にのりだしたニチバンは、労働組合に「安定賃金とスト権放棄の再建協定」に調印させられたが、さらに組合（合化労連ニチバン労働組合）を壊滅させるため、管理職を総動員して、安城工場などで組合員一人一人から「会社に忠誠を誓い、裁判を行わない」との署名を強要した。組合は、埼玉、大

[1977年]

阪、愛知の地労委に不当労働行為として提訴、このご11年におよぶ裁判・地労委闘争を余儀なくされる(1988.10.5 中労委での和解で闘争終結)

9. 25 全自運(全国自動車運輸労働組合)愛知地方本部第32回定期大会、運輸一般(全日本運輸一般労働組合)愛知地方本部に移行を決定

10. 7 名古屋地裁、大隈鉄工所の酒井さんの「地位保全仮処分申請」を認めると決定

10. 11~12 愛労評第36回定期大会

11. 9 名古屋地裁、私立幼稚園3教諭が「私教連米野幼稚園分会」を結成したことを嫌い解雇(77.3)した事件は不当労働行為にあたるとして「地位保全の仮処分申請」を認める判決

11. 12 第1回「愛知県産業労働懇話会」開催

11. 14 名古屋地裁、大隈鉄工所が酒井さんに「退職願」を書かせた謀略事件は不当と、勝利判決

11. 24 日教組、主任制度化反対で午後3時から2時間スト(33都道府県)

12. 6 大隈鉄工に480人の合理化案提案(翌年2月、「雇用保障を優先し、企業再建に全力をあげること」で終結)

12. 8 ニチバン、工場部門の「合理化」で、余剰人員の営業への配転を、組合は、従来の配転ルールを確認したうえ、会社の「合理化」提案をみちめたが、会社は、組合執行部、「誓約署名」拒否者をねらいうちにした配転者名簿を発表(安城支部の書記長をはじめ、中央委員、支部施行委員の1/3を配転させるもの、組合の抗議にもかかわらず12.21配転命令を強行)、組合は、12.21 名古屋地裁に対して配転無効の仮処分申請と地労委に不当労働行為救済を申し立てた

12. 22 中労委の勧告で、運輸一般・名鉄運輸支部の組合員15人の解雇(69.12)事件の和解成立、解雇取消し・全員職場復帰(78.2.16

10年ぶりに職場復帰、別に1人は、71年に職場復帰を勝ちとっている)

12. 27 愛労評、「全国金属・平野織機支部支援共闘会議」を結成

【1978年】 生活防衛・経済危機打開にむけてのたたかいにとりくむ、争議団連絡会議発足、「栄総行動」はじまる

1. 18 同盟第14回定期大会、民間先行の労戦統一(右翼再編)方針を決定

[1978年]

1. 21 全国金属・丸八工業支部、不当労働行為で工場長を始め管理職の処分を要求 3.1 全面勝利で解決
2. 10～11 工場閉鎖・全員解雇をはねのけた愛木労・石川合板労組、組合結成20周年記念「団結旅行」
2. 26 愛知統一労組懇「78国民春闘交流集会」（桜華会館）
愛知職自連「職場に自由を―第2回愛知県集会」（東区ナオリ会館、パンフ『いま、職場では…』を発行）
3. 16 平野織機・破産、背景資本「丸紅商社」へのたたかいを本格化
3. 25 自治労など労組、全日農、愛商連、新婦人、民青、県学連16団体のよびかけで「生活防衛・経済危機打開愛知県総行動実行委員会」発足総会（70団体・120人参加）
3. 29 名古屋地裁、新日鉄名古屋の労働者4人が訴えていた「友人の労災事故死は会社の生産第一主義の犠牲」などのピラを配ったことでの懲戒解雇は無効・勝利判決
3. 30 名古屋地裁、ニチバン労働組合・安城支部の不当配転問題で、5人のうち支部書記長ら2人の仮処分申請を認め、他は却下との決定をくださった（申請を認められた支部書記長ら2人は安城工場に戻った、他は、配転先きに赴任して、地労委でたたかうことになった）
3. ― 愛高教、65年10.26闘争以来の「不当処分」について、県教委と「和解協定書」に調印、昇給復元などを実現
4. 11 名古屋高裁、全商業・山下分会の解雇事件（76.6.20）で、会社側の控訴を棄却 5.11 解雇された組合員9人が約2年ぶりに解雇撤回・職場復帰実現
4. 15 東洋プライウッド、企業経営の悪化を理由に「春日井工場の閉鎖」「230人の希望退職募集」を労働組合に提案、4.20 愛木労・東洋プライウッド労働組合、時限スト、40日のたたかいのすえ、243人という目標を上回る退職者がでて、闘争終結
4. 16 生活防衛・経済危機打開県総行動実行委員会、「第1回トヨタ関連交流集会」（岡崎市内）
4. 29～30 愛知職自連・第2回総会（18団体・30人参加）
5. 21 「中電人権裁判支援東三河の会」結成総会
5. 23～6. 28 国連第1回軍縮特別総会、愛知から26人の代表に「核兵器禁止署名」110万を託す
5. 29 「全港湾福岡支部支援連絡会議」結成

[1978年]

- 6. 8 名古屋地裁、名古屋水労が4年間とりくんできた松川時夫労災訴訟（公務中、心臓マヒで死亡）に「公務災害」との勝利判決、その
ご、名水労は、「脳卒中」で死亡した伊藤保さん、通勤途上で「心
臓マヒ」で死亡した野沢さん、さらに「脳卒中」で死亡した柴田さ
さんをそれぞれ「公務上」と認定させ、名水労は労災認定闘争に大き
く道をきりひらいた
- 6. 14 愛木労・東洋プライウッド労組、75.5地裁判決（解雇無効）、
76.9地労委命令（賃金差別是正）をもとに「和解協定」調印・
「10年闘争」（1968.九州工場組織化をめぐる、組合ハカイ・組
合つぶし攻撃とたたかいつづけた）終結、組合執行部6人の解雇撤
回・9年ぶりに職場復帰、組合員への賃金差別是正を勝ちとる、
7.8 「東洋闘争勝利記念祝賀会」、7.19 組合執行部6人職場復帰
- 7. 1 「愛知うたごえ運動30周年記念祝賀会」（県勤労会館）
- 7. 2 第24回愛知母親大会（千種区城山中学校）
- 8. 20 愛知職自連、「出向・配転攻撃との闘い」学習交流集会（市勤労
婦人センター）
- 9. 4 最高裁、大須事件上告棄却（騒乱罪の成立80被告の有罪確定）
- 9. 9 丸紅の不当配転と賃金差別の撤廃を求めてたたかう「吉田昂弘さ
さんを励ます会」結成総会（県産業貿易館、商社員ら50人が参加）
- 9. 21 全建労、組織逆転（第一組合が多数派となる）
- 10. 17 「愛知争議団連絡会議」結成総会（県勤労会館、21団体・31人参
加）
- 10. 26 「全員で要求を出し合い、全員で行動、全員で解決」を合い言葉
に「栄総行動」（第1回）始まる
- 11. 20 石川島播磨重工、名古屋工場閉鎖、総人件費20%削減の大「合
理化」案発表
- 11. 21 愛労評が中心になって「郵政マル生反対県共闘会議」結成
- 11. 25 名古屋で「オリンピックを考える市民連絡会議」結成
- 12. 3 生活防衛・経済危機打開県総行動実行委員会、「第2回トヨタ関
連交流集会」（刈谷市内）
- 12. 7 私学助成をすすめる会、「大幅助成」を求めて県議会に約127
万人の請願署名を提出

[1978年]

- 12. 9 社会党・共産党・愛労評・学者文化人懇談会などで「清潔で豊かな革新県政をつくる会」結成総会（第二豊田ビル）
- 12. 12 大平内閣発足
- 12. 18 愛労評が中心になって「愛知県労働安全衛生センター」発足

【1979年】 統一労組懇、労戦統一のあり方の全国討論をよびかける

- 1. 1 愛知国公共闘、愛労評へ一括加盟
- 2. 4 愛知県知事選挙、社会党・愛労評は候補擁立できず、共産党・宮崎雄介さん（愛高教委員長）をたててたたかう（仲谷知事再選）
- 2. 23～27 「雇用を守り失業に反対する全国縦断行動」県下14カ所で連鎖集会
- 3. 20 第2回・栄総行動
- 3. 27 第2次石油危機・OPEC総会、原油価額9.1%引き上げ、石油製品いっせいで値上げ（この年、3.5.6.8.9.12月の6回、あいついで値上げ、2.5倍となる）
- 6. 12 統一労組懇、「労働戦線の真の統一のために」の5項目を提言
- 6. 15 第3回・栄総行動
- 6. 28 地労委、ニチバン労組にたいする「誓約署名事件」にたいして不当労働行為と断定し救済命令をだす（会社は決定を不服として、中労委に再審請求）
- 7. 7 「一般消費税新設反対愛知県連絡会議」結成
- 7. 20 第4回・栄総行動
- 9. 2 第25回愛知母親大会（名東区・名古屋サンプラザ）
- 10. 7 第35回衆議院議員選挙、自民・過半数確保できず、共産党・倍増、愛知1区・田中美智子さん、6区・安藤いわおさん当選（選挙中に大平首相「一般消費税導入断念」を表明）
- 10. 24～25 愛労評第40回定期大会、自治労、愛高教、建設一般、医労協の4単産「政党支持自由」の修正案提出、259人中69人の支持を得た

[1979年]

- 1 1. 6 統一労組懇、「真に労働者の利益を守るナショナルセンターのあり方について全国討論を」よびかける
- 1 1. 19 総評富塚事務局長、国際自由労連第12回大会（モントリオール）に出席、「総評は労戦統一の過程がすすみ、新たなナショナルセンターを展望するなかで、国際自由労連加盟問題を前向きに検討する」と記者会見で表明
- 1 1. 21～23 統一労組懇、第5回秋の学習交流全国集会、「労働戦線の統一、真のナショナルセンターのあり方」を中心テーマで、討論が深められ、そのごの統一労組懇運動のあたらしい発展への契機をつくる
- 1 1. — 第5回・栄総行動
- 1 2. 3 春闘共闘、賃上げ要求基準最低8%以上をうちだす（はじめて労働4団体で要求を一致させた）
総評第2回拡大評議員会、「社・公の協力関係の確立、院内共闘を成熟させ、これを基礎に全野党共闘に発展させるよう努める」
「富塚の国際自由労連加入発言は総評綱領にも反しない」ことを確認した
- 1 2. 9 愛知統一労組懇「労戦統一のあり方・交流学習集会」
- 1 2. 16 公明・民社両党、「中道連合政権構想」で合意
- 1 2. 26～27 統一労組懇年次総会、「ナショナルセンターのあり方についての提言」と「80年春闘への提言」を発表
- 1 2. — 竹本油脂（蒲郡市）・森山さん解雇（1966.10）争議、金銭和解で解決

2 政治戦線、労働戦線の右翼的再編下の労働運動（80～88年）

【1980年】 総評・「社公政権構想」支持をうちだし、右転落をはじめる

1. 10 社会・公明両党、「共産党排除」「安保条約、自衛隊当面存続」の「連合政権構想」で合意
自治労愛知県本部「結成30周年と新事務所竣工記念祝賀会」
1. 20 統一労組懇、「ナショナルセンターのあり方懇談会」を発足
2. 3 愛知統一労組懇「80国民春闘討論集会」
2. 6～7 総評臨時大会、「共産党排除、安保・自衛隊認知」の「社公連合構想」支持を決定
2. 15 豊橋（東三河）につづいて2番目、瀬戸地方統一労組懇結成、このご各地で、地域統一労組懇が結成される
3. — 第6回・栄総行動
4. 19 「深夜・交替勤務労働者の健康と権利を守る懇談会」（助言者・山田信也名大教授）
4. 27 「ナショナルセンターのあり方を考える 報告・討論集会」（名東区役所講堂）
4. — 第7回・栄総行動
5. 3 愛知憲法会議、憲法記念日大講演会「80年代を迎えー憲法と文化」（市公会堂、1,500人参加）
5. 21 「革新統一愛知懇談会」結成 7.27 「結成記念シンポ」
5. 25 「80年代の労働戦線のあり方を考える愛知懇談会」発足、8.2 「ナショナルセンターのある方を問う」講演会ひらく
6. 8 浦和地裁の「組織分離和解協定」により、合化労連・ニチバン労働組合に、第2組合が結成される
6. 12 大平首相、急死（在任期間・554日）
6. 22 第36回衆議院議員選挙・第12回参議院議員選挙（同時選挙）、自民党安定多数獲得、愛知1区・田中美智子さん惜敗、6区・安藤いわおさん3選
7. 17 鈴木内閣発足

[1980年]

- 7. 17 第8回・栄総行動
- 7. 19 CBC労働組合定期大会、愛労評脱退をきめる
- 7. 21～24 総評第61回定期大会、労戦統一について「統一推進会」発足を了承
- 7. 28 「失対再確立愛知県共闘会議」結成
- 8. 19～20 統一労組懇臨時総会、「軍事費を削ってくらしと福祉・教育の充実を」の国民大運動などを提起
- 8. 26 トヨタ自工、6月期決算・売上高で初の3兆円企業、経常利益も前年度の5割増、2,900億円で過去最高
- 9. 5 興和名古屋工場（組合は全織同盟）の職場活動家・佐々木さんの不当出向辞令（1977.9.16「コーワ新薬・高松営業所」へ在籍出向・配転内示）を撤回させる裁判闘争で、名古屋高裁の職権和解勧告をうけて、会社側との交渉で、2年ご（1982.9.30まで）に「名古屋工場に戻す」ことで合意（1980.3.26 名古屋地裁で仮処分申請は却下された）、81.2.21 「勝利報告集会」（自治労会館）
- 9. 7 第26回愛知母親大会（中央高校）
- 9. 10 「新幹線公害訴訟勝利をめざす決起集会」（港湾会館）、9.11 名古屋地裁・新幹線公害訴訟判決騒音振動被害の賠償慰謝料支払いを認めたが、減速運転の請求は棄却
- 9. 11 愛知統一労組懇・臨時総会、「軍事費を削ってくらしと福祉、教育の充実を」の国民大運動のとりくみなどで討論
- 9. 27 「軍事費を削って、くらしと福祉・教育の充実をを求める愛知県実行委員会」（国民大運動県実行委員会）結成総会
- 9. 28 社会党愛知県本部、「清潔で豊かな革新市政をすすめる会」からの脱落を決定
- 9. 30 「労働戦線統一推進会」（ゼンセン同盟、電力労連、電機労連、自動車総連、鉄鋼労連、全日通各委員長で構成）発足、労戦の右翼再編策動新たな段階に
- 10. 8～9 愛労評第42回定期大会、「社公政権構想」を支持をうただし、統一労組懇に「反省を求める」方針を提案、名古屋市長選問題では、社会党の方針（社公民路線）に批判続出
- 10. 15 「山下支援共闘会議」結成総会（名古屋港湾会館）
- 11. 16 「軍事費を削れ・国民大運動」中央集会・8万人、愛知から800人以上が参加

[1980年]

- 11.16 私学をよくする父母と教職員の大集会（久屋市民広場、11,700人参加）
- 11.19 第9回・栄総行動
- 11.25 日本教育会愛知県支部結成に反対して、「くらしと教育・平和を守る愛高教総決起集会」（名古屋・港湾会館、1,000人組合員が結集）
- 12.1 東芝資本に牛耳られた新朝日木工は自己破産申請、12.23 「破産決定」 1981.2 「朝日木工破産反対支援共闘会議」結成
- 12.7 愛知争議団連絡会議・第3回総会（市勤労婦人センター）
- 12.10 統一労組懇年次総会「80年代の展望と労組運動の基本」を決定 私学助成をすすめる会、235万の請願署名を県議会に提出
- 12.23 全国一般愛知地本・六法出版分会、地労委で団交拒否などの不当労働行為事件で、団交協定、謝罪と和解金確保で「和解協定」に調印・勝利解決、1981.2.20 「闘争勝利報告集会」（労文センター）
- 12.26 C B Cの昇格差別問題で、中労委による長年の和解あっせんのすえ、「中労委勧告」を会社側と争議団双方が受諾、81.1.21 昇格・賃金問題和解成立、81.3.6 C B C争議解決パーティ

【1981年】 革新名古屋市政転覆の策動を打ち破り・第3期革新名古屋市政を実現、C B C長期争議和解成立・解決

- 1.24～25 愛知統一労組懇、臨時総会・学習交流集会（旗びらきと兼ねて、南知多町・山海館）
- 1.28 「市民不在・排除を許さず、革新市政の継続発展をすすめる市民大集会」がひらかれ、「革新市政を守り発展させる会」（「革新市政の会」）を発足させた（市公会堂、9,200人参加）
- 1.― 愛木労・朝日木工争議 ～1982.12
- 1.21 C B C争議・全面解決（1962年役員2人の解雇が発端、20年の長期争議）
- 2.10 愛高教、「日本教育会県支部結成反対決起集会」ひらく（港湾会館、1,300人参加）、2.15 反対デモの中、警官に守られて、県立高校校長会一部が「日本教育会愛知県支部」結成総会
- 2.17 「市民本位・市民参加の革新市政継続発展、81国民春闘の再構築をかりとる2.17労働者総決起集会」（市公会堂、2,500人参加）
- 2.18 「大型店問題を考える県連絡会」結成

[1981年]

- 2. 26 名古屋市長選挙、自社公民4党が本山市長を推薦、とりこみをはかる、「革新市政の会」は変質阻止・革新市政を守れの50万署名を展開
- 3. 10 革新市政の会、「革新市政を守り発展させる3. 10市民大集会」(県体育館、10,600人参加)
- 3. 13 第10回・栄総行動(1978.10.26 第1回)
- 3. 21 統一労組懇など、第1回トヨタ包囲行動
- 3. 24 革新市政の会と本山市長が「政策協定」に調印
- 3. 26 全国金属、中央発条支部(約1,000人)を除籍(脱退)、「トヨタ自工関連企業」・脱退と同時にトヨタ労連に加盟、中部鋼板支部につづく大手組合の脱退
- 3. 31 「丸紅の吉田人権闘争(1978.4.1 人事厚生部付に配転辞令、窓・電話・仕事のない5坪ていどの隔離部屋に閉じこめられる、79.4 東京本社に転勤)」、名古屋地裁で和解成立(賃金差別是正、昇格差別是正、1983.4 丸紅に復帰)、4.24 「勝利報告集会」(厚生年金会館、150人参加)
- 4. 2 革新市政の会「第3期革新市政確立をかりとる市民総決起集会」、本山市長挨拶に立つ
- 4. 16 第11回・栄総行動
国民大運動県実委、「革新市政の継続発展、軍事費を削ってくらしと福祉・教育の充実、81国民春闘勝利4. 16県民集会」(久屋市民広場)
- 4. 26 名古屋市長選挙(4.10告示)、本山市長が3選・革新市政を守る
- 4. 27 愛高教、愛解連など13団体で「愛知県就職差別別反対共闘会議」結成総会
- 5. 1 「統一推進会」が「労働戦線統一の基本構想」を発表
- 5. 3 愛知憲法会議、憲法施行34周年記念大講演会(市公会堂、2,300人参加)
- 5. 26 全国革新懇(平和・民主主義・革新統一をすすめる全国懇談会)結成総会
- 5. 30 健康と環境を守れ!愛知の住民いっせい行動デー
- 6. 19 総評、「基本構想」にたいする「5項目補強見解」を決定
- 6. 21 国民大運動県実委、「行政改革と国民生活シンポ」(自治労県本部大会議室)
- 6. 28 「愛知地域労組〃きずな〃」結成大会(280人余が結集)

[1981年]

- 6. 29～7. 2 王子製紙・春日井工場、一時帰休
- 6. ー 第2回国連軍縮特別総会、愛知からも多数の代表が参加
- 7. 5 第27回愛知母親大会（西陵商業高校）
- 7. 11～12 愛知統一労組懇、「81年年次総会」（「基本構想」批判で、7万人大学集会をとりくむことなどを決定）
- 7. 16 第12回・栄総行動
- 7. 20 総評第63回定期大会、「労戦統一」方針、本部案・修正案のいづれも採決せず、結論もちこし
- 9. 12～13 愛知職自連・第4回総会（刈谷市）
- 10. 7～8 愛労評第44回定期大会（東別院青少年ホール）、全港湾、全損保、市高教、私教連など9単産が「基本構想反対」の修正案提出、修正案賛成・代議員の1／3突破、「政党支持自由」の修正案（愛高教など5単産）36％の支持
- 10. 28 「国民生活破壊の臨調行革反対・愛知各界連絡会議」結成（50団体の代表が参加）
- 11. 4 総評第64回臨時大会、ふたたび「労戦統一」方針、採決できず、もちこし
- 11. 12 臨調路線反対・軍事費を削って暮らしと福祉、教育を守る11. 21国民中央大行動、愛知から950人参加
- 11. 21 「私学をよくする父母と教職員の1万3千人大集会」（県体育館）
- 11. 28 自治労県本部、新川町で「保育・現業労働者大集会」をひらく（2,000人参加）
- 11. 30 名古屋高裁、大隈鉄工の吉川さんの「解雇は無効」との判決を下す
- 11. ー 第13回・栄総行動
- 12. 7 総評拡評、非民主的な採決で、「統一準備会」参加を決定
- 12. 11 愛知職自連、『大企業黒書 愛知版ー減量経営下における大企業の横暴と労資協調組合の役割』を発表
- 12. 14 「民間先行労戦統一統一準備会」発足総会（39単産・380万人）
- 12. 19 「東海銀行から労基法違反と不当差別をなくす会」結成
- 12. 22 県内の労働三団体（愛労評・愛知同盟・中立労協）のよびかけで、32単産代表が参加で「愛知県民間労組統一問題情報交換懇談会」ひらき、労働戦線統一のための労働三団体による作業委員会設置などを確認 12.25 愛高教、自治労など5単産は、愛労評議長にたい

[1981年]

して「民間労組統一問題情報交換懇談会」参加をとりやめるよう強く申し入れた（「交換懇談会」はそこごひらかれなくなった）

【1982年】 第二臨調「行革」で公務員の人勧を凍結、「全民労協」発足

1. 30 「核兵器禁止国民署名愛知県センター」結成大会
2. 20 「全国一般・日本アクリル分会闘争解決報告集会」
2. 21 依佐美基地撤去をもとめる集会・デモ
2. 22 愛知職自連、「職場総点検活動をすすめるための経験交流学習会」
2. 28 労働3団体（愛労評、同盟、中立労協）で、物価メーデー
3. 17 中労委、ニチバン労働組合の「誓約署名再審査事件」で組合完全勝利の救済命令をだす
3. 26 第14回・栄総行動、中電包囲総行動
4. 13 「刑法の改悪に反対する県連絡会議」結成
4. 16 第15回・栄総行動
5. 3 愛知憲法会議、「いま、平和と憲法を考える」大講演会（市公会堂、1,600人参加）
5. 15 全国金属・平野織機支部、破産管財人と和解協定に調印、工場再建と労働債権完全確保で全面勝利 6.1 全国金属・平野織機支部、不動産買い主との間で即時和解成立、「平野工機」として、春日井市に工場を移転・再建、1977.7.28 会社が「和議」申請以来、5年にわたるたたかい終結、10.28 勝利終結集会、1983.3.1 春日井市に平野工機新工場完成・全員移転
5. 16 「愛知革新県政各界連絡会議」結成総会（東別院青少年会館）
6. 26 「全国一般ナトコ支援共闘会議」結成総会
7. 10～11 愛知統一労組懇、第5回定期総会（犬山市内）
7. 28 全国金属・白砂電機支部へ合理化攻撃、名古屋工場閉鎖、希望退職・パート首切りなど、シルバー労組（第2組合）とパート組合と共闘・反対闘争へ 11.30 条件闘争で解決（岩倉へ移転）
7. ー 丸栄包囲行動
8. 28～29 「第1回あいち教育大集会」（名古屋観光会館、500人参加）

[1982年]

- 9. 19 第28回愛知母親大会（市教育センター、600人参加）
- 9. 20 鈴木首相の裁断で、人事院勧告の実施「凍結」を決定
- 9. 24 人勧凍結に抗議し、市労連、国公などが昼休み集会（500人参加）
- 10. 4～5 愛労評第46回定期大会、県知事選挙で自社公民が推す鈴木副知事を事実上支持することを決定（修正案・労戦 80/296 政党支持 77/296 自民候補支持反対 81/294） 10.15 自治労県本部、愛労評に「大会の異常で非民主的運営を改めるよう」申し入れ
- 10. 10 革新県政各界連絡会、「革新県政実現県民大集会」、堀場英也さんを知事候補に擁立を決定（愛知厚生年金会館）
- 10. 12 鈴木首相辞意表明（在任期間・864日）
- 10. 13～16 統一労組懇の「軍拡臨調反対、くらしと平和を守る全国縦断大行動」県内各地で多彩な行動を展開
- 10. 18 東芝電気と総評全国一般（全国一般愛知中小労連愛木労朝日木工労働組合）が、争議解決について調印、全面解決 11.21 「全国一般朝日木工労組闘争終結集会」（蒲郡市・ホテル竹島）、12.1「全国一般・朝日木工争議解決報告集会」
- 10. 21 第16回・栄総行動、全県総行動
- 11. 10 第17回・栄総行動
- 11. 14 「軍拡・大企業奉仕の臨調路線反対、人勧凍結撤回・軍事費を削ってくらし、福祉・教育の充実と平和を求める11. 14国民中央大集会」、愛知から24万の署名とともに、約1,300人以上が上京・参加
- 11. 20 自治労、愛高教、県職が、人勧凍結・臨調行革に反対し「11. 20愛知県自治体労働者大集会」をひらく（久屋市民広場、8,000人参加）
- 11. 27 中曽根内閣発足
臨調行革と人勧凍結に反対して、県5組合（県職、愛教組、愛高教、愛事組、名古屋学事労）が初めて屋外集会（市公会堂から、栄にむけてデモ行進、5,000人が参加）
- 12. 1 愛知統一労組懇、事務所を独立・移転（中区伊勢山）
- 12. 6 全国金属・日本IBM支部、13年間のたたかい、中労委の和解勧告で勝利的解決（昇進差別撤回）
- 12. 8 愛知私学助成をすすめる会、県議会に330万をこす助成拡充の請願署名を提出
- 12. 14 「全日本民間労働組合協議会」（全民労協）結成大会（41単産・423万人）

[1982年]

12. 27 名古屋地裁、第一建築サービスの新井さんの不当解雇事件（1981.12.24解雇通告）についての地位保全の仮処分申請を却下

【1983年】 20年にわたる名古屋テレビ争議解決

- 2. 6 愛知県知事選挙、革新県政の会は、堀場英也氏をすいせんしてたたかい51万票を獲得、自社公民・労働三団体は県副知事の鈴木礼治を推薦・初当選（131万票）
- 2. 8 名古屋市職労、組合員の意見を集約して中央委員会で、愛知革新懇に参加することを圧倒的多数で決定
- 2. 16 693人の婦人が、建設一般、自治労の支援で「常滑競艇労働組合」結成（建設一般に加入）
- 2. 27 愛知争議団連絡会議・第5回総会（愛知婦人文化会館）
- 3. 1 名古屋テレビ争議（昇格差別是正など）、中央労働委員会で和解協定に調印、20年にわたるすべての争議が解決（名古屋放送労働組合は1963.6.6結成いらい、1969年の組織分裂攻撃、ろこつな組合員にたいする昇進昇格差別、女子30歳定年制などとねばりづよくたたかってきた）
- 3. 13 総評全国一般愛知地本と愛木労で完全統一のための「愛知県中小企業労働組合連合会統一大会」
- 3. 14 第18回・栄総行動
- 4. 19 第19回・栄総行動
- 5. 3 愛知憲法会議、憲法施行36執念記念大講演会「憲法と文化——つたえよう憲法のところ」（市公会堂、2,000人）
- 5. 14 自治労、愛高教など、「臨調路線による国家統制・財政制裁、地方自治・住民生活を守り、賃金引き上げをめざす5.14自治体労働者大集会」（2,600人）
- 5. 24 日音労「キャバレー大統領」事件（1983.3.2突然店舗閉鎖・専属バンド楽員の一方的解雇、労働者でないと団交拒否）、大編成による演奏抗議集会・地労委提訴の前日に、団体交渉によって「大統領分会員は雇用された労働者である」ことを認め、「解決金1,250万円の支払い」などの協定書に調印、争議全面解決 6.12 勝利報告集会（名古屋郵便貯金会館）
- 6. 26 参議院議員選挙、初の「比例代表制」選挙実施

[1983年]

- 9. 4 第29回愛知母親大会（北区・総合社会福祉会館）
- 9. 12～14 老人医療費無料制度復活、医療・年金の大改悪をくいとめる福祉キャラバン（29市を訪問）
- 9. 13 稲沢女子高の解雇・差別事件、15年ぶり勝利の和解
- 9. 28 「健保改悪反対・健康といのちを守る県実行委員会」結成
- 10. 13～14 愛労評第48回定期大会（市公会堂）、自治労、建設一般など10単産が、臨調行革反対、労戦統一問題、政党支持などで修正案を提案
- 11. 5 自治労県本部、「人勧完全実施、労働組合の権利を守れ、軍拡論調追従の賃下げ攻撃反対、国民生活を守る半田集会」（半田市内、全県から2,000人参加）
栄総行動実行委員会、「第20回栄総行動記念フェスティバル」（東別院青少年会館）
- 11. 16 第20回・栄総行動（1,200人）、栄総行動実行委員会が栄総行動5年のとりくみをまとめたパンフ『みんなの要求 みんなで実現ー栄総行動』を発刊
- 11. 19 自治労、愛高教、名高教、国公共闘で「11. 19愛知県公務員労働者大集会」（久屋市民広場、6,000人参加）
愛知私保労、「保育の危機から子どもを守る私立保育園大集会」（県勤労会館大ホール、1,200人）
- 11. 23 「私学をよくする父母と教職員の1万8千人大集会」（久屋市民広場）
- 11. ー トヨタカローラ名古屋の大平さん、名古屋高裁で和解
- 12. 18 第37回衆議院議員選挙、自民党議席過半数を6議席下まわる（得票率45.76%）、自民党「新自由クラブ」と統一会派結成しかろうじて多数となる、愛知1区、革新共同の田中美智子さんが当選・帰り咲き、6区、安藤いわおさん惜敗

【1984年】 統一労組懇、健保法改悪に反対し統一スト

- 2. 28 愛知統一労組懇、臨時総会
- 3. 1 中電人権侵害・思想差別撤廃の闘いを支援する会、パンフ『黄色いゼッケン』を刊行

[1984年]

- 3. 4 大運動実行委員会「軍事費を削って、いのちとくらしを守る県民大集会」（久屋市民広場、3,000人参加）
- 3. 5 ニチバン労組・安城支部副支部長にたいして組合活動が困難になり勤務への配転辞令を強行、3.16 地労委に不当労働行為救済の申し立てを提訴（本人の指名スト 3.5から6.13まで）8.17 地労委の勧告を無視して、副支部長に「出勤停止」の懲戒処分を強行
- 3. 10 第1回・トヨタシンポ
- 3. 20 第4回・トヨタ総行動
- 4. 20 愛知統一労組懇、健保改悪反対でスト、集会など統一行動展開
- 4. 22 革新市政の会・革新県政の会が「シンポ いま、なぜ革新自治体か」をひらく（記念講演、元社会党大阪府本部委員長・亀田得治さん）
- 4. 24 名港労協、雇用保障を要求し、48時間コンテナ搬入拒否でたたかう
- 5. 3 愛知憲法会議、憲法施行37周年記念「憲法記念日の集い20周年記念大講演会」（市公会堂、1,800人）
- 5. 9 第22回・栄総行動
- 5. 16 教育関係労組団体・大学人22氏のよびかけで「教育臨調反対シンポ」をひらき、「教育臨調反対アピール」を採択、「教育臨調反対県連絡会」を発足させた
- 5. 17 愛知統一労組懇、健保改悪反対でスト、集会などで第2次統一行動を展開
- 5. 21 名古屋プライウッド、6.25 自主廃業・工場閉鎖・全員解雇を提案、5.28 愛木労・名古屋プライウッド労働組合・臨時大会、真剣な討論の末、「廃業・売却・一定の再雇用の確保」を追求することを決定、6.25 工場閉鎖、組合全員集会、6.27 ご苦労さん会（170人参加）、8.23 労働組解散大会（組合員139人）、7.1 新会社（「西部合板」）へ売却・11月操業、組合員の2/3新会社に採用
- 5. 27 「トマホークくるな、人間の鎖依佐美大行動」
- 6. 29 争議の勝利をめざし「丸栄・東海銀行・中電包囲6.29行動」（6争議団〔山下分会、東海銀行、中電争議団、大隈、旭精機、新井さんを守る会〕の共同行動、集会デモ・約500人参加、要請行動139人参加）
- 7. 1 「労基法改悪反対・実効ある男女雇用平等法の制定をすすめる県連絡会」結成総会

[1984年]

- 7. 7 「教育臨調に反対し、民主的教育改革をすすめる愛知県連絡会」
(教育臨調反対県連絡会) 発足総会
- 7. 29 「政党法を許すな、核トマホークくるな、健保改悪反対7. 29
中央大集会」(東京、11万人、愛知から4,000人が参加)
- 9. 2 愛知職自連「職場に自由を 愛知討論集会」ひらく
- 9. 5～ 7 全動労名古屋地方労組、8カ所の駅頭で「軍事費を削り、
くらしと平和、国民の国鉄を守れ」を宣伝
- 9. 9～10 愛知統一労組懇、1984年次総会(三河ハイツ)
- 10. 4 本山名古屋市長、引退を表明
- 10. 11～12 愛労評第50回定期大会、「反自民・反独占」の旗を降ろ
し、「労戦の右翼再編推進方針」を多数決で決定
- 10. 25 「政党法反対県各界連絡会議」結成
- 10. 26 「ナショナルセンターのあり方を考える国鉄名古屋懇談会」結成
総会(県中小企業センター)
- 10. 27～28 名古屋市職労「明日の名古屋を考えるつどい」ひらく
- 10. 28 「愛知の教育の充実を願う父母・県民と教職員のつどい・名古屋
集会」(2,500人、他日に県下各地でも集会をひらく)
- 11. 18 「私学をよくする父母・教職員の2万人大集会」(久屋市民広場)
- 11. 23～25 日本のうたごえ祭典(大阪市内)合唱発表会・職場の部で、
全日自労県支部「合唱団サボテン」(平均年齢65歳以上)が1位入
賞
- 12. 1 名古屋大学で、「平和憲章」実現へ第1回全学シンポ
- 12. 8 自治労県本部と常滑市職労で「つぶそう!とこなめ版臨調・人べ
らし、かちとろう!84人勧完全実施、まもろう!市民と職員のい
のちとくらし 12. 8常滑大集会」(常滑市、全県から自治体労
働者2,200人が参加)
- 12. 12 愛知の私学をテーマにした映画「それぞれの旅立ち」特別試写会
12.22 「それぞれの旅立ち」封切り・上映
- 12. 15 「非核名古屋市宣言署名運動推進連絡会議」結成
- 12. 16 第30回愛知母親大会(市教育センター)、構成劇「愛知母親3
0年のあゆみ」上演

[1985年]

【1985年】 自社公民4党・同盟に愛労評が協力して自民党市政復活に手を貸す、名古屋革新市政に幕

1. 19～20 愛知統一労組懇、85春闘臨時総会（犬山館）
1. 27 愛知職自連と愛知争議団連絡会議共催で「85国民春闘討論集会」
1. 29 「革新市政の会」結成4周年「革新市政の確立推進をめざす市民大集会」（市公会堂、4,700人参加、「革新市政をつづける署名運動」を提唱、3.11現在 署名最終集約44万をこえる）
2. 16～17 愛知争議団連絡会議・第7回総会
2. 16 県の私学助成すえおきに3千人の抗議集会（名城小公園）
2. 24 第2回・トヨタシンポ（中区・産業貿易館）
3. 6 全商業・名果分会（豊山町）にたいする差別・組合つぶし攻撃（1981.5発生）にたいして、不当労働行為を陳謝・差別是正で争議解決
3. 8 「75周年記念国際婦人デー愛知県集会」（県勤労会館小ホール、200人参加）
3. 25 第5回・トヨタ総行動
3. 27 名古屋・革新市政の会「市民大集会」（5,000人参加）
3. 30 全国一般・名古屋合同支部六法出版分会の「配転拒否・解雇」事件（1982.1.11）にたいして、配転ルール確立、解雇撤回・任意退職で争議解決
4. 11 第23回・栄総行動
4. 21 名古屋市長選挙、革新市政の会、海保孝氏をたててたたかう、14万余票・29.5%の得票、自・社・公・民4党、愛労評・同盟が推薦した西尾武喜候補当選、革新市政に幕
5. 3 愛知憲法会議、「がんばれ憲法、憲法施行38周年記念大講演会」（市公会堂、2,200人参加）
6. 21 全国一般・名古屋合同支部日本法律研究出版分会、「故意倒産・解雇」（1982.3.15）にたいして、社屋の自主管理・営業継続、「三商」の実質経営・使用者責任追求し、1985.6.7 名古屋地裁で、未払い賃金請求訴訟勝利判決をうけて、地労委のあっせんにより和解で労働債権（立ち退き料名目で600万円の支払い）を確保して1195日の争議解決、7.6 「解決報告集会」

[1985年]

- 6. 2 2 日音労（日本音楽家労働組合）白菊分会、「営業閉鎖・解雇」（1985.1.31）事件に対して、賃金・退職金支給、雇用保険給付確保で、争議解決、8.29 「白菊闘争勝利報告集会」
- 7. 1 「労基法改悪反対県連絡会」結成総会
- 7. 1 3 愛知統一労組懇と全動労名古屋地方労組「国鉄を考えるシンポ」をひらく（150人参加）
- 7. 1 4 「中電人権裁判10周年・支援と連帯の集い」
- 8. 2 5 第31回愛知母親大会（北区・八王子中学校、1,000人参加）
- 9. 7～ 8 愛知統一労組懇、85年次総会（犬山市）
- 9. 1 1 「国家機密法阻止県民連絡会議」結成
- 10. 2～ 3 愛労評第52回定期大会、国鉄の分割反対の5千万署名（「民営化反対」が欠落）を提起、国家機密法反対決議の一方、軍拡臨調路線とは対決せず、全民労協路線へのすりよりのつよめる
- 10. 1 1 閣議、国鉄の分割・民営化を決定
- 11. 4 郵政省、24年ふりにく全通との対決から転換、「柔軟な労務管理の指針」を各局に通達
- 11. 1 4 第24回・栄総行動（800人参加）
- 11. 1 4～17 国民大運動県実委など「いのちとくらし、平和を守る自治体キャラバン」で県下87市町村に申し入れ行動にとりくむ 11. 23 県と名古屋市に申し入れ
- 11. 2 0 「国鉄の分割・民営化に反対し、国民のくらしと足を守る愛知県連絡会」結成総会（市公会堂）
- 11. 3 0 「職場を明るくする港区連絡会議」、「（住友軽金属の）〃アルミの檻（おり）〃をやめさせよ、元の職場にもどせ」と、名古屋南労基署に要求、昼休み集会（会社は、職場活動家・鈴木明男さんを、4月から仕事を奪い〃アルミの檻（おり）〃に隔離・みせしめ的に不当差別をしている事件）
- 11. 3 0 愛知私保労「保育の危機から子どもを守る私立保育園大集会」
- 11. — 中電人権裁判・100回記念「『合理化』反対、職場の権利擁護学習交流集会」（県産業貿易館）
- 12. 1 愛知統一労組懇、新事務所（中区正木2丁目）へ移転
- 12. 1 3 愛知県教委、「複合選抜方式」を提案

[1986年]

【1986年】 国鉄労働者「人材活用センター」で差別され、「労使共同宣言」を拒否

1. 18～19 愛知統一労組懇、臨時総会

1. 21 国鉄と動労、鉄労、全施労、が「労使共同宣言」を締結

2. 1 自治労県本部、名古屋市職労、県職のよびかけで「国庫負担・補助金削減反対各界・団体代表者懇談会」（46団体・106人参加）

2. 7 地労委、全国一般・ナトコ労組の解雇撤回の争議にたいして、「6人の解雇撤回・原職復帰、未払い賃金の遡及支払い、謝罪文の手交」などを内容とする救済命令をだす（会社側は、地労委命令を不服として行政訴訟を提訴、6.10 地労委は緊急命令をだした）

2. 15～16 愛知争議団連絡会議・第8回総会（半田市・半田勤労福祉会館）

3. 5 職場を明るくする港区連絡会議、アルミのおりに閉じこめられている鈴木明男さんをはげますため「86国民春闘勝利、住軽金『アルミのおり』撤廃をめざす3.5大集会」をひらく

3. 7 地労委、運輸一般・大西分会、会社の団交拒否・支配介入（1983.3.26）事件にたいして「団交開催の命令」がだされ、そのご双方話し合いで、団交再開、争議は解決

3. 9 「愛知県農業・農民団体連絡会」（愛知農団連）結成

3. 11 名古屋地裁、日本碍子で働いてきた労働者の「じん肺訴訟」で、会社側が1,500万円支払うことで、1977年10月提訴いらい、約9年ぶりで和解・解決

3. 21 第6回・トヨタ総行動

3. 25 名古屋地裁、ニチバン労組・安城支部書記長の不当配転事件に対して不当労働行為と断定完全勝訴

3. 26 「ニカラグラ労働者代表歓迎交流集会」

4. 1 「男女雇用機会均等法」施行、電電公社民営化・「NTT」発足

4. 3 愛知労働問題研究会（1983年発足、のちの愛知労働問題研究所）が県内大企業労組の役員選挙の実態を調査し問題点をあきらかにした『大企業労働組合の役員選挙』（大月書店）を出版

4. 10 第25回・栄総行動

4. 23 「労働諸法制の全面的改悪に反対する県連絡会議」結成

4. 28 名古屋新幹線公害訴訟、原告団と国鉄が13年目に「和解」調印
和解条件は、①騒音は75ホン以下にする、賠償問題は1審判決にみあう額（4億8,000万円）を支払う、③発生源対策の積極的実施、

[1986年]

④障害防止対策の見直しと改善、⑤高架周辺の環境整備、⑥公害源の不拡大、など

5. 3 愛知憲法会議「はぐくもう 憲法のこころー憲法公布40年をむかえて」大講演会（市公会堂、1,800人参加）

5. 16 東海銀行の争議責任を追求する共闘会議、大隈、旭精機、山下争議の早期解決を求めて、東海銀行に要請・抗議行動を展開（28回目）

5. 19 「非核の政府を求める会」結成総会

6. 30 国鉄、2万人の希望退職募集開始、7.1 国鉄「人材活用センター」を設置

7. 6 第38回衆議院議員選挙・第14回参議院選挙（衆参同日選挙）自民党圧勝（300議席、自民結党以来の最高）

7. 10 市民団体10団体ですすめている原水爆禁止統一世界大会開催の動きに、総評・原水禁は「参加できない」と表明、統一世界大会が不可能となる

7. 15～18 総評第75回定期大会、労戦統一の「目標とプロセス」を決定

8. 11 中京女子大、非民主的な学長選任を批判した田島教授を懲戒解雇、神谷、三階教授を諭旨退職、油座助教授を停職3カ月とする処分を発表、愛知私大教連・中京女子大不当処分撤回闘争始まる（1990. 3.1 和解解決）

8. 25 第32回愛知母親大会（中区中央高校、700人参加）

9. 6～7 愛知統一労組懇、86年次総会

9. 19 国鉄分割・民営化反対連絡会、「国鉄労働者を励ます集会」をひらく、この場で「人材活用センター」の実態を告発（県中小企業センター）

9. 25 国鉄など73団体で「国鉄の分割・民営化を阻止する愛知県集会」（久屋市民広場、4,000人参加、名駅までデモ）

9. 29 日本共産党・革新共同国会議員団、国鉄名鉄局管内の「人材活用センター」の実態を現地調査、「聞きしに勝る虐待」と、即時廃止を当局に要求

9. 30 国鉄名鉄局管内の「人材活用センター」は48カ所・484人が収容、本務をはずされみせしめ的な不当差別をうける、名古屋駅の場合、7月から35人、9月からあらたに7人が「人活センター」

[1986年]

に閉じこめられ、その90%は国労の役員、元役員

- 10. 2 国鉄「人材活用センター」全国交流集会(200カ所、650人)
- 10. 10 国労第50回臨時全国大会(修繕寺)、本部提案の「労使共同宣言」承認など〈大胆な妥協路線〉の方針案を183対101の圧倒的多数で否決、執行部総辞職・六本木新執行部を選出
- 10. 21 中京女子大4教授解雇・停職処分の撤回を求めて、私教連が統一ストライキ
- 10. 28 新日鉄、八幡・室蘭・釜石・広畑・光・堺・東京の7製鉄所の一時休業を労組に通告 11.6 鉄鋼労連三役「一時休業やむなし」の結論を出す
- 10. 29 全動労名古屋地本、「人活配転は無効」と今井さんを原告に、名古屋地裁に仮処分申請、「人活裁判」始まる
- 10. 30 愛知県知事選挙、堀場英也氏が「革新県政をつくる会」の要請をうけて出馬を表明
- 11. 10~12. 25 石川島播磨重工、「緊急対策」と称して、7,000人の「合理化」(人員整理、55歳以上を企業から一掃、54歳以下でも会社がねらった人にも退職を強要)を強行、12.5現在で、全社で約7,000人、愛知・名古屋工場で687人が退職を余儀なくさせられた。退職の強要を拒否した人々にたいしてまったくひどい人権無視の攻撃がくわえられた
- 11. 11 第26回・栄総行動
- 11. 12 国労名古屋地本、第94回拡大地本委で本部方針に反する「方針」(大胆な妥協路線)を強行採決、組合員から決定「無効」の強い批判がでる
- 11. 14 全民労協第5回総会、「進路と役割」をきめ、87.11に「民間連合」発足を確認
- 11. 27 国労名古屋地本の幹部らが、国鉄の分割民営化をみとめ、あらたに発足する「東海旅客鉄道会社(貨物会社を含む)」にあわせた現実在即した労使関係の形成をめざすとして、国労を解体・分裂させる「東海鉄道産業労働組合」(東海鉄産労)「貨物鉄道産業労働組合」結成準備委員会総会ひらき、「加入申込書」を組合員に配布
- 12. 7 国鉄の分割・民営化に反対し、国民のくらしと足を守る県連絡会、「国鉄労働者と家族を励ます集い」ひらく
- 12. 20 「東海銀行差別をなくす会」の12人、地労委へ救済申し立て
- 12. 25 名古屋地裁、中京女子大4教授不当処分(86.6)撤回要求、「解雇権の濫用」と仮処分・勝利決定

[1986年]

- 12.26 国労名古屋「人活裁判原告団」結成集会、12.27 名古屋地裁に仮処分申請
- 12.31 非核宣言自治体（全国）1,105自治体 人口54.8%に達する
- 12.ー 運輸一般・ブラザー陸運支部の組合つぶしをねらった不当解雇（1983.11.26）撤回闘争で、仮処分で勝訴、本訴にもちこみ運動を展開、解雇撤回・金銭解決で争議を収拾

【1987年】 国鉄が分割民営化、統一労組懇「階級的ナショナルセンター確立の展望と骨格」を示す

- 1.18 愛知統一労組懇、87臨時総会
- 1.19 中京女子大3教授の不当解雇の撤回を求めて、地裁に提訴
- 1.24 石川播磨重工の人べらし「合理化」と人権侵害にたいする「1.24抗議と連帯のタベ」をひらく（知多市民体育館）
- 1.29 運輸一般・東海共栄油送分会、組合つぶしの不当解雇（1986.12.7）事件で、会社および荷主にむけて運動を展開し、裁判にかけられるまでもなく解雇撤回・原職復帰（2.2）をかちとった
- 2.1 愛知県知事選挙、革新市政の会堀場英也候補をたててたたかう、51万9千余票・27.47%の得票、自社公民・労働四団体推薦の鈴木礼治候補が再選
- 2.5 「名古屋大学平和憲章」制定宣言大集会
国鉄労働組合名古屋地方本部「再建委員会」発足（再建委員長・大野清光、旧国労名古屋地本が規約と本部指令を無視して、「東海鉄道産業労働組合（東海鉄産労）」に一括加盟を強行したため）
2.18 国労名古屋地本・再建委員会、新事務所を開設
- 2.8 「大型間接税の新設・マル優廃止をやめさせる愛知県連絡会」（売上税反対県連絡会）結成、このご「地域連絡会」があいついで発足
「労働戦線の右翼的再編と国民春闘再構築をめざす大学習会」
- 2.11 第7回・トヨタ総行動
- 2.13 新日鉄、第4次「合理化」案を発表
- 2.20 売上税反対県連絡会、「売上税法案上程緊急抗議集会」（市婦人会館）
- 2.27 愛知私教連・星城高校早川さんの組合加入による不当解雇（1984.12.1）事件、名古屋地裁で、解雇撤回・雇用関係の確認、バックペイの支払い、就職についての責任、労使の正常化で勝利判決

[1987年]

- 3. 1 「国労東海本部」結成大会
- 3. 3 総務庁、1月の完全失業率、調査開始(1953)以来最悪の3.0%、182万人と発表
- 3. 5 名古屋地裁、ニチバン労組の「誓約署名事件」訴訟にたいして組合完全勝訴の判決を下す(同日、浦和地裁でも同様判決)
- 3. 7 合化労連を除名された化学一般の関西、京滋、東海3地本と処分保留になっている兵庫地本の4地本で「化学一般全国協議会」を結成、「合化再建協議会」加盟を決めた
- 3. 7～8 愛知争議団連絡会議・第9回総会(愛知県刈谷勤労会館)
- 3. 8 「売上税・マル優廃止反対3.8国民大集会」、全国各地から16万人が参加(愛知からも多数が上京参加)
- 3. 13 旭精機人権侵害・思想差別撤廃訴訟(原告6人)、全面勝利の「和解」成立(72.8.16 愛知労働基準局と名古屋法務局人権擁護部に労基法違反、人権侵害で申し立て、73.3.7 名古屋地裁に提訴、15年ぶりに勝利解決、矢野さんの解雇は撤回し・任意退職。旭精機は、日本唯一の小銃弾メーカー)
- 3. 14 売上税反対県連絡会「運動推進本部」事務所を開設(自治労会館内)
- 3. 28 石川島播磨の人権侵害をやめさせる会」結成総会(会長、長谷川正安)
- 3. 29 国労名古屋地本第42回再建(臨時)大会
- 3. 31 売上税反対の自治体決議、1,487(46.1%)自治体、人口9,900万人
港区の4大争議(栃木合同・住軽金アルミのおり・中電・全税関)支援・春闘処理勝利・いっせい地方選挙勝利・働く者の文化の発展・元気の出る「スプリングフェスタ」ひらく(1,000人以上参加)
- 4. 1 国鉄の分割・民営化＝JRとして発足、国労、全動労の組合員1,047人(全国)がJR不採用、国労、全動労の組合員でJR採用になっても、本務からはずし「事業開発部」(売店、うどん屋など)に不当配属(名古屋、91人)
- 4. 5 日本音楽家労組東海本部、「音楽ユニオン東海地域支部」となる
- 4. 6 「運輸一般尾三地域支部・瀬戸丸一分会」結成、そのご、分会長の成田さんにたいして、会社は労務屋を使って、デッチあげの「罪状」で警察に告発、逮捕させる、12日間の拘留・完全黙秘で不起訴処分を勝ちとったが、そのご会社から不当解雇、解雇撤回のたたかいはじまる
- 4. 21～30 名港労協(11単産・4,000人)が、賃上げ、雇用保障制度の確立、「合理化」反対で10日間のストに突入、荷役作業ストップ

[1987年]

- 4. 23 売上税法案「衆院議長預かり」、事実上「廃案」。しかし、「税制改革＝直間比率の見直しなど」の根を残した
- 4. 25 「国労愛知県支部」再建大会
- 4. 27 名古屋高裁、全港湾桟木合同事件（ユニオンショップ協定による解雇）、解雇無効の判決・全面勝訴、会社側は最高裁に上告
- 4. 28 第27回・栄総行動
- 4. 30 JR東海と東海鉄道労連「共同宣言」（スト自粛、企業利益優先）を締結
- 4. ー ー 運輸一般・六方分会、組合つぶしのための偽装閉鎖・破産（1981.4.9）とのたたかいで、地労委に提訴してたたかったが、「破産は確定」し、地労委は「組合つぶしの事業へいさではない」として不当労働行為は認めず、組合員減少・事業所はなくなるなどで、闘争を収拾せざるをえなくなった
- 5. 3 愛知憲法会議、憲法施行40周年記念大講演会「ひびけ！憲法のこころ」（市民会館、3,000人参加）
- 5. 17～31 私学をよくする愛知父母懇談会、「充実した私学をめざして」県下48カ所で連鎖的に集会
- 5. 20 運輸一般・第三建設分会、地労委にて勝利命令、10.20 名古屋地裁、地労委命令に従えとの判決
- 5. 29 売上税反対県連絡会、通常国会最終日の夜、「みんなでつぶした売上税・マル優廃止、根っこもつぶそう」学習決起集会（県勤労会館、150人参加）
- 6. 1 国労名古屋地本、地労委に組合員の差別配置について救済を求める申し立て（名古屋工場 3人、半田分会 5人、美濃太田機関区 3人、松阪保線区 1人、木曽福島電力区 2人、中津川駅 1人の計15人）つづいて、6.29 1人、10.16 21人が救済申し立てをおこなう
- 6. 4 運輸一般・丸一分会・成田分会長、組合つぶしをねらった不当逮捕、12日間黙秘をつらぬき釈放、不起訴運動を展開、87.9.14 不起訴を勝ちとる、7.6 不当解雇
- 6. 11 「愛知職自連」、豊田市議会に、「トヨタカレンダー」（7～8月、円高不況を口実に夏期電力料金休日割引を利用するため、土日出勤・平日の木金休日）実施計画に反対・中止を求める請願を提出
- 6. 15 愛高教、名高教、私教連、父母、学者・文化人などで「15の春を泣かせない連絡会」発足、100万人署名運動スタート
- 6. 23 争議団共同行動として、「東海銀行包囲行動」を展開
- 6. 26 愛知県議会で八田ひろ子県議（日本共産党）が、一般質問で「トヨタカレンダー」と住軽金の3直2交替で、知事をするどく追求

[1987年]

- 6. 26 ショッピングレオ（岡崎市）の長谷川さんの不当解雇（1977.12）事件、名古屋地裁で敗訴、高裁で和解成立、解雇撤回、バックペイ支払いを勝ちとり、任意退職で争議を収拾
- 6. 28 「私学をよくする愛知父母懇談会」（会員約6万7千人）第8回総会
- 7. 14～17 総評第77回定期大会、総評解体を1990年と決定
- 7. 26～28 統一労組懇、87年度年次総会、「階級的ナショナルセンター確立の展望と骨格（案）」を確認
- 7. 27 名古屋地裁、大隈鉄工所が酒井さんを夜勤中に数分間居眠りをして機械を損壊したとして、損害賠償（1,040万円）訴訟にたいして、93万4千円（利息を含めて161万円）の支払いを命ずる前代未聞の不当判決、ただちに控訴
- 8. 24～25 第1回「調査政策学校」（主催：愛知労問研、犬山市内）
- 8. 27 運輸一般・中日本観光分会、退職金の一方的減額（1985.3.5）差額払い請求裁判、和解金解決
- 9. 1 第1回全国高齢者大会（京都市、3,500人、愛知から159人参加）
- 9. 4 動労名古屋地本・解散大会、東海旅客鉄道労働組合へ移行
- 9. 5～6 愛知統一労組懇87年年次総会
- 9. 6 第33回愛知母親大会
- 9. 10 名鉄労組第56回定期大会、「私鉄総連が『連合』に加盟し、指導的役割りを期待する」とした「連合」加盟の方針を採択
- 9. 11 「15の春を泣かせない連絡会」、184万人の複合選抜入試制度反対の県民署名を県教育委員会に提出
- 9. 12 「東海旅客鉄道労働組合」（JR東海労組）結成大会
- 9. 12～13 「全国保母のうたごえ祭典」名古屋でひらかれる
- 9. 18 最高裁、大隈鉄工・吉川事件（退職願いの効力をめぐる「地位確認等請求事件」、15年のたたかい）について「原判決（1審勝訴、2審も勝訴）を破棄して高裁へ差し戻す」との不当判決
- 9. 23 愛知労働問題研究所設立総会・記念パーティー（県産業貿易館、階級的民主的な労働運動・民主運動の必要にこたえる恒常的な調査・研究機関として、労働組合、労働運動・民主運動の活動家、労働問題の研究者、弁護士などで設立された。日本でさいしょの大衆的な研究機関）
- 9. 26 国労東海本部第2回定期大会（名古屋市内）、政党支持の自由を確認
- 9. 29 愛知統一労組懇、大企業の首切り「合理化」・産業空洞化に反対し、大企業の門前や駅頭26カ所で宣伝行動

[1987年]

- 10. 4 新日鉄、石川島播磨、トヨタ自動車などの労働者とその下請け関連労働者、自治体労働者、中小業者で「暮らし・雇用・地域経済を守る知多半島連絡会」結成総会・学習討論集会
- 10. 5 争議団の共同行動として、「東海銀行総行動」を展開
- 10. 5～6 愛知統一労組懇・87年年次総会（三河ハイツ）
- 10. 8～9 愛労評第56回定期大会、90年までに愛労評解体をきめる
- 10. 9 地労委、ニチバン労働組合安城支部山口副支部長配転事件で、組合完全勝訴の救済命令、会社側、地裁に行政訴訟をおこす、地労委、10.9 緊急命令をだす、交渉の結果、10.19 原職復帰実現、会社側は行政訴訟を取り下げず
- 10. 16 国労名古屋地本、地労委に組合員をねらい打ちにした就航命令は不当労働行為と救済を申し立て
- 10. 22 愛知中立労協、IMF・JC東海地連、愛知民労協がそれぞれ総会
- 10. 23 名古屋市職労「結成40周年記念レセプション」
- 10. 25 「87愛知の教育充実を願う父母・県民と教職員のつどい」（名古屋大、1,300人参加）
- 11. 6 竹下内閣発足
- 11. 7～8 国労名古屋地本・第43回定期地方大会、差別をやめさせ、国民の足を守ろう、組合員の政治活動の自由は保障する、などの方針を決定
- 11. 15 「私学フェスティバル3万人大集会」（久屋市民広場）
西三河青年合唱団・創立10周年記念音楽会、合唱構成「くるま町1丁目1番地」でトヨタ支配を歌で風刺
- 11. 16 土日操業の「トヨタカレンダー」は、来年度は実施せずと、トヨタ自動車とトヨタ労組が合意
- 11. 18 「労戦右翼再編反対・春闘再構築・諸要求実現愛知県労働者・労働組合総決起集会」（港湾会館大ホール、150団体・1,200人参加）
- 11. 20 「全日本民間労働組合連合会」（「民間連合」）結成大会
第28回・栄総行動
- 11. 21 豊川高校・金城先生の不当解雇撤回を求める集会、3千人参加
- 11. 22 「くらしと福祉・地方自治をまもる愛知県民集会」（名城小公園、1,300人参加）
- 11. 26 全商業山下分会、組合事務所明けわたし裁判、和解で解決（6年間守り抜いた職場での唯一の砦を明けわたし）
- 11. 29 愛知争議団連絡会議「秋の学習会・労戦問題と争議団のたたかう方向」をひらく

[1987年]

- 12. 2 私教連・中京女子大3教授の解雇撤回・現職復帰を求めて。県下私立大・高校でいっせい職場集会やストライキ
- 12. 5 愛知私教連・豊川高校職組、金城委員長の解雇(1987.10.22)事件、地裁・無審尋で全面勝訴、解雇撤回、労使正常化を確約させる(44日間のスピード解決)
- 12. 5～6 第1回「差別とたたかう仲間の全国交流会」をひらく(大阪市、31団体・37人参加)
- 12. 6 「愛知公害患者連絡会」総会
- 12. 7 「15の春を泣かせない連絡会」1千人をこえる参加者で決起集会(市教育センター)、複合選抜入試制度延期を求める300万署名達成をめざすことを確認
- 12. 7～8 統一労組懇87年度臨時総会、初の「春闘白書」発表
- 12. 8 「連合」第1回中央委員会、「88年春季総合生活改善」闘争方針と、賃上げ要求目標「6～7%程度ガイドゾーンとする」を決定
- 12. 9 大隈鉄工所、酒井事件・「賃金債権差し押え訴訟」で、地裁は「限度額1/4」を認める判決
- 12. 25 自治労・西尾市職現業評議会、一方的な賃金制度の改悪は不当労働行為と、地労委に救済を申し立て
運輸一般・山建分会、地労委で、会社のロックアウトは違法、賃金を支払えとの決定がでる

【1988年】 消費税導入で日本列島騒然、16年間たたかった大隈争議解決

- 1. 10 運輸一般愛知地本・10周年記念レセプション(熱田神宮会館)
- 1. 14 「連合」第2回中央委員会、「地方準備会」を3月1日までにつくることをきめた
県民の意向を無視して「複合選抜入試制度」を89年度から実施するとの「決定に抗議する緊急県民集会」、300万署名の達成をめざすことを決議(市教育センター、1,500人参加)
- 1. 15～16 愛知統一労組懇・88春闘臨時総会(犬山館)
愛知労働問題研究所『統計・資料にみる あいちの労働と生活』を刊行
- 1. 26～27 知多半島連絡会、「産業空洞化・『合理化』の実態から地域共闘のあり方を探求する学習・研究会」(半田勤労福祉会館)
- 1. 28 「ナトコ支援共闘会議」、1.28集会とデモ・社長宅包囲行動
- 1. 31 第5回・トヨタシンポ(豊田市・勤労福祉会館)

[1988年]

- 2. 3 「連合」・総評第1回首脳会談、統一ナショナルセンター（「連合」）の結成を89年秋とすることで合意
- 2. 4 愛知統一労組懇と名港労協で「日本の農業・食糧を考える懇談会」（港・ポートビル）
- 2. 5 名古屋大学職組など、「名古屋大学平和憲章制定1周年集会」
- 2. 6 愛知高等学校教職員組合（愛高教）「40周年記念レセプション」、『写真と証言で綴る愛高教40年誌』刊行
「15の春を泣かせない連絡会」、名古屋、豊川、知多などで決起集会
- 2. 11 第8回・トヨタ総行動（250人が参加）
- 2. 22 愛労評加盟9単産が「連合」の評価をめぐり、愛労評に公開質問状を出す、2.29 愛労評は、9単産の見解には同調できないと回答
- 2. 25 「15の春を泣かせない連絡会」、382万人余の署名を県会に提出、議会前で3,500人が集会 3.24県議会、自社公民が382万の署名を無視して継続審査とする
東京高裁、大阪・安城のニチバン労組の「誓約署名事件」にたいして不当労働行為と断定、組合が全面勝訴（会社は上告をあきらめ、組合と和解交渉にはいり、4.20 「誓約署名」「配転・解雇」労使協議のルール」に関する和解協定に調印）
- 2. 28 「非核の政府を求める愛知の会」結成総会（賛同者450人、総会参加200人）
- 2. 29 愛労評加盟10単産、「『連合地方組織準備会』の発足に反対し真に労働者・国民の利益を守る労働組合の確立をめざして」のアピールを発表
- 3. 1 「地方連合愛知準備会」結成総会・祝賀パーティー（政財官代表が参加）
- 3. 10 愛労評第57回臨時大会、「連合」と連携して春闘を、という方針にたいして、愛高教など9単産が「連合反対」の修正案を提出
- 3. 12～13 愛知争議団連絡会議・第10回総会
- 3. 19 「石川島播磨人権侵害をやめさせる会」第2回総会・講演と連帯の夕べ（南区役所講堂、150人参加）
- 3. 27 いのち・くらし・教育・文化・平和を守る88愛知総行動実行委員会が「県民総決起集会」をひらく（白川講演、13,800人参加）
- 3. 31 「国民の国鉄と労働者のあり方を考える愛知県学者弁護士会」が「JR1年を検証する市民の集い」ひらく（市教育館）
- 3. 31 運輸一般・第三建設分会、脱退勧奨・支配介入の組合つぶし（83.5.16）にたいして、地労委、地裁に提訴してたたかってきたが、会社は支配介入しない・団交に応ずる・差別賃金は是正する、で解決

[1988年]

4. 1 国労名古屋地本・名駅分会（30人）が、「賃上げ、清算事業団の仲間の全員採用、本務をはずしをやめ本務職場に戻せ」などで指名ストに参加
4. 3 「『連合』にゆかない、ゆけない労働組合の88国民春闘勝利交流決起集会」（市教育センター、300人参加）
4. 12 第29回・栄総行動（700人参加）
4. 24 愛知統一労組懇が愛知農業・農民連などと「日本の食糧・農業・健康を考えるシンポジウム」ひらく（港・ポートビル、150人参加）
4. 26 アイシン精機で腰痛症を発症した労働者が、1974年いらい職場の労働者、弁護士との支援で、10年まえ労災認定を勝ちとり、4年半まえ労災打ち切られたが、たたかいをつうじて10年ぶりに完全職場復帰を勝ちとる
5. 1 第59回メーデー メーデー・スローガンから「団結」が消える
5. 3 愛知憲法会議、憲法施行41周年市民のつどい「太陽と緑と憲法と」（市公会堂）
5. 10 愛知職自連・第9回総会（17団体・40人参加、3年ぶりに総会をひらく）、「第3次黒書運動」展開を確認
5. 19 愛知統一労組懇官公労部会「階級的ナショナルセンター確立をめざす学習交流集会」（市民会館）
「中京女子大不当処分撤回闘争を支援する会」結成総会（県勤労会館小ホール）
5. 21～22 愛知統一労組懇「民間組合における運動と組織化の交流会」
5. 30 「労働戦線のあり方を考える名古屋交通懇談会」が学習会をひらく
6. 4 東海ラジオ放送で働く「補助社員」（女性）らが、雇用差別をなくせ、賃金の大幅引き上げ、いのちと健康を守る、などで労働組合「SFユニオン」を結成、7.23 第1回定期大会
6. 8 中部電力、マスコミをつうじて「女子社員2千人全員を対象に放射線管理区域である炉心近くまで見せる原発研修を計画」と発表（中電労働組合副委員長も発表に同席）
6. 22 争議団共同行動「東海銀行・中部電力包囲行動」展開
”モルモット扱いはやめて”と、中電女子社員が「原発研修」に抗議の記者会見
名古屋地裁、運輸一般・尾三支部瀬戸丸一分会の成田さんの地位保全の仮処分申請を認める決定を下す
6. 25 名古屋大学・山田信也先生、自由法曹団・水野弁護士、労問研・大木所長のよびかけで「あいち職場の健康問題研究会」が発足

[1988年]

6. 26 「階級的ナショナルセンターの確立をめざす活動者集会」(320人参加)

7. 14～15 名古屋市職労定期大会、「連合」に参加せずを決定

7. 15 名古屋地裁、ナトコ争議にたいして「配転、解雇は組合つぶしが目的の不当労働行為」「解雇無効、賃金の100%支払いを命ずる」判決、全面勝訴、8.11 ナトコ争議の全面解決をめざす地裁本裁判勝利判決報告集会

7. 20 「中電女子社員等の原発研修を止めさせ愛知連絡会」を20団体・110人の参加で結成 労働基準局、通産局に働きかけ、ビラで世論に訴えた結果、7.26 中電は「見送り」を発表、中止させる

7. 26 名古屋市労連定期大会、「連合」に反対を決める

7. 27～28 自治労愛知県本部定期大会、階級的ナショナルセンター確立にむけて、組織の内外で奮闘するとの方針を決定

7. 29 総評第79回定期大会、「労働戦線の統一の完成に向けて」を決定、1989年秋総評解体を確認

8. 19～21 統一労組懇年次総会、「われわれが考える階級的ナショナルセンターについて」(「新しい階級的ナショナルセンターの役割と課題(案)」「構成と運営の基本(案)」)を提起

8. 26～27 愛知労問研、第2回「調査政策学校」(犬山市内)

8. 27 「名古屋・過労死問題弁護団」(24人)発足

8. 28 国労東海本部第3回定期大会、「連合」路線ノーの方針を採択

9. 4 第34回愛知母親大会(市教育センター、1,200人参加)
「9. 4消費税反対県民集会」(6,000人参加)

9. 10～11 愛知統一労組懇88年年次総会、階級的ナショナルセンター確立にむけて意志統一(グリーンホテル三ヶ根)

9. 11 愛知学習協・25周年記念学習会「講演：階級的ナショナルセンターの確立と私たち」講師：辻岡靖仁

9. 17 愛知統一労組懇、「官公労働者の要求とたたかひの交流集会」(市婦人会館、70人参加)

9. 18 「消費税粉砕9. 18国民大集会」(東京、全国から17万人、愛知から新幹線・バスで3,400人が参加)

9. 21 「消費税粉砕9. 21県民大集会」(久屋市民広場、4,500人参加)

9. 23 自治労、愛知で「自治労運動をすすめる会(第二県本部)」の事務所を開設、自治労愛知県本部への分裂活動を公然と開始

9. 24 過労死弁護団「過労死110番」を実施

[1988年]

10. 2 『連合』に行かない、行けない労組・労働者懇談会が、「どっこいまともな労働組合もあるんだ！10.2大学学習会」をひらく（講師：六本木前国労委員長）
10. 5 全国化学・ニチバン労働組合、11年間にわたる闘争終結（「誓約署名事件」「配転・解雇事件」「懲戒事件」ー1988.2東京高裁での「誓約署名事件」判決をうけて4.20和解、「労働時間二本建制および賃金二本建制事件」1988.10.5 中労委のあっせんで和解）
12.3 「ニチバン闘争勝利報告集会」（名鉄グランドホテル）
10. 8 日本年金者組合愛知呼びかけ人総会
10. 11 川本製作所、労組の「全国金属」脱退・全日本金属（JMIU）に参加することを妨害する不当労働行為事件起こる、11.11 労組、地労委に不当労働行為の救済を申し立て
10. 12～13 愛労評第58回定期大会、総評とともに翌年に「解散」をすることを確認、9単産（自治労、愛高教、市教協、国公共闘、運輸一般、建設一般、全港湾、私教連、医労連）と3単産（国労、新聞労連、全印総連）がそれぞれ共同で修正案提出、総括討論で、全国一般代議員が修正案賛成討論、修正案賛成68対296で否決
これをうけて7単産（自治労、愛高教、国公共闘、運輸一般、建設一般、全港湾、医労連）代表は記者会見で「声明」を発表、「連合の反労働者性はますますあきらか」「連合結成は、反共と現体制擁護、分裂・右翼再編」「愛労評の『連合愛知』への事実上の吸収合併をきめた”最後の定期大会”になった」「愛労評は『清算業務』団体となり、ローカルセンターの機能を喪失した。愛労評にはもはやなんの期待もできない」と、事実上の決別を宣言した。
10. 18 「東三河争議団連絡会」結成
10. 19 国鉄労働者の「雇用と人権を守る10.19名古屋集会」
10. 21 大隈鉄工争議団の解雇撤回訴訟、名古屋高裁で勝利和解・一括解決（解決金2億5千万円支払、7人全員は任意退職、72年吉川さん、73年酒井さん、76年後藤さんら5人がそれぞれ解雇され、76年3月「大隈鉄工争議団」を結成、16年間にわたるたたかい）12.13 「大隈鉄工争議勝利報告集会」（不二パークホテル）
10. 23 「愛知県金属機械労組連絡会」結成
10. 27 革新市政の会「消費税粉碎・革新市政実限10.27市民大集会」（名古屋市公会堂）
10. 29 栄総行動10周年記念「学習会」、11.9 「10周年記念フェスティバル」（勤労会館小ホール、200人以上参加）
11. 1 成瀬昇『野武士のごとく 安保型人間の回想41年』（エフエー社）刊行（87.11から「朝日新聞」に137回にわたって連載した回顧

[1988年]

録をまとめたもの、愛労評内「連合」推進派から刊行にクレームがつく、11.11愛労評議長名で「『成瀬前議長の著書』出版についての見解」発表)

11. 2 争議団共同行動「東海銀行・中産電力包囲行動」展開

11. 5 階級的ナショナルセンターをめざす自治労愛知県本部を分裂させるため、豊田市職労など「連合」路線を支持する一部単組が、自治労本部と愛労評の激励をうけて「自治労運動推進愛知県連絡会」を結成、第二県本部づくりをめざす

11. 13 第4回「明日の名古屋を考えるつどい」(主催：名古屋市職労・自治労名古屋ブロック)

「〃私はいやです消費税〃県民のつどい・消費税粉碎県民大集会」(久屋市民広場、20,000人をこす、豊橋でも1,000人が参加して「三河決起集会」をひらく)

11. 16 10周年・第30回・栄総行動

11. 19 愛知争議団連絡会議「労働争議をめぐる情勢と争議勝利にむけて」学習会

11. 20 愛知中小労連・第11回定期大会、「連合」参加をめくって意見がわかれ、話し合いで「分離・再建」をすることになった、「連合」不参加を表明している加盟組合(18組合・58人)は、ひきつづき「第12回臨時大会」として「中小労連継承大会」をひらき「連合」に反対する地方組織などと、全国一般の積極的伝統を生かした全国単産の再建をめざすことを確認

「消費税粉碎県民大集会」(白川公園、18,000人参加)

12. 2 中京女子大3教授の解雇撤回を求めて、私教連6大学・短大がストライキ、夜、「不当解雇撤回要求決起集会」(市公会堂)

12. 3~ 4 第2回「差別と闘う仲間の全国交流集会」が愛知でひらかれる(全国から33団体・48人が参加、愛知から8団体が参加)

12. 6 大運動県実行委員会、消費税と臨教審関連反動法案阻止で「県民と教職員の総決起集会」ひらく(東別院青少年会館、600人参加)

12. 11 「職場の自由と民主主義を守る愛知連絡会」交流集会(港・ポートビル)

12. 18 統一労組懇12・18総決起集会(東京・ベイNKホール、「階級的ナショナルセンター確立にむけての提案」「98春闘方針についての報告」「行動綱領(案)」「内部討議資料『規約(草案)』提案」)

12. 22 愛知統一労組懇「階級的ローカルセンター問題懇談会」ひらき、「階級的ローカルセンター素案」を提示、10友好組合が参加

12.30 運輸一般・中部生コン支部山建分会、ロックアウト (1987.12.2)

ロックアウト解除、3人の解雇撤回・完全復職のたたかい継続

V たたかうナショナルセンター・ローカルセンター確立のもとでの労働運動（1989～95年）

1 労資一体化路線に抗して「全労連」「愛労連」結成（89年）

【1989年】 「年金者組合」、階級的ナショナル・ローカルセンターの結成へ

1. 4 愛知統一労組懇・臨時総会
1. 7 昭和天皇死亡 1.8 政府、新元号を「平成」と決定
1. — 「自治労運動推進名古屋市職員協議会」（「推進名古屋」、88.12.27結成）が、名古屋市職労組合員宅に、自治労本部発行の『団結125万』・愛労評機関紙・全国連絡協加入反対署名用紙・推進名古屋加入申込書などを送付、分裂活動を公然化
1. 22 全日本年金者組合愛知県本部結成準備会、「愛知年金者組合要求大会」をひらく
1. 24 名古屋革新市政の会・臨時総会、市長候補に竹内平さんを擁立することを決定
1. 28～29 愛知統一労組懇・89春闘学習討論集会（豊橋市・シーパレス）
2. 2 「労働者のネットワーク 雇用と権利を守る2.18名古屋集会プレ集会（2.2たたかう労働者・労働組合交流集会）」（勤労会館小ホール、250人参加）
2. 18 「労働者のネットワーク 雇用と権利を守る2.18名古屋集会」（名古屋市民会館中ホール、1,400人参加）
2. 19 くらし・雇用・地域経済を守る知多半島連絡会、「知多半島問題シンポジウム」ひらく（15団体・34人参加）
2. 25 愛知統一労組懇と自治労愛知県本部が、県本部と単組にたいする自治労中央と愛労評のはげしい組織分裂攻撃をはねかえすため「階級的ローカルセンター確立・反共分裂攻撃糾弾緊急集会」ひらく
2. 26 第6回・トヨタシンポ
2. 28 建設一般・第一建築サービス新井さん不当解雇（1981.12.24）事件、地裁に提訴していたが、解雇撤回・解決金の支払い・任意退職で争議収拾

[1989年]

3. 1 「連合愛知」結成総会（郵便貯金会館、42単産・43万人）
18単産で、ローカルセンター結成をよびかける
自治労愛知県本部機関紙『自治労愛知』号外に、成瀬昇氏「反共主義を克服しなければ労働者の未来はない。『連合』への加盟は自治労の自殺行為」の見出しで、公然と「連合」批判、これがきっかけで、4.12 愛労評常任幹事会で「成瀬顧問解任と地労委委員推薦取り消し」を多数決で決定
3. 2 メーデーの分裂・変質に反対し、新たな中央メーデー実行委員会発足の「アピール」発表
3. 3 名古屋市職労、臨時大会で、階級的ナショナルセンター確立のため、自治体労働組合全国連絡協議会への加入を多数決で決定
3. 5 自治労愛知県本部、臨時大会をひらき、階級的ナショナルセンターの確立のため、自治体労働組合全国連絡協議会に参加することを決定、自治労中央と決別
東海三県の「過労死を考える家族の会」結成総会（32家族・35人が参加）
3. 6 // 青い空と公害のない環境を//めざし、県公害病患者の会連合会は、「名古屋南部公害訴訟原告団（第1次・145人）を結成、3.31名古屋地裁に提訴〔県下に6千人をこえる公害病認定患者と、数倍に達する潜在患者がいるといわれている〕
「消費税廃止、リクルート疑惑糾明、革新市政実現！市民大集会」（レインボーホール、9,000人参加）
3. 11～12 愛知争議団連絡会議・第11回総会（愛知県刈谷勤労会館）
3. 21 第9回・トヨタ総行動
3. 26 愛知統一労組懇と春闘懇談会で「消費税廃止、革新市政実現、まともな労働組合の総結集を、89国民春闘勝利3.26総決起集会」（白川公園、5,000人参加）
4. 1 「消費税」（3%）導入実施
中区瓦町共同保育所が認可夜間保育所（中区金山1丁目）をスタートさせる
自治労本部、愛知県本部、名古屋市職労などへの分裂攻撃を激励。指導するため、愛労評内に「自治労愛知事務所」を開設
4. 4 全金川本製作所労組に第二組合結成さる
4. 6 「愛知89春闘懇談会」総決起集会
4. 13 「名古屋市長選勝利4.13労働者総決起集会」、成瀬昇愛労評前議長が激励のあいさつ、4.18 愛労評前議長成瀬昇氏、日本社会党が除名と新聞報道
4. 14 第31回・栄総行動

[1989年]

- 4. 18 愛労評前議長成瀬昇氏、日本社会党が除名と新聞報道
- 4. 23 名古屋市市長選挙、革新統一候補竹内平氏43.8%の得票・大健闘、社会党にきびしい批判・自民の悪政に痛打、西尾武喜候市長再選
- 4. 25 竹下首相、退陣を表明（在任期間576日）
西尾名古屋市長、公共料金への消費税転嫁をやめ中学校給食の実施を表明
- 5. 1 「連合」の分裂・変質策動を打ち破って、戦闘的伝統をうけついだたたかうメーデー、東京・辰巳の森公園でひらく
第60回愛知県メーデー（県メーデー実委に「連合愛知」をくわえたが、統一労組懇参加組合や共産党を排除しないとしたため、統一メーデー）
- 5. 3 愛知憲法会議、憲法施行42周年記念大講演会「正義の味方がやってくるー憲法パフォーマンス・イン・ナゴヤ」（市公会堂、1,500人参加）
- 5. 20 ローカルセンター設立準備会よびかけ人会議が「闘う労働組合・学習決起集会」ひらく（港湾会館、800人参加、ここでローカルセンターを10月中に結成を確認）
- 5. 21 第35回愛知母親大会（名古屋大学、2,200人参加）
- 5. 27 「中電人権爭議支援共闘会議」結成総会・支援総決起集会（愛知文化講堂、合唱構成劇「人間の尊厳をたからかに」上演）
- 6. 2 宇野宗祐首相誕生
- 6. 4 「全日本年金者組合愛知県本部」結成大会
- 6. 8 みんなでつつんで、まともな組合を大きく強く「川本労組支援共闘会議」結成総会（名古屋市教育センター、成瀬昇氏議長となる）
- 6. 12 医労連、自交総連など6単産委員長名で「たたかうNCづくりの円卓会議」のよびかけを発表（6.23第1回円卓会議、7.5第2回円卓会議）
- 6. ー 名古屋市職労、かつてないはげしい全面対立の役員選挙がおこなわれた、「連合」への吸収の道を歩もうとする「自治労派」は全員落選、6.15 「連合」反対を唱えた服部信夫名古屋市長に日本社会党が除名を通知
- 6. 16 住友軽金属の〃アルミのおり〃解放祝賀会（85.4から4年2カ月のたたかい）
- 6. 17～18 名古屋で「第26回港湾うたごえ全国祭典」ひらく
- 6. 21 18単産委員長・議長連名の「よびかけ」に応え、「愛知ローカルセンター結成準備会」ひらく（名古屋クラウンホテル、参加組合、

[1989年]

地域センター、友好組合の代表178人参加。準備会は、参加組合の確認、運営要綱および活動方針、役員及び事務局体制、アピールなどを確認。このあとレセプション。つづき、準備会全体会議を、第1回7.1、第2回7.29～30、第3回8.25、第4回9.16、第5回10.10～11、第6回11.10にひらく)

6. 2 3 「愛知地労委の民主化を求める労組連絡会」結成総会

6. 2 5 「原発問題愛知県連絡センター」設立総会（千種区・生協文化会館）

7. 5 統一労組懇、「たたかうナショナルセンターの結成にむけての提案」発表

7. 9 運輸一般・中部生コン支部山建分会、山本建材ロックアウト事件の勝利解決報告集会（名古屋観光会館、5.26和解成立、87.12会社側は運輸一般組合員の立入禁止・ロックアウトを強行、これにたいして地労委、地裁でたたかってきた）

7. 1 0 「川本事件」組合側勝利の地労委命令出る 7.21川本本社、中労委に再審査申し立て

7. 2 3 第15回参議院議員選挙、自民党史上はじめて過半数割れ、「消費税の怒り」の追い風で社会党躍進・与野党逆転

7. 2 4 宇野首相退陣表明（在任期間69日）

7. 2 9～3 0 愛知ローカルセンター結成準備会・交流集会（蒲郡・三河ホテル）

8. 4 たたかうNC結成準備会発足総会（東京・カンダパンセ）、正式参加26、オブ参加2、地方準備会12、オブ準備会5が参加、11.21NC結成総会へ、愛知ローカルセンター結成準備会も正式に参加

8. 8 別居強制（名古屋→福井）配転（1988.3.22）に反対してたたかっていた、商工組合中央金庫（商工中金）の尾籾さん、「商工中金の尾籾憲和さんの別居転勤を撤回させる会」など多数の支援で、通勤可能な岐阜支店へ転勤実現、9.16 名古屋で「守る会」勝利報告集会

8. 1 9～2 0 名古屋で「第35回日本母親大会」ひらく（名古屋大学、全国からのべ30,000人参加）

8. 2 1 地労委、国労名古屋地本組合員14人の配転・配属差別は不当労働行為と断定、元職に戻せと命令、8.27～28 JR東海が地労委命令に従わないことに抗議して、国労東海本部・同名古屋地本組合員9人が抗議のハンスト（栄で）

8. 3 0 日本で初の「年金者組合」結成

[1989年]

- 9. 5 新聞労連中部経済新聞労働組合と同盟中部経済新聞社労働組合が、それぞれ組合大会をひらき、組織統一をきめ、「全員投票」をおこなった(1968.会社の労務政策で二つに分裂、「新聞労連・中経労組」は不当配転、賃金身分差別、解雇撤回闘争をたたかい、1980.2 全面解決をみたが、会社の経営にたいする不満・不安・不信は両組合員の間に充満、経済闘争で両組合の共闘に発展、組織統一についての話し合いが始まった、1988.12 組織統一の委員会を再発足させ、月2回のペースで8カ月間にわたるねばりづよい話し合い・作業をすすめ、「新聞労連に結集し、全国の新聞労働者と連帯すべきである」と一致し、組織統一に合意し、それぞれの組合大会となり、大会後の「全員投票」は圧倒的多数(3/4以上)が統一に賛成し、あたらしい「新聞労連中部経済新聞労組」が誕生した)
- 9. 10 愛知総行動実委・国民大運動県実委・国庫負担補助金削減反対連絡会議が共同で「要求・活動計画交流集会」ひらく
- 9. 13 愛知地労委の変質を許さない「地労委の民主化を求める学習決起集会」(市教育館、130人参加)
- 9. 21~22 総評第81回定期大会、統一ナショナルセンター参加、国際自由労連加盟、総評解散、「総評センター」発足を決定
- 9. 23 愛知統一労組懇「1989年年次総会」(県産業貿易館)
- 9. 30 地労委、国労名古屋地本が組合員17人の関連企業への出向は不当労働行為との申立事件に対して、「出向前の所属・職名に復帰させよ」との救済命令
- 10. 1 愛知労働問題研究所・第2回総会、記念集会(講師:青木慧)
- 10. 3 「音楽家ユニオン中部地方本部」結成大会
- 10. 8 愛高教臨時大会、日教組、愛労評脱退、全教加盟を決定
あいち職場の健康問題研究会「人間らしく生き働くための愛知集会」(140人参加)
- 10. 14 名古屋市職労分裂、「自治労名古屋市労働組合」結成
- 10. 15 愛知ローカルセンター結成にむけた「要求実現できる大きなセンターを、いまつくろう 学習決起集会」(258人参加)
- 10. 21 愛知革新懇世話人会総会、成瀬昇氏代表世話人に就任
- 10. 23 「ヒロシマ・ナガサキからのアピール署名」名古屋市で人口の過半数達成(大都市で全国初)
- 10. 26 愛労評第60回定期大会、解散を決定、「愛労評センター」設立
- 10. 29 川本製作所労働組合、全愛知金属労働組合などで「全日本金属(JMIU)愛知県本部」を結成

[1989年]

- 1 1. 2 県下初のたたかう地域労連、「全労連・名古屋中地域労働組合センター」結成大会
- 1 1. 2～16 地労委の民主化を求めて「15日間のマラソンハンスト」(国労・地労委民主化会議・弁護士・自治労・ナトコ労組・全港湾・山下分会・中電争議団・東海銀行不当差別をなくす会など、のべ150人が参加)
- 1 1. 5 「尾張中部地区労働組合総連合」結成大会
- 1 1. 7 名古屋市職労臨時大会、たたかうナショナルセンター加入を決議(名東区・サンブラザー)、同夜、「たたかう市職労の未来を拓く総決起集会」(県勤労会館大ホール、1,100人参加)
- 1 1. 8 「知多地域センター」発足
- 1 1. 10 愛知ローカルセンター事務所びらき(中区新栄三丁目)
- 1 1. 12 「千種・名東地域労働組合総連合」結成大会
自治労愛知県本部臨時大会、たたかうナショナルセンター加入を決議(北区役所講堂)
- 1 1. 13 名古屋水道労組臨時大会、たたかうナショナルセンター加入を決議
- 1 1. 15 地労委、運輸一般尾三地域支部・瀬戸丸一分会の分会長解雇事件(87.7)にたいして、不当労働行為として救済命令
- 1 1. 15 「名古屋中川地域労働組合センター」結成大会
「守山地域労働組合連合会」結成大会
県中立労協第16回総会、解散を決定
- 1 1. 16 JMIU川本労組、会社と「不当行為事件」和解協定調印(「会社は社長名で陳謝文を出し、人事担当重役を更迭し、和解金を支払い、組合による一切の差別扱いをしない」というもので、組織介入後1年1カ月、分裂攻撃後7カ月でスピード和解・全面勝利)
港地区労働組合協議会(港地区労)定期大会、愛労連加盟を決定
- 1 1. 17 「愛知県労働組合総連合」(愛労連)結成大会(名古屋クラウンホテル)、レセプション 井上利雄議長、阿部精六事務局長、中原東四郎・成瀬昇顧問
- 1 1. 20 中央統一労組懇・解散大会
- 1 1. 21 「全国労働組合総連合」(「全労連」)結成大会、27単産・41地方組織・140万人
総評第82回臨時大会、「連合」発足による発展的解散を決定
日本労働組合総連合(「連合」)結成大会、「連合の進路」「運動の領域と活動のあり方」「規約」「運動方針」などを決定
「知多半島鉄鋼労働者・全労連と連帯するタベ」(東海市)
- 1 1. 24 愛知統一労組懇解散臨時総会・レセプション
愛知同盟第27回臨時(解散)大会

[1989年]

- 11.25 「一宮地区労働組合総連合」結成大会
- 11.26 「なくせ消費税！軍事費を削って、くらしと福祉・教育の充実を！
県民大集会」（中区前津公園、5,000人参加）
- 11.27 愛知県地方労働組合評議会（愛労評）解散臨時大会、「愛労評40
年解散記念のつどい」、「愛労評のあゆみ40年 ありがとうご
ざいました 1950-1989」を刊行
- 11.28 新「連合愛知」結成統一大会
「全労連愛知・中村地域労働組合センター」結成大会
- 12. 1 愛知県、第30期地労委員を任命、労働者委員「連合」系で独占
- 12. 2 JMIU川本製作所労働組合・勝利的和解報告集会（岡崎工場食
堂）、12.12 「川本労組支援共闘会議」総括会議、12.18 「川本
労組報告集会」（名古屋クラウンホテル）
- 12.13 新産別東海地協第19回臨時（解散）大会
- 12.14 「熱田区労働組合会議」結成総会
全港湾中央執行委員会、名古屋支部にたいして「1月30日まで
に愛労連脱退」勧告をきめ、12.27 通告、90.130 名古屋支部緊急
統一集会、支部方針を確認
- 12.17 愛労連「90国民春闘学習討論集会」（県産業貿易館、150人参加）
- 12.19 「名古屋南地域労働組合総連合」結成大会
自治労愛知から分裂した単組で、「自治労愛知県本部」再建（第
2県本部）臨時大会を開催

2 バブル崩壊ご増大する「全労連」 「愛労連」の役割 (90～95年)

【1990年】 全労連・愛労連、初の春闘・「連合」を上回る成果

1. 14 「連合」、賃上げ要求目標は8～9%中心と決定
1. 17 「国労スト支援県民総決起集会」(350人参加) 1.18 国労名古屋地本、地労委命令を守れ、安全運転の確立をめざして24～2時間スト
1. 20～21 愛労連「90国民春闘討論集会」(犬山館)
1. 24 衆議院解散
1. 31 全港湾中央執行委員会、「名古屋支部三役除名、執行委員5人権利停止6カ月」が提案されるが、反対意見あり、「説得活動継続」となる
2. 2 全港湾「栃木合同」支部争議、最高裁で勝利的和解成立
愛労連第2回臨時大会、90国民春闘方針を決定、総選挙闘争のアピールを採択
2. 6 「90愛知春闘懇談会」発足総会
2. 18 第39回衆議院議員選挙、自民党安定過半数獲得、愛知1・6区共産党の議席失う 2.27 第2次海部内閣発足
2. 23 「愛知地労委の民主化を求める連絡会議準備会総会」と訴訟原告団結成式、原告団長成瀬昇氏(市教育館) 2.26 労働者委員任命取り消しと損害賠償を求める訴訟を名古屋地裁に提訴
2. 25 愛知労働問題研究所、君臨する巨大企業の90年代戦略と労働者支配の実態をあきらかにした『トヨタ・グループの新戦略』(新日本出版社)を出版
3. 1 愛知私大教連・中京女子大処分撤回闘争、和解交渉で合意成立、4教授の処分の意志表示は取り消され、神谷教授は和解合意により退職、田島・三階教授は、研究所教授として再雇用された、3.22 「支援する会」役員会で交渉合意を確認、5.18 報告集会(「支援する会総会」)
3. 4 第7回・トヨタシンポ(刈谷勤労福祉会館)
3. 7 「名古屋東区労働組合総連合」結成大会
3. 11 「福祉保育労働組合東海地方本部」結成大会
「東三河労働組合総連合」結成大会

[1990年]

- 3. 16 国鉄・JR労働者の雇用と権利、利用者の安全を守る東海の会と愛労連が「お父さんを鉄道に返せ 3. 16 市民法定」をひらく
- 3. 17 「海部・津島労働組合総連合」結成大会
- 3. 21 第10回・トヨタ総行動 (50団体・200人参加)
- 3. 30 国鉄清算事業団、JR不採用になった1, 051人に不当な解雇通告
- 3. 31 国鉄清算事業団1、209人の首切りを許さぬ愛知県民総決起集会 (白川公園、1,500人参加)
全港湾・「栃木合同」不当解雇撤回闘争勝利和解集結集会 (熱田神宮会館、1978.3.3、16人が不当配転に反対し名港湾を脱退し、全港湾に加入したことが、「ユニオン・ショップ協定」違反として解雇され、78.4いらい裁判闘争、78.7 地裁で仮処分申請勝訴、8.1 地裁で、雇用関係継続確認請求事件勝訴、87.4 名古屋高裁で勝訴、会社側最高裁に上告、90.2 最高裁で解雇から12年で勝利和解成立)
- 4. 3 「名古屋北区労働組合総連合」結成大会
- 4. 7 「愛労連婦人協議会」結成総会 (市婦人会館)
- 4. 11 「愛労連緑地域労働組合センター」結成総会
- 4. 12 第33回・栄総行動
- 4. 25 愛商連40周年記念レセプション (国際ホテル)
- 4. 27 愛労連などメーデー実行委員会「県メーデー前夜祭・スクラムフェスター」ひらく
- 5. 1 第61回愛知県メーデー (変質メーデー反対・メーデーの歴史と伝統を受けついで愛労連などは県メーデー実行委員会を結成、白川公園で集会・デモ、「連合」愛知は鶴舞公園)
- 5. 3 愛知憲法会議、憲法施行43周年記念市民のつどい「だから、いま日本の憲法」 (市公会堂、1,500人参加)
- 5. 10 「瑞穂区労働組合総連合」結成大会
- 5. 11 全国一般、名勤生協労働組合などで「愛知商業サービス関連労働組合連絡会」結成
- 5. 17 「ちょっと待ったーコメ『自由化』、消費税・大店舗」学習交流集会
- 5. 18 愛労連「国鉄勝利をめざす学習決起集会」
- 5. 26 中電人権争議愛知県支援共闘会議・第2回総会
過労死家族の会と過労死弁護団が「過労死の労災認定をすすめる集い」 (県中小企業センター)

[1990年]

- 5. 2 6 愛知職自連と愛労連が「連合職場から闘いの共同を求める集会」
ひらく (80人参加)
- 5. 2 7 愛労連「夜勤問題シンポジウム」
- 5. 3 0 地労委任命事件・第1回裁判
- 5. 3 1 名古屋高裁、ナトコ争議に「解雇は不当、違法」との勝利判決
- 6. 3 「愛保協20周年記念レセプション」
- 6. 1 4 「愛労連・天白地域労働組合センター」結成大会
- 6. 1 7 「人権問題研究所」設立総会・記念パーティー (不二ホテル)
- 6. 2 4 「愛知保険医協会・40周年記念祝賀会」 (名鉄グランドホテル)
第36回愛知母親大会 (中村区・同朋高校、2,000人)
- 6. 2 7 「愛知地労委の民主化を求める連絡会議」結成総会 (市女性会館)
- 6. 3 0 「愛労連青年協議会」結成総会
愛知国公共闘と全農林・農政局分会で「愛知国公労働者行政シン
ポジウム」ひらく
- 7. 4 「総選挙弾圧たちばな事件」不当判決・抗議集会 (「演説にきて
下さい」と知人宅によびかけた4人の銀行員にたいして、13年7カ月
にわたる裁判の結果、不当にも罰金刑を言いわたす)
- 7. 7~8 第1回「いのちと健康を守る学校」 (犬山館)
- 7. 1 0 地方公務員災害補償基金愛知県支部審査会、蒲郡市民病院の主任
看護婦・金沢さんの「勤務中クモ膜下出血は公務災害」と請求を認
める採決 (確定)
- 7. 1 7 「名古屋南部から在職死亡をなくし健康と家庭を守る連絡会」結
成、同時に「大同特殊鋼から在職死亡をなくす会」発足
- 7. 1 9 「川本製作所労働組合組織破壊阻止闘争支援共闘会議」『まとも
な組合を大きく強く——J M I U川本製作所労組・組織破壊攻撃と
のたたかい』 (闘争記録) を刊行
- 7. 2 0 愛知の「石川播磨の人権侵害をやめさせる会」と愛労連が「石川
島播磨重工業包囲全国統一講堂」、同日夜「大企業の実態を語る夕
べ」とあわせて「勝利報告の夕べ」 (退職を拒否したため、3年7
カ月にわたって、みせしめで構内の清掃作業をやらされていた愛知
工場の加納節子さん (48歳) が、7.1 事務に職場復帰した)
- 7. 2 5 「山下」「ナトコ」両争議の全面解決をめざして東海銀行の責任
を追求する集会と抗議デモ
- 8. 1 0 日本年金者組合愛知県本部、1000人突破のつどい

[1990年]

- 8. 24 全港湾名古屋支部、第45回臨時大会、中央からの「愛労連加盟は全国大会決定違反、脱退しなければ処分する」との指示にたいして、無記名投票の結果、絶対多数で中央の指示を拒否し「愛労連を脱退しない」ことを確認
- 8. 27 地労委、総評・全日本建設運輸連帯労組東海地区生コン支部が、分会結成にたいして、組合員への脱退強要、仕事を与えないのは不当労働行為あたるとして救済命令
- 9. 1～2 愛知労問研・第4回調査政策学校（蒲郡・形原「木村館」）
- 9. 14 「全労連岡崎・額田地域労働組合センター」結成大会
- 9. 21 全港湾名古屋支部第46回定期大会、名古屋支部方針の続行きまら、渡辺三千夫氏を支部委員長に選出
- 9. 22 第2回「人間らしく生き働くための愛知集会」
「全労連 豊田・加茂労働組合総連合」結成大会
- 9. 27 鉄道フォーラム「国鉄闘争支援総決起集会」（県勤労会館、200人参加）
- 9. 29 「尾北地域労働組合総連合」結成大会
- 9. 30 愛労連・第3回定期大会（県産業貿易館）
- 10. 1 「連合」愛知・県経営者協会共同で、土地・住宅政策に関する要望を県知事に提出
- 10. 3 「東海銀行支援共闘会議」結成総会（市教育館、議長・成瀬昇）
- 10. 5 名古屋南部大気汚染公害訴訟・第2次原告団（101人）結団式、
10.8 名古屋地裁に提訴
- 10. 9 イタリア労働総同盟代表団と愛労連との懇談会
- 10. 14 「JR東海の安全を検証するシンポジウム」（市教育館、32団体・240人参加）
- 10. 19 「消費税をなくす愛知の会」結成総会（市教育館）
- 10. 21 「運輸一般中部生コン支部30周年記念レセプション」
- 10. 24 「昭和地域センター」結成大会
- 10. 27 食糧メーデー（港区ガーデン埠頭公園）
- 11. 4 参議院愛知選挙区補欠選挙、日本共産党瀬古候補が奮闘、「国際平和協力法（PKO協力法）」反対の社・共2候補で55%の得票を獲得、県民PKO協力法にきっぱりノー、11.9 「国際平和協力法」案廃案

[1990年]

- 11. 11 「自衛隊海外派兵反対！消費税廃止、コメ輸入自由化阻止、小選挙区制・政党法反対、くらしといのち、民主主義を守る国民大集会」（東京・代々木公園・20万人参加）
- 11. 21 「連合」、91年の賃上げ要求目標8～9%中心と決定
第34回栄総行動
- 12. 1～2 愛労連「91国民春闘討論集会」（蒲郡市内）
- 12. 11 革新県政実現・県民大集会、堀一さんを候補に擁立（名古屋市公会堂）
- 12. 14 全港湾中央本部代表来名、名古屋支部執行委員会に「1月末までに愛労連を脱退しない場合、渡辺除名と組合員の権利停止の処分」の警告書を提示、12.27 中央本部、ふたたび名古屋支部組合員に「名古屋支部の組織問題について」を郵送、「除名は即日発効、組合員の権利停止は、決定から発効まで1週間をおき、全国大会決定に従う旨の誓約書提出者には処分を行わない」
- 12. 15 東海銀行闘争支援共闘会議主催「銀行の社会的責任を考えるシンポジウム」（千種区・生協文化会館、140人参加）
- 12. 21 愛労連顧問成瀬昇「『不屈』出版記念パーティー」（生協文化会館）
- 12. 25 全国一般あいち支部山下分会の「山下争議」（争議団8人）、2,300万円の損害賠償支払いで和解・解決（組合結成から17年、提訴から14年、職場復帰ならず）、91.2.25 「争議解決勝利集会」

【1991年】 「湾岸戦争」、PKO法案阻止の国民的運動高まる

- 1. 12 「西三河南地域労働組合総連合」結成大会
- 1. 17 米軍を中心とする「多国籍軍」がイランへの空爆を開始、「湾岸戦争」はじまる 2.24 「多国籍軍」イラクに対する地上戦突入 2.27 イラク、国連安保理決議を受け入れ「湾岸戦争」終結
- 1. 20 シンポジウム「なぜ低い？愛知の高校進学率」
- 1. 22 「91春闘勝利・県政革新労働者総決起集会」（市公会堂）
- 1. 26 「愛労連西三河ブロック協議会」結成総会（知立市公民館）
- 1. 28 地労委、愛知私教連・尾関学園高校教組からの団交拒否にたいする不当労働行為救済申立事件に、不当労働行為であると救済命令
- 2. 1 石川島播磨重工は、退職強要を拒否しつづけた名古屋工場の田島さんを、〃報復・みせしめ〃に、資材管理業務をとりあげ、4年2カ月の間、「環境整備グループ」にほうりこみ、工場内のドブ掃除、

[1991年]

塗装場のコンクリート塀のペンキはぎ、草むしりなど雑役労働をさせてきたが、「人権侵害をやめよ」の内外の声におされて、組立運転課工具室（原職ではないが製造現場で重要業務）に戻させた

- 2. 3 愛知県知事選挙・投票日、革新統一候補・堀一さん惜敗、鈴木知事再選
- 2. 9 愛労連・第4回臨時大会（県勤労会館小ホール）
- 2. 11 自衛隊の海外派兵を阻止する「湾岸戦争反対 2. 11 小牧基地包囲大行動」に全国から1万人が参加
- 2. 20 全港湾第58回臨時全国大会、前年9月にさかのぼり「渡辺三千夫名古屋支部委員長除名、名古屋支部の愛労連脱退勧告」を強行採決、2.22 中央本部、名古屋支部にたいして「愛労連脱退勧告ならびに支部執行体制の早期確立」を指示、2.25 名古屋支部執行委員会は、「処分は不当、ただちに撤回せよ」の声明をだす、5.27 名古屋支部闘争委員会で、渡辺支部委員長が「除名処分無効」提訴の決意を表明
- 2. 21 「愛知91国民春闘共闘委員会」結成総会（中小企業センター）
- 2. 24 第8回・トヨタシンポ
- 3. 21 第11回・トヨタ総行動
- 4. 1 東海銀行差別事件、地労委の和解交渉始まる（4.15、5.8第3回交渉で決裂）
- 4. 7 いっせい地方選挙（前半）日本共産党、県議会3議席から2議席、名古屋市議会、3議席ふやし史上最高の8議席に躍進
- 4. 8 地労委、全労連・全国一般ナトコ分会が団交拒否事件（1990.4.10）に対する不当労働行為救済申立にたいして、「団交拒否を繰り返さないよう」救済命令
- 4. 11 第35回・栄総行動
- 4. 24 「コメの輸入自由化をやめ、食糧の安全と豊かな学校給食を求める共同行動」結成総会（生協文化会館）
- 4. 26 「愛労連名古屋地域組織協議会」結成総会
- 4. 28 「連合愛知」、第62回愛知県中央メーデー「ゆとり・夢・ふれあい広場」開催（名古屋市総合体育館、参加人員3万7千人）
- 5. 1 第62回メーデー（白川公園など）、「連合愛知」は屋内で式典、デモ行進をやめる
- 5. 3 愛知憲法会議・市民のつどい「岐路に立つ日本国憲法」（勤労会館大ホール、1,700人参加）

[1991年]

- 5. 1 1 中電人権争議愛知県支援共闘会議・第3回総会（自治労愛知県本部会議室）
県医労連「春のナースウエーブ」行動展開
- 5. 2 6 「あいち県民教育研究所」発足
- 6. 1 5～1 6 「9 1あいち権利フォーラム」（定光寺労働者研修センター）
- 6. 1 6 第3 7回愛知母親大会（菊里高校、2,000人参加）
- 6. 2 2 「愛知社会保障推進協議会」再開総会（女性会館、65.5.10発足、2年ぶりで活動再開、）
- 7. 3 東海銀行不当差別事件・地労委第4 1回審問「最終陳述書」提出
- 7. 7 「愛知働くものの健康センター」設立総会（形原温泉「鈴岡」）
- 7. 1 4 「きずな」結成1 0周年記念パーティー（生協文化会館）
- 7. 1 9 「過労死・労災と企業補償を考える集い」
- 7. 2 6 全港湾名古屋支部会館・竣工記念パーティー
- 7. 3 0～8. 1 全労連第5回定期大会、「あらゆる労働者・労働組合との共同」の画期的な方針を提起
- 8. 3 「愛知公務公共共闘会議」結成大会
- 9. 7 「銀行・証券を考えるシンポジウム」（特別講演・佐高信、180人参加）
- 9. 1 4～1 5 愛知労問研・第5回調査・政策学校（半田勤労福祉会館）
- 9. 2 5 「渡辺さん全港湾不当除名を撤回させる会」設立総会（ポートビル）
- 9. 2 8～2 9 愛労連・第5回定期大会（勤労会館小ホール）
- 1 0. 6 愛知労働問題研究所第3回総会・記念集会（講師：伊藤康子、高齢者労働会館）
- 1 0. 1 0 「愛労連西三河ブロック協議会」結成総会（安城市民会館）
- 1 0. 1 1 「スクラムフェスター' 9 1ブレ集会（労働者ネットワーク たたかう労働者・労働組合の交流集会）」（女性会館）
- 1 0. 1 9 第2回食糧メーデー（港北公園）
- 1 0. 2 2 全国一般ナトコ分会争議・全面勝利
- 1 0. 2 3 「知多地域労働組合総連合」結成大会
- 1 1. 1 0 「スクラムフェスター' 9 1」（県勤労会館大ホール、1,200人参加）

[1991年]

- 11.11 「東海銀行から労基法違反と不当差別をなくす会」と東海銀行は、「東海銀行不当労働行為救済申立事件」地労委の和解協定書に調印(1981.12.19 「東海銀行から労基法違反と不当差別をなくす会」結成、86.12.20 11人が地労委に申立いらい、41回の審問の結果、「厳正・公平な処遇と解決金7,700万円支払い」で、勝利的和解・解決)
- 11.12 日本医労連、看護婦確保法の制定を求めて「11.12看護婦中央行動」を展開 11.13 白衣のストライキ行動
- 11.16 「連合愛知シルバー倶楽部」結成総会
- 11.20 県医労連、「愛知ナースウエーブ'91秋」展開
- 11.29 「鉄道利用者の要求実現と国鉄闘争の勝利をめざす集会」(県中小企業センター)
- 12. 1 愛知県、第31期地労委委員任命、労働者委員「連合」系で独占
- 12. 6 「乳幼児医療無料拡大」団体請願署名県議会提出行動
「尾張東地域労働組合総連合」結成総会(尾張旭市民会館)
- 12. 7~8 愛労連「92国民春闘討論集会」(定光寺労働者研修センター)
- 12. 9 「PKO法案阻止・消費税転嫁反対・公共料金の値上げをやめよ市民集会」(名古屋市内)
- 12.11 「愛知全勤労を勝たせる会」結成総会(女性会館)
- 12.12 「ナトコ爭議解決集会」(名古屋クラウンホテル)
- 12.17 「92国民春闘共闘会議」結成総会(県中小企業センター)
- 12.21 「東海銀行爭議勝利報告集会」(熱田神宮会館、報告書『働く喜びと明日に誇りを』刊行)

【1992年】 労基法の抜本改正要求・「人間回復署名」運動ひろがる

- 1.16 地方公務員災害補償基金名古屋市支部、名古屋市立西陵商業高校・林教諭の過労死(87.10.22自宅で死亡)を、名高教の努力で審査会をへず「公務上の死亡」と認定させる
- 1.18 第3回「人間らしく生き働くための愛知集会」(勤労会館小ホール)
- 1.18~19 「東海銀行支援共闘会議総括会議」(湯の山)
- 1.25~26 名古屋で「第1回自治体保育労働者全国交流集会」ひらく(全国から850人、地元愛知から227人参加)
- 1.30~31 全労連第6回臨時大会、賃上げ要求35,000円以上などを決定

[1992年]

- 2. 8 愛労連・第6回臨時大会
- 2. 14 東京佐川急便の渡辺社長ら逮捕、「佐川急便疑惑」が表面化
- 2. 19 「1,047人を職場に戻せ」と国労、全動労がスト決行
- 2. 23 第9回・トヨタシンポ（豊田市農村環境改善センター）
- 2. 28 日本共産党、「労働基準法の抜本改正についての提案」を発表
- 3. 3 「2歳までの医療費無料化をすすめる会」結成総会（女性会館）
- 3. 6 「名古屋あおぞら裁判を支援する会」結成集会（名古屋市教育センター、600人参加）
- 3. 20 第12回・トヨタ総行動
- 3. 23 地労委、全動労東海地本からの組合員4人の訓告処分の取り消し組合員1人の昇進延期是正などの不当労働行為救済申立事件にたいして、不当労働行為と認定・救済命令を決定
- 3. 26 港総行動
- 3. 31 名港運輸作業に働く4人のコンテナドライバと全港湾名古屋支部は、「全港湾に加入したことが、ユニオンショップ協定に違反したとして解雇したことは無効」と、名古屋地裁に「身分保全の仮処分」を求めて提訴
- 4. 1 国鉄解雇3周年抗議統一行動、解雇撤回をめざす座り込み行動（名古屋駅前）、「4・1県民集会」（西柳公園）
- 4. 15 第37回・栄総行動
- 4. 18 名古屋法律事務所・10周年祝賀会（名古屋クラウンホテル）
- 4. 19 日本共産党愛知県委員会「労基法抜本改正提案についての懇談会」ひらく（市民会館）
- 4. 22 メーデー前夜祭（勤労会館小ホール）
- 4. 23 西三河メーデー前夜祭
- 5. 1 第63回メーデー（白川公園など19会場）、「連合愛知」は屋内で式典
- 5. 3 憲法施行45周年市民のつどい「ゆらぐ世界と憲法のころ」（市公会堂）
- 5. 17 第38回愛知母親大会（名古屋大学、1,300人参加）
- 5. 28 中央労働委員会、JR採用差別事件で地元JRへの1カ月だけ再雇用を柱とする「最終的な解決案」を提示
- 6. 10 愛労連「人間回復署名」を成功させるために、シンポ「時短は生活をカエル」をひらく

[1992年]

7. 2 「『大須事件』発生40周年の集い」(県勤労会館小ホール)

7. 26 第16回参議院議員選挙、投票率50.7%、過去最低

8. 25 全港湾名古屋支部、本部、支部との折衝で「愛労連に役員を出さず」、「会費としての財政支出はしないこと」によって「加盟」を凍結することで「合意」した(「再登録」方針による名古屋支部の分裂を回避するためのやむを得ない妥協措置)、91.8 支部組合員約20人が全港湾本部と連携して「全港湾名古屋支部の民主化と団結を守る会」(民団の会)結成、92年度支部役員選挙で、「民団の会」から立候補者がでて、支部始まってからの初の対立選挙となる、圧倒的多数で「全港湾も出ない、愛労連も出ない」という支部方針支持の役員が選出された

9. 4 「保育園の就業規則には18カ月の休職期間」が定められているのに、腰痛症などで4カ月休んで通院治療したのに、7.30 突然解雇通告された「かもめ保育園」(港区)の星野保母さんは「解雇撤回と地位保全を求める仮処分」を名古屋地裁に申し立てた

9. 5~6 愛労連・第7回定期大会(中村区役所講堂)

9. 12 「全トヨタ労連結成20周年記念式典」

9. 20~21 愛知労働問題研究所主催「日本・ドイツ労働問題共同セミナー」(名古屋大学医学部鶴友会館)

9. 23 健康といのちを守る愛知県実行委員会(1983.9結成)は、「愛知県社会保障推進協議会医療部会」に移行するため解散総会をひらく

9. 26 「愛知医労連30周年記念レセプション」(港区ポートビル)

10. 1 PKO自衛隊機海外派遣に抗議する小牧基地座り込み行動

10. 9 「中電人権爭議愛知支援共闘会議」総会

10. 10 「92依佐美シンポ」(名古屋市市民会館)

10. 11 自衛隊の海外派兵反対・監視と抗議行動(名古屋空港)

10. 18 「国鉄フェスターin愛知」(白川公園)

10. 19 日立・旭工場の労働者3人が、差別是正で地労委へ提訴、10.20 「日立の横暴を告発する10.20愛知集会」(尾張旭市公民館)

10. 20 「佐川急便徹底究明・金権腐敗政治の根絶を求める各界代表者会」(名古屋市市民会館)

10. 26 「名古屋市労連結成40周年記念レセプション」(厚生年金会館)

10. 28 「渡辺三千夫全港湾除名を撤回させる会」・第2回総会

10. 30 「佐川急便徹底究明・金権腐敗政治の根絶のための愛知県民集会」(白川公園)

[1992年]

- 10. 31 「JMIU川本労組20周年記念集会」(愛知会館)
「大企業の横暴の民主的規制シンポ」(保険医協会伏見会議室)
愛知保育団体連絡協議会、「土曜日休んでいいのかな!本音の激論と事実の考察で保育の役割を問う」として「週休2日制シンポジウム」をひらく
- 11. 1 「全国一般日本アクリル分会20周年記念レセプション」(港湾会館)
- 11. 9~18 国鉄闘争勝利・全労連・全動労全国総行動オルグ団県内オルグ行動
- 11. 10 「愛知県水平社創立70周年記念集会」(勤労会館小ホール)
- 11. 11 第38回・栄総行動
- 11. 19 「愛労連・昭和区労働組合センター」結成総会
- 11. 23 依佐美基地包囲行動(刈谷市)
- 11. 27 名古屋革新市政の会・政策要求討論会(女性会館)
- 11. 29 国民要求実現大集会(東京・代々木公園)
- 12. 1 地労委民主化会議・シンポ(中小企業センター)
- 12. 2 たちばな事件高裁判決・報告集会(女性会館、1審と同様有罪・罰金刑)
- 12. 8 12.8開戦記念日「赤紙配り」母親行動(栄噴水前)
- 12. 9 消費税を止めさせる会、愛知県議会請願行動
- 12. 10 革新市政の会・市民大集会(名古屋市公会堂)
- 12. 11 「東海銀行支援共闘会議代表者会議」
- 12. 13~14 愛労連「93国民春闘討論集会」(犬山館)
- 12. 16 福保労「星野保母支援集会」
- 12. 17 「93春闘共闘委員会」発足総会
「トヨタ労働組合連合協議会」結成大会
- 12. 18 「消費税を止めさせる県連絡会・学習決起集会」(市民会館)
- 12. 19 「93国民春闘勝利をめざす学習・討論集会」(市民会館)
- 12. 28 革新市政の会・臨時総会(産業貿易館)

【1993年】 総選挙で自民過半数割れ、非自民・非共産の細川連立内閣発足・自民党政治の継承、栄総行動・40回を重ねる

- 1. 12 「連合」第11回中央委員会、賃上げは7%中心・2万円以上を決定
中電人権争議愛知支援共闘会議・臨時総会(産業貿易館)
- 1. 20 「新婦人・創立30周年新春の集い」(名古屋観光会館)

[1993年]

1. 2 1 全労連・第8回臨時大会、統一要求目標額3万5千円以上を決定
1. 2 2 竹内平さんで革新名古屋市政をと「名古屋市長選挙勝利・市民決起大集会」ひらく（名古屋市公会堂）
1. 2 3 第4回「人間らしく生き働くための愛知県集会」（市民会館）
1. 2 4 愛労連「93国民春闘勝利をめざす幹部大学習会」（県スポーツ会館）
1. 2 6 愛労連名古屋地連「まちづくりと地域労連」（高齢者労働会館）
1. 3 0～3 1 愛知社保協・第1回社会保障学校（犬山市）
2. 6 「国立病院・療養所を守り、地域医療を良くする愛知県連絡会」結成総会（東別院青少年会館）
2. 1 3 愛労連・第8回臨時大会
2. 2 1 第10回・トヨタシンポ（豊田市、県勤労福祉会館）
2. 2 7 運輸一般・扶桑クリーン社不当解雇撤回闘争を支援する会（一宮勤労福祉会館）
3. 6 たちばな事件第16回守る会・総会（東別院青少年会館）
3. 9 革新市政の会・ジャンボ集会（市総合体育館レインボーホール）
3. 1 3 第13回・トヨタ総行動
「新村猛先生を偲ぶつどい」（女性会館）
3. 1 9 非核の政府を求める愛知の会・総会（側島ノリタケビル）
3. 2 0 「93国民春闘勝利・市長選勝利決起集会」（久屋市民広場）
3. 2 6 「不況打開・総決起集会」（名古屋市教育会館）
4. 5 革新市政の会・総決起集会（名古屋市教育センター）
4. 7 第39回・栄総行動
4. 1 1 革新市政の会・労働者選対決起集会
4. 1 4 「春闘・市長選勝利をめざす労働者総決起集会」（名古屋市生涯教育センター）
4. 1 8 革新市政の会・大政談演説会（久屋市民広場）
4. 2 5 名古屋市長選挙投票日、革新市政の会・竹内平候補25.8%の得票で敗れる（投票率、史上2番目の低さ31.7%）
5. 1 第64回メーデー（白川公園など7カ所）
5. 3 憲法施行46周年記念市民のつどい「世界と日本と憲法」（県勤労会館大ホール、1,600人）
5. 8 「公的保険で良い医療・看護を実現する学習・決起集会」（名古屋市民会館）
5. 1 1 名古屋あおぞら裁判を支援する会・第2回総会（市民会館）

[1993年]

- 5. 12～13 県医労連、「看護婦110番」実施
- 5. 19 「中電人権争議勝利総決起集会」（港湾会館、1,000人）
- 5. 24 「拡声器条例に反対する愛知連絡会」発足
- 6. 1 国民金融公庫の不当労働行為の全面勝利を求める全国統一行動（県下6支店）
- 6. 4 「全港湾名海運輸作業・職場復帰記念集会」（港湾会館）
- 6. 5 愛知県社会保障推進協議会・総会
憲法を守りPKO法に反対する愛知女性の会・宣伝・集会・デモ（栄小公園）
- 6. 10 「小選挙区制反対愛知県民集会」（久屋市民広場）
- 6. 20 第39回愛知母親大会（東邦高校、1,000人参加）
- 7. 18 第40回衆議院議員選挙、自民223・過半数割れ
- 7. 23 愛高教、一宮市が全教定期大会の会場となる市民会館の使用許可を取り消したことで、「使用許可取り消し処分の撤回と、同処分の執行停止」を求めて名古屋地裁に申し立て、7.29 「右翼の暴力を許さず、言論・集会の自由を守る県民連絡会」を結成（一宮市・県勤労福祉会館） 8.6 名古屋地裁、一宮市の「取り消し処分の執行を停止する」決定を下した 8.20 「県民連絡会」主催、「一宮市民とともに作る平和と教育のつどい」
- 7. 29 非自民非共産をかかげる社会・新生・公明・日本新・民社・さがけ・社民連の8党が「政策合意」調印、「細川連立内閣」成立
- 7. 31 運輸一般名古屋・アサノ分会9人、企業閉鎖全員解雇
- 8. 1 「郵産労東海地方本部」結成大会・「祝賀レセプション」（全港湾会館）
- 8. 24～26 全教第5回定期大会（一宮市市民会館）
「運輸一般・名古屋浅野運輸解雇撤回総決起集会」（名古屋運輸敷地内）
- 9. 4～5 愛労連・第9回定期大会（愛知県勤労会館小ホール）
- 9. 7 「イコールライツ・イン名古屋」発足（愛労連婦人協と愛知労問研女性労働部会などで）
- 9. 10 小選挙区制・政党法反対愛知フォーラム「小選挙区制導入反対・金権腐敗一掃、単産・単組、団体・地域連絡会代表者会議」（市女性会館、5団体・22地域、110人参加）
- 9. 12～13 第2回・日独労働問題共同セミナー（ドイツ・ブレーメン）

[1993年]

- 9. 18 「東海銀行支援共闘会議『頭取が勝てなかった11人の銀行員』出版記念パーティー」(生協文化会館)
- 9. 25 「臨時教員問題の改善を求める会」(1984.2結成)が「10年のあゆみを語るつどい」をひらく
- 9. 26 「第25回はたらく婦人の愛知集会」(県勤労会館小ホール、200人参加)
- 9. 30 「小選挙区制に反対する女性の会」発足会議(女性会館)

- 10. 1 「愛知県生活公共関連労組連絡会」結成総会(県スポーツ会館)
- 10. 3 愛知労働問題研究所第5回総会・記念集会(講師:増原彬陽、女性会館)
- 10. 6 県医労連「秋のナースウエーブ」行動展開
- 10. 8 「小選挙区制反対愛知県民集会」(前津公園)
「日立旭の差別をなくす会」結成総会(尾張旭市中央公民館)
- 10. 9 NTT1万人首切り反対宣伝行動 10.13~14
- 10. 16 「国民の電話を考えるシンポジウム」(女性会館ホール)
「東海自治体問題研究所設立20周年記念総会・パーティー」
- 10. 17 食糧メーデー(港北公園)
- 10. 18~20 全労連東海北陸ブロック・年金キャラバン県内各地をキャラバン
- 10. 21 「小選挙区制・政党助成法反対、安保廃棄・諸要求貫徹10.21愛知県民集会」(栄小公園)
- 10. 26 「渡辺光子裁判を支援する会」結成総会(女性会館)
- 10. 30~11. 1 自治労連など20団体主催「第3回全国地方自治研究集会」を豊橋市・蒲郡市でひらく(全国から4,500人参加)

- 11. 17 第40回・栄総行動、同夜「栄総行動第40回記念の集い」ひらく(県勤労会館小ホール、1978.10第1回)
- 11. 20 「不況・円高・リストラで明日をどうする」シンポ(東別院青年会館、愛商連、愛労連、労問研の共催)
「国鉄シンポ」(北区総合社会福祉会館)
- 11. 25 「コメ輸入に反対する集会」(ガーデン埠頭)
- 11. 26 「運輸一般名古屋アサノ闘争支援共闘会議」結成総会(港湾会館)
- 11. 27 名古屋過労死を考える家族の会・総会(南部法律事務所)

- 12. 17 「94年愛知春闘共闘会議」結成総会(名古屋市市民会館)
- 12. 20 愛労連と愛商連で、県に不況対策を申し入れ

[1994年]

【1994年】 オークマ定年年齢引き下げ、大きな社会問題となる

1. 15 「名古屋青年合唱団45周年記念レセプション」(国際サロン)
1. 15 オークマ(大手工作機械メーカー)、労組と合意のもとで、定年年齢60歳を56歳に繰り上げ、55・54歳に退職勧奨、53歳以下に希望退職募集を発表、12.20 愛労連代表、オークマ本社に「整理解雇中止」を申し入れ、会社は面会を拒否、同日、愛知労働基準局と愛知県にも「整理解雇を撤回させる」強い指導を要請
1. 16 愛労連「春闘幹部学習会」(県産業貿易館)
1. 20 オークマ定年年齢引き下げ抗議宣伝・要請行動
「名古屋西地域労働組合総連合」結成大会
1. 28 「愛知高齢者就労事業団20周年レセプション」(不二パークホテル)
1. 30 愛労連・第10回臨時大会(東別院NBNホール)
1. — 愛正病院(旧愛治病院、瀬戸市)、愛治病院労組(愛知医労連加盟、1993.10.4結成)の執行委員長・書記長を含む5人の組合員を不当解雇、地労委・地裁へ提訴して解雇撤回闘争を展開
2. 5 「国立医療を守る会」第2回総会(トラック会館)
2. 6 愛労連・健康センター「夜勤規制シンポジウム」(名古屋市北社教センター)
2. 16 「国民本位の不況打開、94春闘勝利、仕事をまわせ、争議勝利
2. 16 愛知総行動」
2. 18 中央労働委員会、国鉄の分割・民営化にともなう全動労組合員への採用差別事件で不当労働行為があったと認定、救済命令
2. 20 第11回・トヨタシンポ(豊田勤労福祉会館)
2. 22 地労委民主化会議・臨時総会(女性会館)
2. 25 名古屋地裁、運輸一般・東春運輸支部(1977年結成)の「団結権侵害損害賠償訴訟」に会社側の不当労働行為を認定、80万円の賠償金支払いを命ずる判決
3. 11 第14回・トヨタ総行動
3. 12 愛労連など「国民春闘勝利・不況打開決起集会」(豊田市八幡公園)
3. 13 「オークマシンポ」(江南市民文化会館)
3. 20 「けっとばせ不況! 守れいのちとくらし! アクション愛知94」
(愛労連・愛商連など実委主催、名城公園)
3. 23~24 年金者組合・年金改悪反対座り込み行動(栄小公園、のべ200人参加)

[1994年]

- 3. 3 1 「鉄道フォーラム愛知・決起集会」（西柳公園）
- 4. 8 細川首相辞意表明（在任期間263日）
- 4. 1 3 第41回栄総行動、大蔵省包囲東海総行動
- 4. 1 6 あおぞら裁判支援の会・第3回総会（女性会館）
- 4. 2 5 国会羽田首相指名、4.26社会党「連立」政権離脱決定、4.28羽田「連立」内閣発足
- 4. 3 0 「愛知県中央メーデー青年前夜祭」（白川公園）
- 5. 1 第65回愛知県メーデー（白川公園など8カ所）
- 5. 3 憲法施行47周年市民のつどい・第30回記念「刻もう 憲法のこころ」（名古屋市公会堂）
- 5. 9 渡辺タクシー裁判・高裁判決（1審と同様労災と認めず、最高裁に上告）
- 5. 1 2 「医療と看護を考えるシンポジウム」（中区役所ホール）
- 5. 1 4 愛知争議団連絡会・総会（教育館）
- 5. 1 5 「運輸一般愛知地本婦人部」結成大会（女性会館）
- 5. 2 1～2 3 「全国商工団体連合会（全商連）第40回総会」が名古屋市内でひらかれる
- 5. 2 1 第18回「健康と環境を守れ！愛知の住民いっせい行動・決起と交流のつどい」（常滑市内）
- 5. 2 2 全教主催「子どもたちのしあわせと教員採用のあり方を考えるシンポジウム」が名古屋市内（県勤労会館）でひらかれる
- 5. 2 5 中電人権裁判提訴20周年・本店要請デモ
- 5. 2 7 愛知労働問題研究所、トヨタの労務管理・下請け管理、リストラ戦略の現況を解明した『変貌する世界企業トヨタ』（新日本出版社）出版
- 5. 2 9 「年金者組合5周年記念レセプション」（総合社会福祉会館）
- 5. 3 0 名古屋地裁、愛治病院労組の解雇事件・地位保全仮処分申請にたいして「解雇権の濫用であり解雇は無効」との勝利判決を下した
- 7.13 本裁判提訴
- 6. 1 3 第18回「健康と環境を守れ！愛知の住民いっせい行動」・愛知県交渉、7.1瀬戸市交渉、7.6春日井市交渉、7.13常滑市交渉、7.18名古屋市交渉、
「愛治病院闘争決起集会」（女性会館）
- 6. 2 5 羽田首相、辞職を表明（在任期間64日、戦後最短）
- 6. 2 9 国会村山首相指名、6.30「自・社・さ」連立内閣発足

[1994年]

- 7. 13 「全労連・全国一般ゴシボ支部」結成大会（瀬戸市文化センター、ジンスショップ倒産で全員解雇、組合員51人）
- 7. 18 「健康と環境を守れ！愛知の住民いっせい行動」・名古屋市交渉
- 7. 23 「国鉄フェスタ」（久屋広場）
- 7. 28 全港湾、名古屋支部委員長の渡辺さんの除名を撤回（「権利停止1年間に変更）することで急転「和解」が成立、覚え書きに調印
- 8.25 「撤回させる会」幹事会で、「除名撤回の勝利和解」であることを満場一致確認、9.16 「撤回させる会」第4回総会・解散を宣言、ひきつづき「勝利集会」をひらく（150人参加）
- 7. — 「イコールライツ・イン名古屋」、シンポジウムをひらく
- 8. 6～8 「第26回全国保育団体合同研究集会」名古屋（名城大学など）でひらかれる、全国から約9千人、愛知から4千人参加
- 8. 31 中電人権爭議を支援する会・第11回総会（県産業貿易館）
- 9. 3～4 愛労連・第11回定期大会（愛鉄連厚生年金基金会館）
- 9. 9 第4回「合唱団”サボテン”」コンサート（女性会館、団員25人・平均年齢72歳、歌いつづけて16年）
- 9. 11 参議院議員愛知選挙区再選挙、旧連立候補が当選
- 9. 15 第40回愛知母親大会（県勤労会館など）
- 9. 25 第26回「はたらく婦人の愛知県集会」（県勤労会館）
- 9. 30 名古屋地裁、運輸一般・東春運輸支部役員の解雇（1989.4.22）は「不当解雇」との勝利判決で（1990.仮処分命令、会社側はこれに従がわず、裁判闘争）、こうして、不当解雇・組合分裂闘争は足掛け8年・2,828日におよび、ここに全面勝利し解決した
- 10. 2 第5回あいち食糧メーデー（港北公園）
- 10. 18 革新県政の会「徳田秋さんとともに県政革新をめざす県民のつどい」（市公会堂）
- 10. 27 「過労死をなくす集い」（名古屋過労死家族の会、過労死弁護団など主催、女性会館）
- 10. 29～11. 5 不況・リストラ県民共同（愛労連・愛商連など）「海外進出・東南アジアの旅」
- 11. 3 シンポ「JR7年の検証」（愛労連国鉄対策委・全動労東海地本共催）
- 11. 12～14 「94港湾シンポジウム（第17回）」名古屋港でひらかれた

[1994年]

- 11.13 「村山内閣退陣を要求する11.13国民大集会」(東京・代々木公園、10万人)
- 11.14 「高齢者福祉の充実めざす県民署名スタート集会」(保険医協会伏見会議室)
- 11.16 第42回・栄総行動、中電人権裁判地裁「証拠調べ」最終法廷
- 11.19～20 全国革新懇主催「地域革新懇・職場革新懇全国交流集会」犬山市でひらかれる(133地域・122職場、630人参加)
- 11.21 「鉄道フォーラム愛知」総会(県中小企業センター)
- 11.26～27 「'94日本のうたごえ全国交流会inあいち」(県勤労会館など)
- 12.3 第25回県消費者大会(名勤生協、愛商連など11団体共催、県中小企業センター)、緊急アピール「消費税率引き上げを許しません」を採択
- 12.4 第12回・トヨタシンポ(安城市民会館)
第9回「明日の名古屋を考える集い」(名古屋市職労主催、桜華会館)
- 12.8 国際人権シンポ「国際社会のなかでの日本の人権」、国連人権規約委員会専門委員エリザベス・エバットさんをむかえひらく(国際センター)
- 12.9 地労委民主化会議、シンポ「こんな差別が許されるか」をひらく、「差別労働行政の調査結果」を発表(市民会館)
- 12.10 愛労連「95国民春闘討論集会」
- 12.11 新婦人の会愛知県本部・第19回大会(サン笠寺、会員史上最高の2万人に達す)
- 12.14 「知事選勝利をめざす県民集会」(市公会堂)
- 12.21 運輸一般・アサノ運輸(企業解散・解雇)事件、名古屋地裁で和解解決(現職復帰できず、解決金を支払わせる)

【1995年】 ひろがる雇用不安のなかで、解雇規制、人べらし「合理化」とたたかう いっせい地方選挙・参議院選挙で「オール与党政治」への国民の審判

- 1.14 愛労連・第12回臨時大会(県勤労会館小ホール)
- 1.16 第15回・トヨタ総行動
- 1.17 阪神淡路大震災、各組合で救援活動、ボランティア派遣活動はじまる

[1995年]

1. 24 過労死事件における生命保険金の帰属をめぐる「布目組保険金請求事件」名古屋地裁で勝訴判決（保険契約の死亡保険金1000万円のうち400万円の支払いを命ずる判決）
1. 26 労働会館本館・竣工式
2. 5 愛知県知事選挙、革新県政の会・徳田秋候補、得票率15.2%（投票率32.38%、過去最低）
2. 10 「パルダン」（一宮市、刺繍用ミシン製造）が、製造部門51人を解雇すると発表、3.1 JMIU愛知支部パルダン分会結成、3.9 第2回団交で「指名解雇は撤回、会社再建は組合と協議」を言明させ、3.31 第6回団交で全員の職場復帰がきまり、撤回闘争は勝利した
3. 1 愛労連、労働会館第二会館（熱田区沢下町）へ移転
3. 4 日本労働弁護団、全国いっせいに「雇用調整ホットライン」、東海労働弁護団、これを機にホットラインを常設（4.11以降毎月第2火曜日）
3. 21 第15回・トヨタ総行動・国民春闘勝利をめざす県民集会（豊田市八幡公園）
4. 9 いっせい地方選挙（前半）、東京都、大阪の知事選挙で、「オール与党」が推した中央官僚候補が敗北、無党派候補が圧倒的支持を受けて当選、国民不在の悪政にたいする痛烈な審判、愛知県議選、自民党はじめて過半数を割る
4. 19 第43回・栄総行動
4. 27 ヒロシマ・ナガサキからのアピール署名、県民過半数（3,393,890人分）を達成、この署名が始まって10年、県内で16自治体が過半数を達成
4. 28 第66回メーデー前夜祭（若宮大通公園）
5. 1 第66回メーデー、名古屋・白川公園ほか7カ所
5. 3 愛知憲法会議、憲法施行48周年市民のつどい「50年目に問う戦後と憲法」
5. 9 「『解雇規制』緊急署名運動開始学習決起集会」（労働会館本館）
7. 1 「イコールライツ・イン名古屋」、裁判劇「憲法14条 あなたが裁判官！」を公演

[1995年]

7. 5 中電人権裁判（中部電力人権侵害・思想差別撤廃等請求事件）、
20年ぶりに結審（この間、原告90人のうち、3人が死亡、7人が定
年退職）

7. 7 最高裁第二小法廷、「『演説に来て下さい』これがどうして犯罪
か」と訴え続けてきた「総選挙弾圧たちばな事件」にたいして、
「上告棄却」・有罪（1992.11 名古屋高裁、罰金1万円・2人、8千
円、6千円）が確定

7. 23 第17回参議院議員選挙、史上最低の投票率（44.5%）・「オー
ル与党」政治への国民の審判

7. 31～8. 1 「被爆50年反核平和マラソン1,500キロ」
（7.28東京→8.5広島→8.8長崎）愛知県内を走る

8. 23 愛知県高齢者大会（1996年9月、第10回全国高齢者大会を愛知で受
け入れるため体制強化を申し合わせ）

8. 26 「出向・転籍・『雇用調整』を許さないシンポジウム」（主催
「健康と家庭を守る会」、協賛・愛労連、自由法曹団、労働問題研
究所、働くものの健康センター、労働会館本館）

9. 9～10 愛労連・第13回定期大会（中村区役所）

9. 10 第41回愛知母親大会（名古屋市勤労婦人センター・ワーピア鶴
舞）

【参考資料一覧】 1995年9月 1日現在

『戦後五〇年・年表で綴るあいちの労働運動』を作成するために参考にした「愛知労働問題研究所」が収集した資料はつぎのとおりです。

労働組合が編さんしたもの

<ローカルセンター>

『愛知産別会議小史』（愛知産別会議編集委員会 1959.11）

『愛労評25年譜』（1975.10）

『愛労評結成30周年記念 30年のあゆみ』（1980.11）

『愛知同盟20年のあゆみ 民主的労働運動の旗手として』（1984.11）

『10年のあゆみ 愛知統一戦線促進労働組合懇談会』（1986.9）

『労働組合運動の新しい流れをつくるー愛知統一労組懇「12年の歩み」』
(1988.6)

<単産地方組織>

『全国金属愛知地本 30年ー1974-1983の10年史』

『苦難を越えてここに生きる 全日自労建設一般愛知40年史』（1986.7）

『愛知国公二十年のあゆみ』（愛知国公労組共闘会議、1980.10.18）

『自治労愛知の32年』（1980.1）

『運輸一般愛知地方本部年表』（1988.1.10、10周年記念レセプション冊子）

『三十年のあゆみ』（愛知県医療労働組合連合会、1992.9.26）

『国労名古屋 運動・たたかい 前進30年 ー道けわしくとも団結の足音高

くー』(国労名古屋地本 1976.6)

『全自交愛知 四十年のあゆみ』(全国自動車交通労働組合愛知地方連合会、1986.10)

<地区労等>

『西尾地区労20周年史』(1976.6)

『30年のあゆみ』(瀬戸地方労働組合評議会 1985.10)

『名港労協 20年をふるかえる』(名古屋港湾関係労働組合協議会 1981.2)

<単組・支部等>

『わが十年史』(中部日本新聞労働組合 1957.4)

『わが二十年史』(中部日本新聞労働組合 1968.4)

『名鉄労組20年史 上 下巻』(1978.8)

『30年のあゆみ』(名古屋交通労働組合 1980.7)

『愛知製鋼知多労働組合20年略史』(1968.4)

『組合の軌跡ー創立30周年記念史』(愛知時計電機労働組合 1979.2)

『この道は限りなく 30年のあゆみ』(日本車両名古屋労働組合 1976.8)

『飛翔40年 大隈労働組合40年のあゆみ』(1986.2)

『結成40年 昭和21-61年』

(総評・全国金属労働組合名古屋螺子連合支部 1986.5)

『20年のあゆみ』(トヨタ自動車労働組合、1966.10)

『30年のあゆみ<1946-1976>』(豊田自動車工業労働組合、1976.3)

- 『労働組合二十年史』（豊田自動織機労働組合、1979.8）
- 『30年のあゆみ』（日本電装労働組合、1975.12）
- 『アイシン労働組合ー10年史』（1976.2）
- 『幸せもとめて 40年のあゆみ』
（全トヨタ労働組合連合会 全しろき労働組合 1986.10）
- 『新たな路へ 東海ゴム労働組合30年のあゆみ』（1985.11）
- 『住友軽金属労働組合四十年史』（1986.8）
- 『明日を礎く』（同盟三菱自動車工業労働組合名古屋自動車製作所支部、1976.10）
- 『《栄光と苦難》35年の思い出 中村合板労働組合解散記録』（1981.8）
- 『組合結成 三十年の歩み』（東洋プライウッド労働組合、1983.9）
- 『組合結成から解散 三十三年のあゆみ』（愛知中小労連・木産協、名古屋プライウッド労働組合、1984.8）
- 『わすれまい 心のはちまき』（石川合板労働組合、1988.6））
- 『組合の軌跡 永大産業労働組合30年の歩み』
（総評全国一般労働組合木材産業協議会 永大産業労組 1984.10）
- 『タクシーの未来をめざして 結成30年の歩み』（愛知県自動車交通労働組合、1993.）
- 『中電労組史 第1巻 戦後から昭和36年まで』（1978.6）
- 『中電労組史 第2巻 昭和37年から51年まで』（1979.12）
- 『中電労組史 第3巻 資料編 結成から昭和51年まで』（1981.3）
- 『東邦瓦斯労働組合史 30年の歩み』（1977.7）
- 『組合結成三十年のあゆみ』（名古屋証券労働組合 1984.12）
- 『組合の軌跡 三十年のあゆみ』（丸栄労働組合、1983.2）
- 『二十年の軌跡 分会結成20周年記念』（全労連全国一般愛知地本あいち支部 小太郎漢方製薬名古屋営業所分会、1994.10.29）

- 『組合三十年史』（東海銀行職員組合、1978.4）
- 『旭支部30年のあゆみ』（医労連・全国労災病院労働組合旭支部、1990.9.28）
- 『縮刷版 月刊きずな 60号記念』（愛知地域労組 きずな、1991.2）
- 『愛高教20年史』（愛知県高等学校教職員組合 1968.5）
- 『写真と証言で綴る愛高教40年誌』（愛知県高等学校教職員組合 1988.2）
- 『婦人の未来を切り開くために 愛高教婦人部の20年』（1986.5）
- 『名高教30年のあゆみ』（「高校教育なごや 4号・特集号」・
名古屋市立高等学校教員組合 1977.12）
- 『名高教40年の歩み』（「高校教育なごや 16号・特集号」・
名古屋市立高等学校教員組合 1990.2）
- 『愛教組30年史』（愛知教員組合編 1981.5）
- 『愛教組結成40年のあゆみ』（「愛教」号外N○22、1987.11）
- 『私教連運動の一層の飛躍的發展をめざしてー連合組織の機構と運営を改善するための方針（討議資料）』（資料：愛知私教連略年表）（1982.10）
- 『名城大学教職員組合の歩み』（1985.7 創立30周年記念）
- 『全建労東海地本のたたかい 全建労東海地本史』（1986.9）
- 『名古屋市職労組合史 結成から25年のあゆみ』（1973.2）
- 『われら自治体労働者 革新市政4年間の市職労の運動』（1978.2）
- 『現評 25年のあゆみ』
- 『いのちの重さを涙と笑顔のむこうに見つめて 福祉最前線・ホームヘルパーたちの実践記録（名古屋市職労現業評議会ホームヘルパー部会正職員化15周年を記念して）』（1989.11）
- 『われら清掃労働者 名古屋市職労清掃支部運動史』（1995.6）
- 『名水労のあゆみ その30年』
- 『自治体労働者の地域活動 地域活動の手引』（自治労名古屋ブロック）
- 『名古屋市労連のあゆみ 結成30周年記念』（1982.7）
- 『十年のあゆみ 自治労復帰十周年記念誌』（自治労春日井市職員組合 1979.5）

- 『岩倉市職十年のあゆみ』（1982.8）
- 『豊田市職労のあゆみ』（1981.5）
- 『新川町職労のあゆみ 10周年を記念して』（1980.10）
- 『豊橋市職労40年史』（1986.8）
- 『苦しみ たたかい そして前進 瀬戸市職労40年運動史』（1988.8）
- 『私たちの組合 稲沢市職労20年史』（1988.8）
- 『創立30周年記念誌』（江南市職員組合、1992.6）
- 『あゆみ 愛知県職員組合の40年』（1989.3）

争議・闘争記録など

- 『産業をまもる闘いの記録 大同製鋼の闘争』（大同共闘委員会 1949.8）
- 『あの日、あの時—七月会30周年記念資料集・国鉄労組名古屋支部機関紙など』（1979.7）
- 『中部電産の思い出（資料集）』（「中部電産史」編集委員会、1985.8）
- 『1958年 われらかく闘う』（紙パ労連・王子製紙労働組合 1959.5）
- 『愛知県における安保闘争 安保改定阻止愛知県民会議の活動』（名古屋歴史科学研究会 「歴史評論」1970.7）
- 『昭和36年に名古屋市宮タクシー株式会社に起きた紛争の経過と団体交渉の内容』（会社側の記録、1963.8）
- 『湯浅の首切り合理化を許すな 木材労働者の産業別統一闘争の前進のために（愛知県地方木材産業労働組合連合会編・労働旬報社、1968.11）』
- 『工場再開全員解雇撤回〃104日闘争記録〃』（愛木労・浅井プライウッド労働組合、1971.12）
- 『黙ってひきさがれない 東芝独占資本とのたたかいの記録』（全木労・朝日木工労働組合 1973.7）
- 『愛木労反合闘争中間報告』（愛労評反合共闘会議、1976.9）
- 『翔べ翔べ赤とんぼ 東洋プライウッド労働組合10年闘争の記録』（1978.8）
- 『会社更正法下の闘いの記録』（愛知中小労連愛木労・中村合板労働組合、1979.11）
- 『中村合板労働組合 解散報告書 更正計画の変更と自主廃業・全員解雇にいたる経過』（1981.5.13）
- 『東芝資本に抗して 破産反対闘争の記録』（愛知中小労連・旭木工労働組合、

1982.10)

『組合つぶし倒産とのたたかい 泣き寝入りはできない』(全国一般愛知中小労連朝日木工労働組合 1982.12)

『確信 独占丸紅包囲網の記録』(全金平野織機闘争支援共闘会議など 1983.5)

『倒産とのたたかい 全国一般半田合同朝日製油班のたたかいの記録』(総評・全国一般労働組合愛知地方本部、1966.)

『日本アクリル化学 組合事務所明け渡し訴訟の経過と現況』(総評全国一般労働組合日本アクリル分会、1981.12)

『日本アクリル化学 組合事務所明け渡し訴訟の5年半にわたる闘い』(総評全国一般労働組合日本アクリル分会、1982.2)

『政治活動の自由と権利を守るたたかい——10.21西川判決粉碎愛知県対策会議編』
(1969.11)

『1966—1977年 全日本検数協会不当解雇撤回闘争終結にあたり』(全港湾名古屋支部、争議団、1977.1)

『物語り 全検共闘25年史——激突の労使と港湾労働運動の断面』(1984.11)

『年々歳々五月の空の如く 東京新聞争議の十年』(東京新聞労働組合、1977.11)

『深き流れに挺して 不当解雇撤回4、300日闘争勝利記念』(運輸一般名鉄運輸支部、1978.1)

『日本法律争議解決たたかいの記録 企業倒産とたたかって1,195日』
(1985.6 総評全国一般愛知中小労連名古屋合同支部・日本法律研究出版分会)

『草の根は岩を砕いて 山下争議解決報告集(17年のあゆみ)』(山下分会支援共闘会議、1991.3)

『されど友は われ街角に立ち』(山下分会支援共闘会議・全商業労組山下分会、1988.8)

『税関マル生を告発する 差別実態と要求』(全税関労組名古屋支部、1976.6)

『中経新聞労働組合統一の経過について』(1989.)

『中京女子大学四教授 全面勝利の仮処分決定を勝ちとる』
(1986.12 中京女子大学教職員組合)

『中京女子大学仮処分勝利命令 1986.12. 名古屋地裁』(愛知私教連中京女

子大学闘争対策会議、1987.1)

『国民に誇れる私立大学にー中京女子大闘争と学問の自由・私立大学の自治』
(1988.5 中京女子大学不当等処分撤回闘争を支援する会)

『支援する会ニュース No.17』(中京女子大楽譜当初分撤回闘争を支援する会、
1990.3.31、「処分撤回和解交渉合意覚書」1990.3.1掲載)

『ものすげえー 運動だったなも 愛労連加盟を理由にした渡辺さんの労組除名
撤回運動の三年間(全港湾労組民主化の記録)』(渡辺除名処分を撤回させる
会、1994.11)

『取り戻そう 差別のない職場を!』(国労名古屋原告団、1989.1)

『中部電力人権侵害・思想差別撤廃等請求事件 訴状(1975.5)』

『黄色いゼッケン 中電人権裁判闘争の9年』

(中電人権侵害・思想差別撤廃の闘いを支援する会 1984.2)

『中部電力人権侵害思想差別撤廃等請求訴訟事件 陳述書(原告 後藤幸雄)』

『動かぬ証拠 中電の○秘資料 「連合」中電労組の本質』(中電人権裁判支援
共闘会議、1989)

『わたしたちはもっと働きたい 女子若年定年制・結婚退職とのたたかい』

(山種証券女子30歳定年制反対共闘会議 1967.12)

『人間のうた 配転・解雇に抗して11年』(山下君と家族を守る会 1973.12)

『石播・山下闘争の記録 不当配転＝解雇撤回闘争勝利的解決記念』(1975.9)

『闘いをふりかえって』(交告多恵子守る会、1970)

『解雇撤回闘争の総括』(大西を守る会、1971.3 岐阜相互銀行の組合員)

『コーワは佐々木君を名古屋工場へ戻せ』(1980、興和名古屋工場の労働者

『興和出向事件の解決報告書』(1980.9)

『丸紅の吉田さんに対する配転無効、賃金差別、不当労働行為撤回請求事件』

(丸紅の吉田さんを励ます会、1978.)

『ある商社マンの勇気あるたたかい〃隔離部屋〃からの告発 丸紅の不当配転、
賃金差別、家族加給不払いの撤回請求闘争』(1981.12、「丸紅の吉田さんを励
ます会」)

『丸紅の吉田人権闘争 隔離部屋から提訴した3年の闘い』(1981.6、「丸紅の
吉田さんを励ます会」)

- 『C B C闘争年表 1951～1982.5』（C B C争議団作成）
- 『C B C合唱団労組 闘いの経過 1964.3.25～1966.6.30』（C B C合唱団労組）
- 『C B C芸能団闘争経過 1951.4～1977.3』（元C B C合唱団労組、C B C管弦楽団労組、C B C争議団、作成）
- 『C B C管弦楽団労働組合経過』（1966.3 労働組合地裁対策委員会作成）
- 『名古屋テレビ争議全面解決のご報告』（民放労連名古屋放送労働組合、1983.5.10）
- 『大統領闘争 全面解決のご報告』（日本音楽家労働組合東海本部、1983.6.12）
- 『こんな解雇を許してたまるか！ ビルメン・第一建築サービスの新井さん不当解雇事件の経過報告』（1983.「新井さんを守る会」）
- 『ほむら 旭精機の差別と闘う6人』
（旭精機の差別と闘う6人を支援する会・旭精機人権闘争支援共闘会議 1973.12）
- 『炎群（ほむら） 就労請求権めざして闘う矢野正三君』
（旭精機の差別と闘う6人を支援する会・旭精機人権闘争支援共闘会議 1977.3）
- 『旭精機差別撤廃訴訟事件中間報告』（旭精機差別撤廃訴訟原告団、1978.1）
- 『勝利 旭精機人権侵害・思想差別撤廃訴訟勝利報告集』
（旭精機人権侵害・思想差別撤廃訴訟原告団 1987.6）
- 『とりもどせ人間性 日立とすべての職場に 日立賃金昇格差別事件愛知地労委申立書』（日立の賃金差別をなくす愛知提訴団、1992.11）
- 『愛知機械の不当解雇に抗して がんばる平田君に御支援を』
（愛知機械平田君を守る会 1975.12）
- 『青春よ 誇りたかく トヨタカローラ名古屋の不当解雇とたたかう』
（トヨタカローラ名古屋の不当首切り反対大平君を守る会 1979.3）
- 『工作機械のトップメーカー大隈の解雇通告 昭和51年3月16日』（大隈鉄工争議団）
- 『ドックからの歌声 1. 2 4集会記念特集』（石川島播磨の人件侵害を辞めさせる会、1987.5）
- 『働く喜びと 明日に誇りを』（東海銀行支援共闘会議、東海銀行から労基法違反と不当差別をなくす会、1991.12）
- 『（地労委への）申立書』（東海銀行から労基法違反と不当差別をなくす会、

1986.12.20)

『頭取が勝てなかった 11 人の銀行員 東海銀行・30 年の記録』 (1993.4)

『鈴鹿市山本裁判闘争 12 年の記録』 (1986.1)

山本和子『女はどうして 女性差別裁判を闘って』 (1987.12 風媒社)

『紙切れ一枚でほうり出されぬために 竹本油脂の首切りに抗して 11 年』 (森山君を守る会、1977.9)

『大企業「黒書」 愛知編 減量経営下における大企業の横暴と労資協調組合の役割』 (職場の自由と民主主義を守る愛知連絡会議 1981.12)

『みんなの要求、みんなで実現 栄総行動』 (栄総行動実行委員会、1983.9)

『愛知争議団連絡会議第 8 回総会議案書』 (1986.2.15-16)

『愛知争議団連絡会議第 9 回総会議案書』 (1987.3. 7- 8)

『愛知争議団連絡会議第 10 回総会議案書』 (1988.3.12-13)

『愛知争議団連絡会議第 11 回総会議案書』 (1989.3.11-12)

『中区争議団連絡会第 2 回総会議案書』 (1977.2.1)

『第 1 回差別と闘う仲間の全国交流会報告書』 (1987.12.5~6)

『第 2 回差別と闘う仲間の全国交流会報告書』 (1988.12.3~4)

『東海労働弁護団 20 年のあゆみ』 (1980.2)

『被告 大須事件の 26 年』

(大須事件被告団・大須事件被告を守る会全国連絡会 1978.6)

『愛知における不起訴闘争の経験と黙秘の重要性について』

(自由法曹団・日本国民救援会愛知県本部 1981.7)

民主団体・政党の編さんしたもの

『愛商連 30 年のあゆみ』 (愛知商工団体連合会 1982.5)

『人々が育ちあい子どもらが育ちあう 愛知に共同保育所ができて 20 年』

(1982.7 愛知共同保育所連合会)

『愛知県日ソ親善運動30年史』(日ソ協会愛知県連合会 1979.11)

『名演25年の歩み 1954-1979』(名古屋演劇鑑賞会 1979.7)

『名古屋第一法律事務所年表 1968-87』(1987.12)

『駆けつ転びつ 名古屋法律事務所20年のあゆみ』(1988.6)

『愛知憲法通信200号の軌跡』(1987.5 愛知憲法会議)

『わたしたちはあゆみつづける 第33回愛知母親大会の記録』(1987.)

『愛知県保険医協会三十年史一歩み編』(1980.6)

『愛知県保険医協会活動年史―「最近10年の歩み」と「40年の活動年表」』
(愛知県保険医協会、1990.6)

『愛知の社会保障運動の歴史』(愛知県社会保障推進協議会、1992.6)

『73名古屋市長選挙の記録 統一こそ勝利の力』

(あかるい革新名古屋市政をつくる会 1973.)

『77名古屋市長選挙の記録 市長とともに前進する革新なごや』

(清潔で豊かな市政をすすめる会

『1985年―名古屋市長選挙の記録 みんなの力を大きく④』

(1985.5 革新市政を守り発展させる会)

『名古屋が変われば日本が変わる! 89名古屋市長選挙の記録』

(1989.8.19 名古屋・革新市政の会)

『静かさへの闘い 名古屋新幹線公害訴訟全面解決までの道』

(名古屋新幹線公害訴訟原告団・弁護団 1987.3)

『92あいち・平和のための戦争展の記録』(あいち・平和のための戦争展実行委員会、1992.12)

『戦時下・愛知の諸記録(不完全データ) いまわかること・いまだにわからないこと 94』(あいち・平和のための戦争展実行委員会、1994.8)

『綱領討議資料 年表』(日本共産党愛知県委員会 1957.12)

『愛知の夜明けをめざして50年 たたかひの記録』(愛知民報社 1972.7)

『日本共産党の60年・都道府県版 愛知県』(「前衛」1984.9)

『愛知日本共産党物語』(愛知民放社、1993.2)

研究会・個人などが編さんしたもの

- 『愛知における戦後初期教育労働運動の研究
——「愛教労」の生成・発展・分裂——』
(伊藤影男、近藤正春、坪井由美 名大教育学部『教育論叢』第17号 1973)
- 『戦後愛知女性史年表 明日を生きるために』(愛知女性史研究会 1975.11)
『写真でつづる あいちの女性史』(愛知女性史研究会、1994.9)
- 『あいちの政治史』(中日新聞社会部編、1981.10)
- 『大企業労働組合の役員選挙』(愛知労働問題研究会、1986.4)

個人史・追悼集

- 『いしずえ』(愛知県社会運動物故者合同慰霊祭実行委員会 1958.8)
- 『愛知・物故者の記録 解放闘争のいしずえ』(愛知旧友の集い 1982.7)
- 『ある自由人の生涯 小栗喬太郎遺稿集』(1968.7)
- 『正義の人 天野未治』(1977.3)
- 『弁護士 泰方さんを偲ぶ』(1984.12)
- 『ひとすじに生きて 平田六郎』(1985.3)
- 『不屈 故田淵祐之先生追悼文集』(1987.5)
- 『長谷川民之助遺稿集 風雪に耐えて』(愛知旧友会 1987.10)
- 『山本信枝 道 ——ある反骨の女の一生』(ドメス出版 1988.8)
- 磯部しづ子『生きることを生きがいとして』(1989.8)
- 草川昭三『海洋にはばたけ——名古屋造船労働運動史』(風煤社 1975.6)
同 『人間回復への連帯——労働運動家の反省』(風煤社 1976.3)

中原東四郎『愛知の民主勢力と共に たたかひの先頭に立って17年』（1991.7）

成瀬昇『野武士のごとく 安保型人間の回想41年』（エフエー出版、1988.11）

成瀬昇『不屈 逆流に抗して革新の大義に生きる』（合同出版、1990.11）

愛知県・名古屋市が編さんしたもの

『愛知県労働運動史』 全4巻（愛知県）

第1巻 （昭和20－25年）

第2巻 （昭和26－30年）

第3巻 （昭和31－35年）

第4巻 （昭和36－40年）

『愛知県労働運動年表（稿）』（愛知県労政課）

第1分冊 （20－25年）

第2分冊 （26－30年）

第3分冊 （31－35年）

第4分冊 （36－40年）

『労政概要 昭和36年版』（愛知県労政課）

『愛知県労働経済の分析』（愛知県労働部）

昭和46～63年版 平成元、3、5年版

『愛知県地方労働委員会二十五年史』（愛知県地方労働委員会、1971.3）

『地方労働委員会40年史』（愛知県地方労働委員会 1986.2）

『地方労働委員会年報』 昭和52-55、57-59年版 平成2-6年版（愛知県地方労働委員会）

『愛知県昭和史 上、下』（愛知県 1973.3）

『愛知県警察史 第三巻』（愛知県警察本部、労働運動部分のプリント）

『なごやの女性の歴史 1975-1985』（名古屋市民生局 1987.3）

『名古屋の働く女性たち その歴史と未来』（名古屋市 1987.3）

愛知経営者協会が編さんしたもの

『愛知県経営者協会 10 年誌』 (1956.6)

『愛知県経営者協会 20 年誌』 (1966.6)

『愛知県経営者協会 30 年誌』 (1976.7)

「参考資料一覧」終わり

- (A.174) 《邓小平同志在重庆》
- (B.174) 《邓小平同志在重庆》
- (C.174) 《邓小平同志在重庆》

（一）第一版

労働組合、春闘、争議、最低賃金、生活扶助の50年

項目 年	労働組合の状況			春闘結果		争議発生状況		最低賃金		生活扶助基準額
	労組数	組合員数	組織率	妥結額	妥結率	件数	参加人数	日 額	時間額	
1945						56	160,985			303
1946						71	86,336			912
1947						87	116,491			4,100
1948						40	61,153			5,200
1949	958	269,290				90	171,389			5,370
1950										
1951	735	201,922				199	126,466			5,826
1952	730	199,151				191	121,573			7,200
1953	730	199,751				218	129,762			8,000
1954	1,126	281,284				126	103,948			8,234
1955	1,207	307,401	31.6			167	77,902			8,234
1956	1,241	324,076								
1957	1,311	352,911			4.5	114	138,488			8,234
1958	1,351	361,692		1,117	8.4	156	206,703			8,850
1959	1,421	379,487		1,126	6.1	157	153,670			9,071
1960	1,547	418,134	31.9	1,497	7.2	170	150,782			9,346
					11.0	328	269,179			9,621
1961	1,681	459,364		2,886		304	208,777			10,344
1962	1,871	514,908	36.9	2,265		209	95,127			12,213
1963	2,001	545,018		2,189	13.2	185	98,039			14,289
1964	2,107	574,151		2,993	14.1	194	92,963			16,147
1965	2,280	610,414	38.2	2,702	11.5	215	113,794			18,084
1966	2,410	636,080		2,832	10.7	286	129,825			20,662
1967	2,483	654,432		3,667	12.9	123	48,538			23,451
1968	2,508	681,318	39.0	4,663	14.5	246	101,336			26,500
1969	2,598	717,715		6,173	17.0	453	230,465			29,945
1970	2,694	733,466		8,543	20.5	260	102,521			34,137
1971	2,586	753,503	39.8	9,143	18.4	387	220,878			38,916
1972	2,927	760,912		9,416	16.3	350	203,925			44,364
1973	3,009	773,549		13,664	20.4	491	283,436	1,350	168.75	50,575
1974	3,098	794,492	37.5	23,306	32.4	999	430,925	1,730	216.25	60,690
1975	3,100	791,315	38.2	12,005	11.6	609	232,812	2,010	251.25	74,952
1976	3,111	782,945	36.8	9,730	8.5	491	208,832	2,204	275.50	84,321
1977	3,140	778,390	35.5	10,860	8.8	215	118,107	2,416	302	95,114
1978	3,120	777,079	35.6	8,062	6.0	232	95,864	2,567	320.38	105,577
1979	3,170	772,086	35.1	8,621	6.0	84	66,141	2,723	340.38	114,340
1980	3,202	777,269	34.2	10,537	7.0	116	83,302	2,913	364.13	124,173
1981	3,204	784,862	33.8	12,058	7.5	97	128,997	3,100	387.50	134,976
1982	3,201	788,495	33.6	11,678	6.8	76	77,047	3,266	409	143,345
1983	3,238	797,886	33.0	7,775	4.3	120	79,987	3,370	422	148,649
1984	3,237	790,898	32.0	8,305	4.5	87	49,937	3,473	435	152,960
1985	3,238	797,668	32.6	9,597	5.0	55	22,833	3,597	450	157,396
1986	3,232	805,187	31.3	8,651	4.3	41	12,474	3,704	463	126,977
1987	3,147	808,618	31.0	6,760	3.3	49	6,365	3,785	474	129,136
1988	3,158	816,991	30.5	8,697	4.2	37	4,577	3,897	488	130,944
1989	3,097	822,499	30.3	10,717	5.0	30	7,645	4,053	507	136,444
1990	3,117	833,737	29.9	12,709	5.8	41	24,830	4,246	531	140,674
1991	3,092	848,132	29.9	12,774	5.6	53	42,663	4,452	557	145,457
1992	3,111	866,598	29.1	11,660	4.9	40	27,230	4,638	580	149,966
1993	3,069	873,539	28.0	9,177	3.7	59	13,466	4,782	598	153,265
1994	3,050	879,932	28.2	7,167	2.9	52	41,663	4,897	613	155,717
1995				6,490	2.6					157,274

※春闘結果は額・率ともに単純平均

※生活扶助基準額は、1960年までは1級地標準5人世帯（64歳男、35歳女、9歳男、5歳女、1歳男）、1961年から1985年までは1級地標準4人世帯（35歳男、30歳女、9歳男、4歳女）、1986年以降は1級地標準3人世帯（33歳男、29歳女、4歳子）である。1987年以降は1級地－1である。

『戦後五〇年・年表で綴る
あいちの労働運動』

編・発行/ 愛知労働問題研究所
〒456 名古屋市熱田区沢下町
9番3号 労働会館本館304

電話・FAX 〈052〉 883 - 6978
1995年9月1日

印刷 愛知県高速オフセット
印刷協同組合
名古屋市熱田区波寄町20-14

頒価 2,000円

